

近江八幡市の文化振興
(令和5年度版)



(アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業・外壁ワークショップ)

令和6年3月

近江八幡市

目 次

第 1 章 文化振興基本計画の概要

- 1. 文化振興基本計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 文化振興基本計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3. 計画の進行管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4. 事業評価方法について(事後評価)・・・・・・・・・・・・ 5
- 5. 事業一覧(令和 4 年度実施事業)・・・・・・・・・・・・ 6

第 2 章 事業評価報告

- 1. 事業評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 2. 事業実施状況(令和 4 年度)・・・・・・・・・・・・ 2 6

(参考資料)

- 1. 近江八幡文化振興条例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 9
- 2. 令和 5 年度近江八幡市文化振興審議会委員名簿・・・・・・・・ 6 2
- 3. 令和 5 年度近江八幡市文化振興基本計画
進捗管理プロジェクト委員名簿・・・・・・・・・・ 6 3

第1章 文化振興基本計画の概要

1. 文化振興基本計画について

現代社会は、価値観の多様化やグローバル化、少子高齢化や高度情報化の進行、環境問題の深刻化や自然災害の多発など、人々の暮らしや都市を取り巻く状況は大きく変化し、先行き不透明な時代といわれています。また、新型コロナウイルス感染症の流行は我々の行動変容を余儀なくし、新しい生活様式を生み出しました。こうしたなか、人々はこれまで以上に、単なる物質的な豊かさだけでなく、精神的なゆとりや豊かさを求め、文化に対する関心を寄せています。生きがいのある市民の暮らしと温かいふれあい、豊かな地域社会の形成に、近江八幡市の文化特性を活かしていくことがますます期待されています。

国の動きとしては、平成13年に文化芸術政策の指針を定めた「文化芸術振興基本法」が制定されました。また平成24年には、実演芸術の水準向上を図った「劇場・音楽堂等活性化法」が成立し、公共劇場の使命を、教育機関、福祉機関との連携、地域コミュニティの活性化などに求めています。さらに、平成29年に「文化芸術振興基本法」が改正され成立した「文化芸術基本法」は、文化芸術そのものの振興に加え、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など関連分野の政策と有機的に連携させることなどを盛り込みました。また同時に、社会包摂の概念を提示し、共生社会形成に向けた方法を示しており、このことは平成30年の「障害者文化芸術活動推進法」成立にもつながっています。

本市では、合併前の旧安土町において、昭和60年3月に「安土町文化条例」が制定され、また、旧近江八幡市においては、平成19年3月に「近江八幡市文化振興基本計画」が策定され文化施策を推進してきました。

合併後の平成26年3月には、「近江八幡市文化振興条例」が制定され、文化の振興に関する基本理念を定め、市および市民の役割を明らかにするとともに、文化の振興に関する施策の基本となる事項を定めることにより、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、個性豊かで活力ある地域の文化生活に寄与することとしています。

この条例に基づき、平成28年3月に、平成28（2016）年度から令和7（2025年度）までの10年間を計画の期間とする『近江八幡市文化振興基本計画』を策定しました。文化振興基本計画では、本市の有する多様な文化資源を活かして豊かな文化的都市景観を形成しながら、歴史的文化遺産を守り、地域産業の振興や文化活動の担い手の育成に資する、4つの基本理念を掲げ、その理念に基づき6つの基本方針を定めています。

2. 文化振興基本計画の体系

近江八幡市文化振興基本計画

基本目標

基本施策

具体的取り組み

Ⅰ 文化的都市景観の形成

(第14条)

1. 文化的な環境・景観の
保全と継承

① 環境保全対策
② 風景計画

2. 歴史、文化と調和のとれ
たまちづくり

① 歴史・文化環境の保存・整備
② 食文化の継承と振興
③ 地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進

3. 地域文化の継承と発展

① 地域に根ざした文化活動の継承と活用
② 歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用
③ 伝統文化の担い手の育成
④ ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり

Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承

(第7条、第11条)

1. 伝統文化の保存と継承

① 歴史的遺産、伝統文化の継承と発展
② 豊かな自然環境の活用
③ 人的資源の発掘と連携

2. 文化財の保存と活用

① 伝統的建造物群保存地区の保存・活用
② 無形文化財の保存
③ 埋蔵文化財の保護・保存と活用
④ 市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進
⑤ 体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実

Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

(第10条、第12条)

1. 文化交流の促進

① 海外の姉妹都市との文化交流の促進
② 夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進

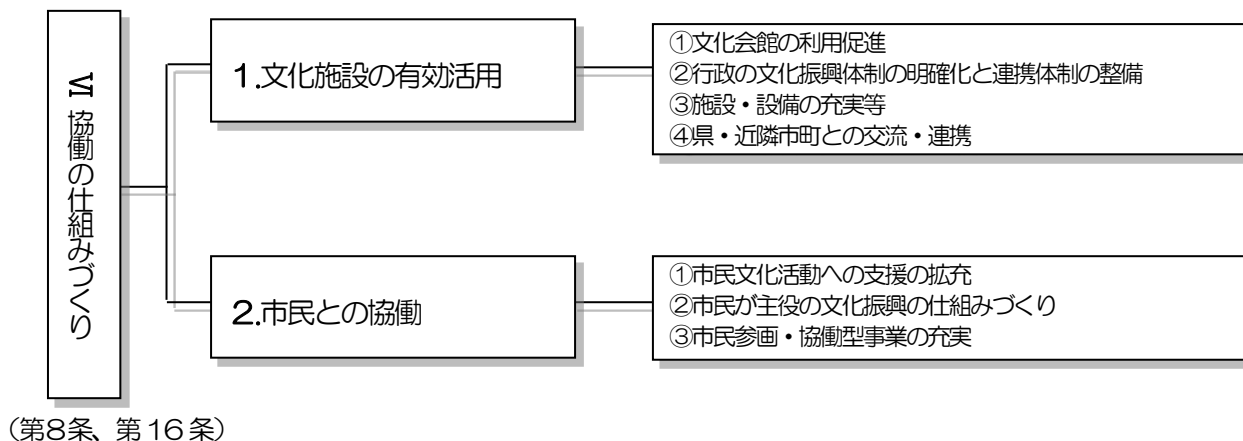
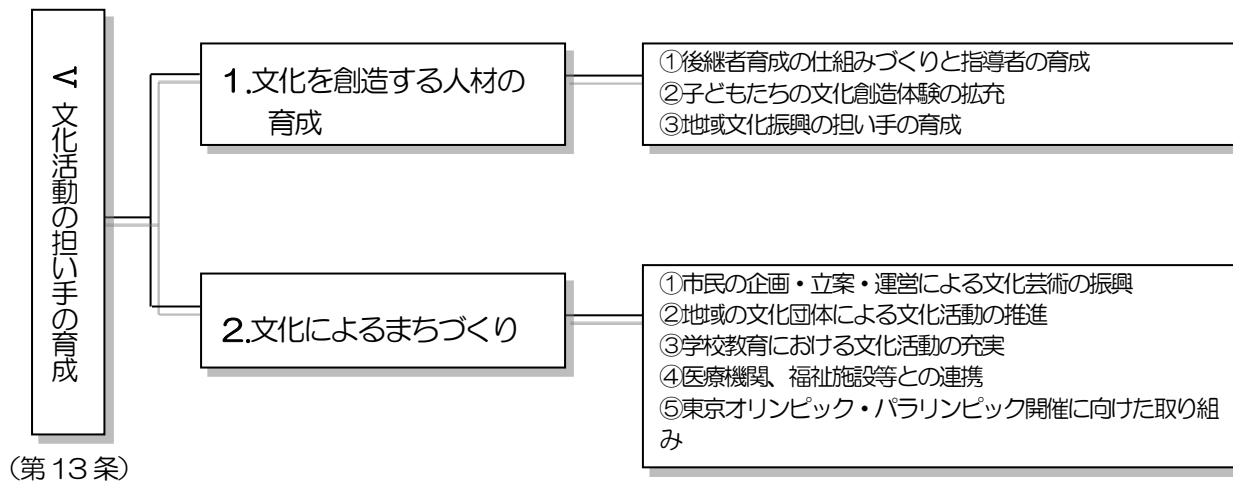
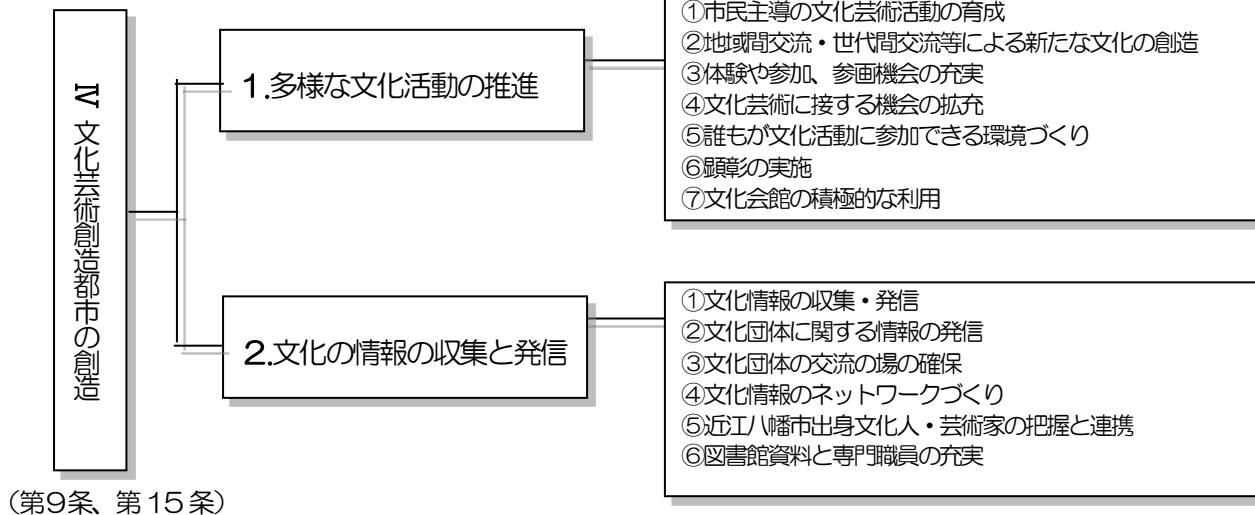
2. 地域資源を活かした産業
や観光の振興

① 近江八幡版 DMO の推進
② 西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進
③ 沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み
④ 市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進

基本目標

基本施策

具体的取り組み



3. 計画の進捗管理

近江八幡市文化振興基本計画の推進にあたっては、市や市民、文化団体、地域団体、文化人、アーティスト等それぞれによる主体的かつ活発な活動を促進しながら連携を図り、協働によって取り組んでいきます。

また、市の文化施策については、個別事業の進捗管理を中心に、関係各部局間が連携・調整を図り、効率的・体系的に施策を推進するものとし、「評価・検証・審議」を通して、文化振興基本計画との整合性を図りながら、文化振興推進のための施策を総合的に展開していきます。このため、次の組織により計画の実効性を高めていくこととしています。

【文化振興審議会】

学識経験者、文化振興に関して識見を有する市民等で組織し、本市における文化施策全般についての審議を行う「文化振興審議会」において、社会情勢等も踏まえた幅広い視野や観点から、文化振興基本計画の各施策・事業の進捗管理や評価、事業提案等を行います。

【文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会】

市の文化関連事業実施課職員の中から構成する、計画の進捗管理を行うための委員会で、各課が実施した文化関連事業について点検・評価を行います。

【庁内体制および事務局】

市の総合政策部文化振興課に文化振興審議会および文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会の事務局を置き、庁内関係各課との連絡調整を行い、文化振興関連施策の進捗管理や点検評価について企画調整を行います。

4. 事業評価方法について（事後評価）

文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会では、市の文化関連事業実施課が前年度に実施した事業について自己評価した結果を客観的に点検・評価し、文化振興基本計画の基本施策から見た事務事業評価を行いました。また、プロジェクト委員会で評価した結果を、文化振興審議会で幅広い観点から審議し、その結果を取りまとめました。

【基本施策からみた事業評価】

文化振興基本計画では、4つの基本理念に基づき6つの基本目標を設定しています。基本目標にはそれぞれ基本施策と具体的取組があり、これらの体系に基づき各事業は実施されていますが、基本施策の立場から事業の貢献度、進捗状況等を評価し、文化振興の面から見た事業間の優先度を判定し総合的に評価しました。

プロジェクト委員会および文化振興審議会では、基本施策として各事業から相対的に力を入れて取り組む必要がある事務事業を重点事業（今年度は「文化振興の中核を担う社会教育施設に関連する事業」を抜粋）として評価し、その結果を記載しています。なお、未選出事業であっても、今後、事業縮小、廃止を検討する性格の評価ではありません。

※事業評価結果は、最終的に市の方針として決定されるものではありませんが、市として現状をふまえ、今後どのように取り組むべきか方向性を見出すための重要な情報として位置付けています。したがって、市ではこの情報を事業実施課が有効に活用し、文化振興基本計画との整合に努めるものとします。

基本理念

- ◆ 文化活動を行うことが市民の権利であることに鑑み、市民が等しく文化活動に参加できる環境の整備が図られなければならない。
- ◆ 市民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重されなければならない。
- ◆ 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
- ◆ 先人たちの営みによって築かれた文化が市民共有の財産としてわかちあわれ、次代に引き継がれるよう配慮されねばならない。

5. 事業一覧（令和4年度実施事業）

基本目標	基本施策	具体的取組	No.	事業名	担当課	文化の区分（※）	重点事業
Ⅰ 文化的都市景観の形成	1. 文化的な環境・景観の保全と継承	①環境保全対策	1	びわ湖を美しくする運動	近江八幡市水産協議会（事務局：農業振興課）	都市文化（環境）	
			2	伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	●
			3	環境保全対策事業	環境課	都市文化	
	2. 歴史、文化と調和のとれたまちづくり	②風景計画	4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	都市文化（景観）	
			5	河川管理事業	管理調整課	都市文化（環境）	
		②食文化の継承と振興	6	選択無形文化財保存事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	都市文化	
			8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	市民文化 都市文化	
	3. 地域文化の継承と発展	③地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進	9	安土文芸の郷指定管理事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化 都市文化	●
			10	ふるさと文化育成事業（地域まちづくり支援交付金事業）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化 都市文化	●
		①地域に根ざした文化活動の継承と活用	11	文化団体活動支援事業	文化振興課（文化振興G）	市民文化 都市文化	
			12	人生伝承塾	生涯学習課	都市文化	●
		②歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用	再	選択無形文化財保存事業（6の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			再	学校給食「はちまんの日」の実施（8の再掲）	学校給食センター	市民文化 都市文化	
Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承	1. 伝統文化の保存と継承	①歴史的遺産、伝統文化の継承と発展	14	茶道体験	幼児課	市民文化（生活）	
			15	図書館運営事業（地域資料のデジタル化）	図書館	都市文化	
			16	安土城天主信長の館 自主文化事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化 都市文化	
		②豊かな自然環境の活用	17	西の湖ヨシ灯り展の開催支援	環境課	都市文化	
			再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都市文化	（●）
	2. 文化財の保存と活用	①伝統的建造物群保存地区の保存・活用	再	伝統的建造物群保存地区保存事業（2の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	（●）
			18	ライティングプロジェクト事業	観光政策課	都市文化（景観）	
		②無形文化財の保存	19	指定文化財保存事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	
			20	埋蔵文化財発掘調査事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	●
		③埋蔵文化財の保護・保存と活用	21	市史編纂事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			22	旧伊庭家住宅施設維持管理事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			23	歴史文化資産普及啓発事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
Ⅲ 文化交流と地域産業の振興	1. 文化交流の促進	①海外の友好都市との文化交流の促進	24	国際交流事業	まちづくり協働課	都市文化	
			25	朝鮮通信使関連推進事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	●
		②夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進	26	広域観光および友好都市交流事業（富士宮市親善訪問）	観光政策課	都市文化	
			27	夫婦都市児童相互交流事業	学校教育課	都市文化	
	2. 地域資源を活かした産業や観光の振興	①近江八幡版DMOの推進	28	観光ブランディング事業	観光政策課	都市文化	
			29	沖島離島振興事業	企画課	市民文化 都市文化	●
		②西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進					
		③沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み					
		④市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進	30	VR安土城事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	

市民文化 … 市民が創出する文化。年齢、性別、国籍や体力・障がいの有無にかかわらず、すべての人にアートに触れる権利があり、その権利を保障していこうとするもの。公平・平等・緻密がコンセプト。大きく分けて茶道、華道その他生活に係る生活文化と、音楽や美術等の芸術文化がある。

都市文化 … 単なるハードとしての空間設備や環境整備だけでなく、総体として（八幡堀、安土城跡等の）観光資源なども含む。人間同士のつながりを重視し選択的・集中的戦略的に行うべき政策。環境形成に関するもの、景観形成に関するものなどがある。

基本目標	基本施策	具体的取組	No.	事業名	担当課	文化の区分(※)	重点事業
Ⅳ 文化芸術創造都市の創造	1. 多様な文化活動の推進	①市民主導の文化芸術活動の育成	再	文化団体活動支援事業（１１の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
		②地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造	31	多文化共生推進事業	まちづくり協働課	都市文化 市民文化	●
		③体験や参加、参画機会の充実	再	茶道体験（１４の再掲）	幼児課	市民文化（生活）	
			32	市民文化祭共催事業	文化会館	市民文化	
			33	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化	
			34	音楽振興事業	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
			35	ブックスタート事業	図書館	市民文化	
			36	図書館運営事業（おはなし会）	図書館	市民文化	
			37	図書館運営事業（ブックトーク）	図書館	市民文化	
			38	図書館運営事業（図書館見学）	図書館	市民文化	
			39	図書館運営事業（職場体験等）	図書館	市民文化	
			40	本のまち！動く図書館事業	図書館	市民文化	●
		④文化芸術に接する機会の拡充	再	茶道体験（１４の再掲）	幼児課	市民文化（生活）	
			41	文化会館自主文化事業	文化会館	市民文化	●
			42	中央公民館講座	生涯学習課	市民文化	
			43	市民大学講座	生涯学習課	市民文化	
			44	やよいコンサート	総合医療センター総務課	市民文化（音楽）	
			45	絵画展示	総合医療センター総務課	市民文化（美術）	
			46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	市民文化 都市文化	
			47	図書館運営事業（歴史講座、コンサートの開催）	図書館	市民文化	
			再	安土文芸の郷指定管理事業（９の再掲）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化	（●）
			48	関連施設における自主事業（資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史跡安土城跡ガイダンス施設）	文化振興課（指定管理）	都市文化 市民文化	
			49	関連施設における自主事業（安土城郭資料館、白雲館）	観光政策課（指定管理）	都市文化 市民文化	
			50	市美術展覧会	文化振興課（文化振興G）	市民文化（美術）	●
		⑤誰もが文化活動に参加できる環境づくり	51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	市民文化	
			52	人権尊重のまちづくり市民講座	人権・市民生活課	市民文化	●
			53	人権尊重のまちづくり推進員事業	人権・市民生活課	市民文化	
			再	市民文化祭共催事業（３２の再掲）	文化会館	市民文化	
			54	図書館運営事業（貸館）	図書館	市民文化	
			55	文化会館管理事業（貸館）	文化会館	市民文化	
			56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	市民文化	
			57	市民共生センター運営事業（地域共生型サークルづくり）	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	
			58	市民共生センター運営事業（ふくふくフェスタ）	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	
		⑥顕彰の実施	59	子ども文化芸術賞	文化振興課（文化振興G）	都市文化	●
		⑦文化会館の積極的な利用	再	文化会館自主文化事業（４１の再掲）	文化会館	市民文化	（●）
	2. 文化の情報収集と発信	①文化情報の収集・発信	60	広報事業	秘書広報課	市民文化	
			61	読書活動推進事業（館報、ホームページ）	図書館	市民文化	
			62	ヴォーリス建築文化ネットワーク	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	●
			63	マナビィ通信	生涯学習課	市民文化	

基本目標	基本施策	具体的取組	No.	事業名	担当課	文化の区分(※)	重点事業
Ⅳ 文化芸術創造都市の創造	2. 文化の情報収集と発信	②文化団体に関する情報の発信	64	広報活動	各学区まちづくり協議会(まちづくり協働課)	市民文化	
			65	文化団体機関紙発行(文化団体活動支援事業)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
		③文化団体の交流の場の確保	再	市民文化祭共催事業(32の再掲)	文化会館	市民文化	
Ⅳ 文化芸術創造都市の創造	2. 文化の情報収集と発信	④文化情報のネットワークづくり	再	各学区文化祭(33の再掲)	各学区まちづくり協議会(まちづくり協働課)	市民文化	
			再	観光プランディング事業(28の再掲)	観光政策課	都市文化	
		⑤近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携	再	人生伝承塾(12の再掲)	生涯学習課	都市文化	(●)
		⑥図書館資料と専門職員の充実	66	読書活動推進事業(資料収集)	図書館	市民文化	
			67	読書活動推進事業(雑誌スポンサー)	図書館	都市文化	
Ⅴ 文化活動の担い手の育成	1. 文化を創造する人材の育成	①後継者育成の仕組づくりと指導者の育成	68	いきいき職員育成事業	総務課	都市文化	●
			69	バイブオルガン奏者育成事業	文化振興課(安土町文芸の郷振興事業団)	都市文化 市民文化(音楽)	
		②子どもたちの文化創造体験の拡充	70	青少年美術展覧会	学校教育課	市民文化(美術)	
			71	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業	文化振興課(文化振興G)	市民文化	●
			再	音楽振興事業(34の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
		③地域文化振興の担い手の育成					
	2. 文化によるまちづくり	①市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興	再	図書館運営事業(貸館)(54の再掲)	図書館	市民文化	
			再	文化会館管理事業(貸館)(55の再掲)	文化会館	市民文化	
			再	文化団体活動支援事業(11の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
		②地域の文化団体による文化活動の推進	再	文化団体活動支援事業(11の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
			再	各学区文化祭(33の再掲)	各学区まちづくり協議会(まちづくり協働課)	市民文化	
		③学校教育における文化活動の充実	再	人生伝承塾(12の再掲)	生涯学習課	市民文化	(●)
			再	図書館運営事業(ブックトーク)(37の再掲)	図書館	市民文化	
			72	図書館運営事業(学校図書館活用支援事業)	図書館	市民文化	
			再	音楽振興事業(34の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化(音楽)	
		④医療機関、福祉施設等との連携	再	やよいコンサート(44の再掲)	総合医療センター総務課	市民文化(音楽)	
			再	絵画展示(45の再掲)	総合医療センター総務課	市民文化(美術)	
			73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課(市民共生センター)	市民文化	●
		①文化会館の利用促進	再	市民文化祭共催事業(32の再掲)	文化会館	都市文化	
Ⅵ 協働の仕組みづくり	1. 文化施設の有効活用	②行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備	74	近江八幡市文化振興審議会	文化振興課(文化振興G)	都市文化	
			75	文化振興基本計画進捗管理	文化振興課(文化振興G)	都市文化	
		③施設・設備の充実等	76	図書館施設維持管理事業	図書館	都市文化	
			77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課(市民共生センター)	都市文化	
			78	文化関連施設維持管理(指定管理施設)	文化振興課(指定管理)	都市文化	
			79	文化関連施設維持管理(文化会館)	文化会館	都市文化	
			80	文化会館整備事業	文化振興課(文化振興G)	都市文化	
			81	文芸セミナリヨ等長寿命化整備事業	文化振興課(文化振興G)	都市文化	●
		④県・近隣市町との交流・連携	82	信長サミット	観光政策課	都市文化	
			83	広域観光および友好都市交流事業	観光政策課	都市文化	
			再	ヴォーリス建築文化ネットワーク(62の再掲)	文化振興課(文化財保護G)	都市文化	(●)
	2. 市民との協働	①市民文化活動への支援の拡充	再	図書館運営事業(貸館)(54の再掲)	図書館	市民文化	
			再	文化団体活動支援事業(11の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
			84	文化関連事業に対する後援	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
		②市民が主役の文化振興の仕組みづくり	再	図書館運営事業(貸館)(54の再掲)	図書館	市民文化	
			再	文化団体活動支援事業(11の再掲)	文化振興課(文化振興G)	市民文化	
		③市民参画・協働型事業の充実	85	広聴事業 未来を築く提言	秘書広報課	市民文化	
			86	図書館資料リサイクル	図書館	都市文化	
			87	近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業	障がい福祉課(市民共生センター)	都市文化	●

87事業+再掲31事業=118事業

第2章 事業評価報告

1. 事業評価結果

基本目標Ⅰ 文化的都市景観の形成

市は、文化及び自然に配慮し、周囲の自然環境及び地域の歴史的景観と調和のとれた都市景観の形成に努めるものとします。

基本施策１．文化的な環境・景観の保全と継承（都市文化政策）４事業

近江八幡市の魅力ある風景を守り、次世代に引き継ぐことにより、文化的な環境・景観づくりに努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①環境保全対策		1	びわ湖をきれいにする運動	近江八幡市水産協議会 （農業振興課）	都
	● ◎	2	伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業	文化振興課	都
		3	環境保全対策事業	環境課	都
②風景計画		4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.2 伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業>

- 景観保全のためには、継続した修理・修景が必要となるが、世代が代わるにつれ、伝統的建造物群保存地区（以下、伝健）の目的や意識が薄れ、維持していくことが難しく空き家が増えている。
- 重要文化的景観にしても、伝建にしてもその価値を理解してもらわないと維持していくのは難しいのではないかな。
- 伝健地区内の修理・修景には一部ふるさと納税を活用しているものの、所有者にも経済的に負担もある。
- 周辺住民の理解は必要となるが、空き家を民宿や店舗、イベント会場などに利用することで価値を高めて、歴史的な建築物の維持に繋がればよいと思う。
- 空き家で店舗やイベントを実施してもらうことで、収益が増えれば、その収益を建物の維持管理にも繋がれば、よい循環ができるのではないかな。また、そのような事例が今後増えればよいと思う。
- 民家としては、住みにくいが、民宿や店舗として活用することで、地域が活性化に繋がるのではないかな。
- 行政だけでなく、歴史的な建物を活用して商売をしたいと思っている業者も巻き込めればよいと思う。所有者と業者を結ぶのも行政の役割ではないかな。
- ヨシ地は定期的な管理が必要であるが、担い手不足が課題である。
- ヨシ灯り展のようなヨシを使ったイベントやワークショップを開催することで、もっと身近に感じられる機会が必要だと思う。
- ヨシを使った商品として、ストローやうどん、すだれなど多くあるが、あまり知られていない。もっと認知してもらう必要があるのではないかな。
- 駅前に「ヨシの町」と分かるようなオブジェがあれば、訪れた人にも認知していただけるのではないかな。

基本施策2. 歴史、文化と調和のとれたまちづくり（都市文化政策・市民文化政策）5事業

創造性豊かな地域の特色ある資源の活用は、地域の魅力的なまちづくりにつながります。このため、地域固有の文化資源を掘り起こすとともに、伝統に基づく食文化やものづくり技術などを活用することなどにより、歴史・文化環境と調和のとれたまちづくりにつなげていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①歴史・文化環境の保存・整備		5	河川管理事業	管理調整課	都
		6	選択無形文化財保存事業	文化振興課	都
②食文化の継承と振興		7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	都
		8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	市都
③地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進	● ◎	9	安土文芸の郷指定管理事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見
<p><No.9 安土文芸の郷指定管理事業（ワンコインコンサート）></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文芸の郷が乳幼児向けの事業をしていることを知らなかった。広報の仕方を考えていかれたらと思う。もししたら市役所庁内の方もこういったことをしているとというのが知らない方もいるかもしれないので、もっと発信していたければ、子どもの頃から音楽であったり、歴史を学べる機会が増えるのではと思う。 ● 実際に来られている子どもたちは本当に吸収しているだろうと感じている。もっと来てもらえれば良いと思う。 ● 各事業が定着しており、リピーターの数が多いため、新規の方の参加できる幅ができればと思う。 ● ワンコインコンサート高齢者の方も多く参加されており、それはそれでよいが、もう少し乳幼児に絞ってもよいのでは。 ● 図書館のお話会にチラシを置くなど連携ができないだろうか。 ● 土曜日の午前中は父親がいるため、平日にちょっと行けるものがあればなおよかったと思う。また、夏休み等の長期休みに開催されるとよいのでは。 ● 入場料がワンコインは破格の値段設定だと思います。事業も十分周知されていると思いますのでぜひ今後も継続して実施していただきたいです。 <p><No.9 安土文芸の郷指定管理事業（はつらつコンサート）></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者の方も気軽に参加できているのがよい。 ● 平日の事業でなかなか行われているのがわからないため、もっと参加しやすい仕組み作りがあればよいのでは。 ● 入場者の皆様にアンケートを取り今後鑑賞したいコンサート内容等を集計し上位何位かのコンサート内容等を実施する人気投票のような企画もよいかと思いました。 <p><No.9 安土文芸の郷指定管理事業（クラシックコンサート）></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が50代の方が中心であり、若い世代の方の参加が少ない。託児所等もなく敷居が高くなっているのでは。

- パイプオルガンは県内のホールでここだけにあるものであり、ホールの特徴でもあり、継続して続けていってもらいたい。
- 県内で唯一パイプオルガンを所有している施設ということを活かし、パイプオルガンの仕組みや内部を実際に見てもらふ事業等を実施されてもよいかと思いました。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（共催事業）>

- コロナ禍から脱却の影響だと思いますが、共催をはじめとする事業実施が全国的に活性化してきたと肌で感じます。今後実施可能な事業が増えてくるとと思います。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（歴史講座）>

- 市内中学・高校に校外学習の一環として連携を図ってみてはどうでしょうか。
- ◎ 歴史講座について、文芸の郷では実施されていなかったが、文化協会では、毎年、企画して実施している。近江八幡市全体の取り組みとして歴史講座を評価するのであればこれでは不十分ではないか。歴史講座については、もっと市が積極的に関わっていくべきではないか。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（参加型事業）>

- ミュージックフェスティバルは、子どもがホールで発表する機会を設けており、よいのではないか。
- 本事業では参加する出演者のつながり強化が期待できると思います。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（リトミック教室）>

- 既に実施されていたら申し訳ありませんが、参加者の皆様に参加したいと思う内容をアンケート実施するとニーズの発見につながるかと思います。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（能楽教室）>

- 希少な事業であるが、習った成果を一般の方に広く発表されたりが少ないように感じる。施設の活性化に繋げるように、何らかの発表の機会を設けていけばよいのでは。
- 希少性の高いということを逆手にとり、その希少性があるということ、誰でも参加できるということをアピールすることが周知の第一歩になると思います。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（貸館）>

- 利用者が安心・安全に使用できるよう改修の実施をしていただくよう希望します。

基本施策3. 地域文化の継承と発展（市民文化政策・都市文化政策）6事業（内再掲2事業）

私たちは地域の独自のすばらしい文化の中で暮らしています。世代を越えて受け継がれてきた地域文化を絶やすことなく後世へ伝え広げるとともに、新たな文化の創造へつなげていくことが重要です。このため、郷土の偉人を顕彰するとともに、地域に根ざした文化活動を支援し、地域性豊かな市民文化の振興に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①地域に根ざした文化活動の継承と活用	●	10	ふるさと文化育成事業（地域まちづくり支援交付金事業）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市都
	◎	11	文化団体活動支援事業	文化振興課	市都

②歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用	●	12	人生伝承塾	生涯学習課	都
③伝統文化の担い手の育成		再	選択無形文化財保存事業（6の再掲）	文化振興課	都
④ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり		再	学校給食「はちまんの日」の実施（8の再掲）	学校給食センター	市都
	●	13	やまのこ・たんぼのこ体験学習	学校教育課	都市

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.10 ふるさと文化育成事業（地域まちづくり支援交付金事業）>

- デジタル化も含めて横の連携をとって進めてもらえればよいと思う。
- 武佐や北里、岡山などでは歴史、文化に関して特徴ある取り組みを進められている。
- 歴史文化については、新興地の多い学区では防災等が中心となり、歴史文化の話が俎上に上がりにくいと聞いている。その中で歴史文化について少しでも取り組みを進めてもらえればと思う。
- 桐原では、健康推進課と連携し学区内の歴史ウォーキングマップを作られている。
- 一般の市民はコミセンとかまち協が身近な場所のため、新規に入って来た人が地域の歴史を学ぶにはまち協に頑張ってもらいたい。
- 地元の人たちが見聞きしてきたことがなかなか残っていなくて、市史とかまでいなくても、小さな小さなこわいわれているらしいでとか、この道はこういういわれがあるとか、この人が亡くなったら絶えてしまうというようなものがある。一部コミセンで残されているものもあるが、こういうものをまち協で残してくれるとありがたいと思う。安土だと昔話を2冊残してくれている。
- 文化財の窓口をしていると、自分で調べたことを楽しそうに話されることがあるが、そういうものは文字になっていないので、文字にならないと残せないのかと思う。新規世代が入って希薄化する中でまち協で残して欲しい。
- 夏休みに歴史を調べてきましたというのがたくさんあるのに、終わったら燃やされてしまうということもあり残念な状況である。例えば、夏休みが終わった後にまち協で飾ってもらうなど、まち協と連携できればと思う。
- 老蘇や下豊浦でしているようなふるさと絵屏風までいなくても、ちょっとしたものが残ればよいと思う。
- 子どもの自由研究を集めて、展示されるとかあれば面白いと思う。
- 本事業は、地域のつながりの強化にも寄与できると思いますので、ぜひ継続して実施していただきたいです。

◎ 地域まちづくり支援交付金は、各学区のまちづくり協議会（以下、まち協）の大きな財源になっている。それぞれの学区のまち協が自分たちのところの特徴を活かした事業を展開しているが、まだまだ人を集めることが目的となり、何人集まったとかイベント的な部分の評価に走っている傾向が多い。これからの時代は地域に出向いたり、出前的な形で皆さんに自分のたちの故郷を語ってもらうことが必要ではないか。実際に昔の遊びや生活習慣を絵屏風に残して、後世に伝えるような取り組みを実施しているところもある。今後もそのような取り組みが実施できるように講習会や講演会など指導力に力をいれたい。

＜No.12 人生伝承塾＞

- 講師の依頼される回数が授業の内容によって、まちまちであり、学校側にどのような授業に需要があるのか調査していく必要がある。また、今後も多く講師派遣ができるよう各学校に周知していきたい。
- 消費者教育や防災教育など庁内でも、協力できる課はあるのではないだろうか。例えば、文化振興課でも、文化財について講演する機会があるので、講師として協力できると思う。
- 以前、彦根の高齢者施設から武佐宿や安土の城下町でウォーキングする際に、同行・解説してほしいという依頼を受けたことがある。そういう内容なら協力できるし、こちらの成果として紹介もできるので、お互いにメリットがあってよいと思う。他の課でもそういったことはあると思うので、今後庁内でもっと連携していければよいと思う。
- 学校に対して、依頼回数や授業の感想、今後の求めるものなどフィードバックできれば、次年度の参考になると思うので、実施していただければと思う。

＜No.13 やまのこ・たんぼのこ体験学習＞

- 学校の生徒だけで完了する事業ではなく、サポーターの協力が必要であり、LINE 等を活用したら多くの人の募集があった。
- 沖島でされているのがよい。実際は高取山であることが決まっていますが、地域で行うことに意味があると思う。
- 子どもの話を聞くと沖島に行ったというのは、すごい嬉しかったと話していた。特別な場所というか、貴重な経験をしていると思う。

基本目標Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承

市は、地域の文化財、伝統的な行事等の歴史的文化遺産の保存及び活用並びに、伝統的な芸能の継承及び発展を図るため、歴史的文化遺産の調査、維持管理、修復、整備及び公開に努めるとともに、伝統的な芸能の活動の場及び鑑賞の機会の提供その他必要な措置を講ずるものとします。

基本施策1. 伝統文化の保存と継承（都市文化政策・市民文化政策）5事業（内再掲1事業）

本市には、様々な歴史的資産、伝統文化があります。また、近江八幡のアイデンティティでもある湖や緑豊かな自然環境もあります。さらに、古くからゆかりの文化人が暮らし、現在も各分野の専門性や学識経験を持った市民が居住されています。そしてなによりも本市を愛するすべての市民が近江八幡の文化資源といえます。これら本市の持つ文化の力を発揮して、個性と活力ある地域づくりを進めていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①歴史的遺産、伝統文化の継承と発展		14	茶道体験	幼児課	市
		15	図書館運営事業（地域資料のデジタル化）	図書館	都
		16	安土城天主信長の館 自主文化事業（安土文芸の郷指定管理事業）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市都
②豊かな自然環境の活用		17	西の湖ヨシ灯り展の開催支援	環境課	都

③人的資源の発掘と連携	(●)	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都
-------------	-----	---	--------------	-------	---

基本施策2. 文化財の保存と活用（都市文化政策・市民文化政策）7事業（内再掲1事業）

先人が情熱を注ぎ築き上げ受け継いできた数々の文化財は、私たちの心のよりどころであり大切な財産です。そして、文化財を守りながら、さらに新たな文化の創造につなげていくことが重要です。このため、文化財保護思想の普及と啓発を図り、数ある有形・無形の文化財を後世に引き継ぎます。また、埋蔵文化財の調査や研究に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①伝統的建造物群保存地区の保存・活用	(●) (◎)	再	伝統的建造物群保存地区保存事業（2の再掲）	文化振興課	都
②無形文化財の保存		18	ライティングプロジェクト事業	観光政策課	都
		19	指定文化財保存事業	文化振興課	都
③埋蔵文化財の保護・保存と活用	●	20	埋蔵文化財発掘調査事業	文化振興課	都
		21	市史編纂事業	文化振興課	都
④市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進		22	旧伊庭家住宅施設維持管理事業	文化振興課	都
⑤体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実		23	歴史文化資産普及啓発事業	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見
<p>＜No.20 埋蔵文化財発掘調査事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査をしていることや出土した遺物などをもっと地域の人に知っていただくにはどうすればよいかが課題。 ● 出土した遺物の現地説明会や親子で発掘を体験できるイベントがあれば、普及啓発に繋がるのではないだろうか。 ● 公開や説明会、体験会など実施したいが時間に制限があり、難しいのが現状。例えば、家を建てる人から家を建てるまでの時間をいただいているので、調査するだけで終わってしまう。ただ、小学校や公園など公共施設の発掘調査の際には、体験学習を実施している。 ● 滋賀県は、出土する遺物の数が多いので、もっと市内の人にも知っていただく機会が増えればよいと思う。 ● 出土した遺物を市役所のロビーで展示してみてもいいのではないかと。

基本目標Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

市は、文化の向上を図るため、国内及び海外との文化の交流の促進に必要な施策を講じるとともに、市民の文化活動の促進に資する地域産業の振興を図るものとします。

基本施策１．文化交流の促進（都市文化政策・市民文化政策）４事業

様々な文化が交流し合うことは、異なる文化と接することで自らの文化を再認識することとなり、新たな文化の創造へと発展していく契機となります。そのため、海外の友好都市や国内の夫婦都市との文化交流の促進を活性化していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①海外の友好都市との文化交流の促進		24	国際交流事業	まちづくり協働課	都
	●	25	朝鮮通信使関連推進事業	文化振興課	都
②夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進		26	広域観光および友好都市交流事業（富士宮市親善訪問）	観光政策課	都
		27	夫婦都市児童相互交流事業	学校教育課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.25 朝鮮通信使関連推進事業>

- 担当課のみに留まらず、他課とも調整することで、より幅広い人に伝えられるのではないかと。例えば、人生伝承塾で授業してもよいと思うので、連携してはどうか。

基本施策２．地域資源を活かした産業や観光の振興（都市文化政策・市民文化政策）３事業

本市の魅力ある伝統文化を継承しつつ、地域資源を活かした産業や観光の振興など、様々な分野で戦略的な施策を推進していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①近江八幡版DMOの推進		28	観光ブランディング事業	観光政策課	都
②西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進					
③沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み	●	29	沖島離島振興事業	企画課	市都
④市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進		30	VR 安土城事業	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.29 沖島離島振興事業>

- 人口減少や高齢化が進んでいるため、定住人口が増加すればよいと思うが、現状では、住める場所がない。空き家は多いが、建築基準法の関係から新しく建て直すことができず、改修するしかない。

- 以前は、他からの移住者に対して、関心が稀薄だったが、地域おこし協力隊の活動もあり、島民が他からの移住者に対して受け入れる体制になってきていると思う。
- 沖島が注目され来島者が増えることで、島民の暮らしが豊かになればよいと思うが、静かに生活したいと思う人もいると思うので、その人たちへの配慮も重要かと。
- リモートワークする人には、よい環境かもしれない。
- 住むのが難しいのであれば、観光資源として多くの人が訪れる場所になればよいと思う。観光客がお金を使えるように食事処やお土産屋などもっと充実すればよいと思う。
- ラコリーナがあるので、その流れで沖島にも訪れられるような周遊型の観光ルートがあればよいのではないか。

基本目標Ⅳ 文化芸術創造都市の創造

市は、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興、福祉、教育等に領域横断的に活用し、市民団体や地域の民間企業等が協働して、地域課題の解決に取り組む先駆的かつ多様な取り組みを支援するものとします。

基本施策１．多様な文化活動の推進（市民文化政策・都市文化政策）３５事業（内再掲６事業）

市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されます。そのためには、地域間や世代間の文化交流を積極的に進めるとともに、市民誰もが多様な文化活動に参加したり、文化芸術に触れる機会を拡充する必要があります。それぞれの活動を高め、広げるとともに、このような文化を通じた公益的な市民活動を支援していきます。

また、市民が文化芸術に身近に触れる機会を充実するとともに、乳幼児・妊産婦、高齢者、障がい（児）者、外国籍市民、また一人暮らしや引きこもりになりやすい人など、市民誰もが多種多様な文化芸術を鑑賞・創造したり、多彩な文化活動に身近に参加できる環境づくりを進めていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①市民主導の文化芸術活動の育成		再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
②地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造	●	31	多文化共生推進事業	まちづくり協働課	都市
③体験や参加、参画機会の充実		再	茶道体験（14の再掲）	幼児課	市
		32	市民文化祭共催事業	文化会館	市
		33	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
		34	音楽振興事業	文化振興課	市
		35	ブックスタート事業	図書館	市
		36	図書館運営事業（おはなし会）	図書館	市

③体験や参加、参画機 会の充実		37	図書館運営事業（ブックトーク）	図書館	市
		38	図書館運営事業（図書館見学）	図書館	市
		39	図書館運営事業（職場体験等）	図書館	市
	● ◎	40	本のまち！動く図書館事業	図書館	市
④文化芸術に接する機 会の拡充		再	茶道体験（14の再掲）	幼児課	市
	● ◎	41	文化会館自主文化事業	文化会館	市
		42	中央公民館講座	生涯学習課	市
		43	市民大学講座	生涯学習課	市
		44	やよいコンサート	総合医療センター 総務課	市
		45	絵画展示	総合医療センター 総務課	市
		46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	市 都
		47	図書館運営事業（歴史講座、コンサ ートの開催）	図書館	市
	(●) (◎)	再	関連施設における自主事業（安土文芸 の郷指定管理事業）（9の再掲）	文化振興課（安土町文芸 の郷振興事業団）	市
		48	関連施設における自主事業（資料館、 旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史 跡安土城跡ガイダンス施設）	文化振興課（指定管理）	都 市
		49	関連施設における自主事業（安土城郭 資料館、白雲館）	観光政策課（指定管理）	都 市
	●	50	市美術展覧会	文化振興課	市
⑤誰もが文化活動に参 加できる環境づくり		51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	市
	● ◎	52	人権尊重のまちづくり市民講座	人権・市民生活課	市
		53	人権尊重のまちづくり推進員事業	人権・市民生活課	市
		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
		54	図書館運営事業（貸館）	図書館	市
		55	文化会館管理事業（貸館）	文化会館	市
		56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	市

⑤誰もが文化活動に参加できる環境づくり		57	市民共生センター運営事業（地域共生型サークルづくり）	障がい福祉課（市民共生センター）	市
		58	市民共生センター運営事業（ふくふくフェスタ）	障がい福祉課（市民共生センター）	市
⑥顕彰の実施	●	59	子ども文化芸術賞	文化振興課	都
⑦文化会館の積極的な利用	(●) (◎)	再	文化会館自主文化事業（41の再掲）	文化会館	市

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見

<No.3 1 多文化共生推進事業>

- 外国籍の方が普段の生活で関わる場が増えてきて、今後も継続として進めていくことが必要と感じた。
- 国際協会の通訳で来られる人が多いなと思っていたが、こんな数があるのかと感じ、充実が必要と思う。
- 金田、桐原は外国籍の人が多く、コミセンでボランティアの方の勉強会をされており、そういう所にももう少し予算化できれば、役所だけでなく地域の拠点づくりが出来るのではと思う。
- 学校で全く日本語を喋れない人に支援員をつけることになっているが、人がいない。優秀な人は企業でやられるので人がいない。英語は何とかできるが、中国語、ポルトガル語、ベトナム語が難しい。ベトナム人の子どもは全く喋れないことが多く、切ない感じがする。
- 図書館でもベトナム語の本を入れるようにしている。1カ月検診の時に本を紹介すると、カードを作って図書館に本を借りに来てくれる方が多い。
- 機会を与えられたら、もっと来てくれるのではと感じた。
- 文化は基本的人権と先ほど言っていたが、外国籍の方は基本的人権になっているのかと思う。
- 図書館の貸出案内がまだ日本語だけのため、多言語化を国際協会の方にお問い合わせ出来るのかなと感じた。
- これからも拡充が必要と感じた。

<No.4 0 本のまち！動く図書館事業>

- 全然知らなかったけどもすごい回数で驚いた。
- 配送サービスをやっていたが、手に取って選べるのが楽しいからそれを体験してもらいたい。
- 免許を返納して図書館に行くのが難しい人が自転車であたりしてくれている。
- 図書館のLED 化工事で図書館を閉めていた期間に前の駐車場で開催した時も一定の利用があり。PRにもなった。
- 沙沙貴杜遊の写真を沙沙貴神社さんに見せてもらったが、拝殿でお話会をして、回廊に指定図書を並べられていて、地域の中に入っておこなわれておりよいと思う。
- 本を手にとってもらう機会になるといい、その機会が多い方が身近に感じてもらえると思う。あのトラックが走ってるだけで、走っているなと思う。
- バスの絵を地域の人材を活用しており、よいと思う。
- 学校図書館とは違う特別感があり、子どもは喜んでいる。
- 移動図書館車が来るのが楽しみに待っている子どもたちがたくさんいると思うので本事業はぜひ今後も継続して実施していただきたいです。
- ◎ 滋賀県は、地域が離れていて、近くに図書館が無いことも多いことから非常に効果的な事業だと思う。また、こちらから出向くというサービスは、この事業以外にも活用できるのではないか。

- ◎ 対象の事業が広がっている中で、目標指標の出し方のひとつとして幼児を対象としたものはどうか。図書館なら絵本などに対象を絞って特色をだしていくのもひとつの方法。また、幼児を対象としたプログラムには、親も動員できるので、新旧の世代の融合がこれから必要なことから、交流の窓口となる新しいコミュニケーションの場が提供できるのではないかな。そういう目標の立て方もよいと思う。
- ◎ 市の図書館行政としてよい取り組みだと思う。図書館ができた当初は、移動図書館サービスが活発に利用されていたが、以前と比べると生活スタイルの変化によって、概ね利用者が減ってきている。その中で、はっちこブックミニ号は、就学前のこどもを対象に巡回していてよい取り組みだと思う。
- ◎ 事業実績についてまだ2~3年だと思うが、今年度（R5）どのくらい実績が伸びたか興味がある。
- ◎ 施設の外で行うサービスについての継続性がどこまで担保されるかが重要だと思う。サービスの基になる資料の整理をどうしていくのか。また今後、どこまで子どもや市民に魅力ある資料、本を提供できるのかが課題。日常的な通常業務の中のひとつの部門として続けていただきたい。
- ◎ 図書館の場合は、個別に基本計画があり、そこでは毎年自己評価、外部評価を行っている。個別の図書館の計画と市全体との計画との整合性をどうつけていくのが課題ではないか。
- ◎ まだまだ地域住民の認知が足りないのではないかな。車が来たからといって押しかけるようなものになっていない。地域の祭りや行事など大きなイベントと連携することが、ファンを増やすのにいいのではないだろうか。

<No.4 1 文化会館自主文化事業>

- 来年度からの改修にあわせ、文化会館の今後の運営方針を考えて行く必要があるのでは。
- 小さな連携ではあるがロボッポインザガーデンの原作の本とチラシを置いてほしいと依頼があってミニコーナーを作った。米朝の時に落語の本をおくなどそういうような連携ができればと思う。
- 図書館もそうなりがちであるが、興味がある人しかいない場所になりがちな施設だと思う。そうじゃないすべての人、多くの市民が関われる場所になればよいと思う。
- 大勢の人が関われる仕組みづくりが必要では。
- ◎ メジャーなプログラムには人が集まるが、それ以外についてどのように盛り上げていくかが課題。どう幅広く情報提供していくかが問題。

<No.5 0 市美術展覧会>

- 60歳以上の方が多く、若い世代がより参加できるものになればと思う。
- 図書館等でも写真を展示しているが、利用者が見るということは少ない。展示をされている方の声掛けで来られている方がほとんどである。相乗効果ができればと思う。
- 費用がかかる事業で毎年する意味があるのかと思っていたが、これがなくなると近江八幡市の文化的水準が下がると思う。

<No.5 2 人権尊重のまちづくり市民講座>

- 参加者の満足度は高いが、集客が課題。
- 庁内と連携して、他のイベントとタイアップしてはどうか。
- 講演会だけでは、ある程度人権に関心がないと参加しないのではないかな。周辺でカフェや子どもが集まるようなイベントを開催して、気軽に訪れられるようにしてはどうか。
- 人権について学べる遊びや展示、食べ物等を用意して、会場に来たら人権について考えてもらえるようにしていた。会場に来る人は多かったが、講演会にはなかなか人が集まらなかった。
- 職員の人権研修の機会にも繋げられたらよいと思うが、開催が休日になると難しい。

- 人権について多くの人にいかに関心を持ってもらうかが課題であると思う。
- 性的マイノリティについては、自分の身近な人がそうであるかもしれないし、高齢者や障がい者については、自分の事だと思って考えればもっと人権について関心を持ってもらえるのではないだろうか。
- 多様性については、高齢者に比べて、若い世代の方が柔軟な考えを持っているのではないか。

<No.59 子ども文化芸術賞>

- 学校から県美術展などに出してそこで表彰されたとしたら、更に表彰されるとなると 2 重取りのように思う。学校と関係ないところで、例えば三味線で賞をとるというのはありましたが、学校から出してるもので更にこれを賞うのはどうかと思う。
- 当初は学校でないと候補者をあげていただいていた、例えば地域を回ってジャグリングをしてるとかというのもあったけれども、そういうものが減ってきている。二重取りのようになっており、整理が必要と思う。
- 地域活動等も拾っていければよいのではと思う。
- 以前は自治会推薦もあったが、減ってきているため、まち協などに情報提供を呼びかけるのもよいのでは。
- 不登校の子達が自分の得意なものを出せるなどの場にもなればよいと思う。

基本施策 2. 文化の情報の収集と発信（市民文化政策・都市文化政策） 12 事業（内再掲 4 事業）

近江八幡市の文化の魅力を高め、市民の文化芸術活動が活発に行われるためには、情報の収集と発信のための仕組みづくりを行い、市民が必要とする情報を効果的に提供することが必要です。市民誰もが容易に文化情報を手に入れることが出来るような情報流通の仕組みを構築していきます。市民文化活動における様々な情報交換が可能になるような双方向の情報の流れを作るなど、情報によって文化活動がより一層活性化する仕組みを検討していきます。特に、情報通信技術の目覚ましい革新から様々な新しいメディアが開発されてきており、それらへの対応も大きな課題として取り組みます。

また、本市で育った文化人、芸術家と連携、応援体制を確立することも必要です。

さらに、文化芸術の創造活動を支援するとともに、本市の個性的で多様な文化活動を市内で情報共有するとともに、市外・国外へと発信していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①文化情報の収集・発信		60	広報事業	秘書広報課	市
		61	読書活動推進事業（館報、ホームページ）	図書館	市
	●	62	ヴォーリズ建築文化ネットワーク	文化振興課	都
		63	マナビィ通信	生涯学習課	市
②文化団体に関する情報の発信		64	広報活動	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
		65	文化団体機関誌発行（文化団体活動支援事業）	文化振興課	市

③文化団体の交流の場の確保		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
④文化情報のネットワークづくり		再	各学区文化祭（33の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
		再	観光プランディング事業（28の再掲）	観光政策課	都
⑤近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携	（●）	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都
⑥図書館資料と専門職員の充実		66	読書活動推進事業（資料収集）	図書館	市
		67	読書活動推進事業（雑誌スポンサー）	図書館	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見					
<p>＜No.62 ヴォーリズ建築文化ネットワーク＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市内でもヴォーリズやヴォーリズ建築の名前は知っていても、身近すぎてそこまで詳しくは知らないのではないか。大阪の大丸や同志社大学など他にも全国に残っている建物があるので、そこから興味を持ってもらい、市内のヴォーリズ建築に関心を持ってもらうとよいのではないか。 ● ヴォーリズ記念館があるので、人生伝承塾などで講師として依頼してはどうか。 ● 庁内で連携して市内の小中学生の地域学習で、ヴォーリズ建築について、学ぶ機会を作ってはどうか。 ● 建築関係を学んでいる学生を対象としたワークショップがあってもいいかもしれない。 ● ヴォーリズ建築の構造や魅力については、子どもには難しいと思うが、実際に近くで見たり、触れたりするだけでも楽しみながら地域学習に繋げることはできると思う。 					

基本目標Ⅴ 文化活動の担い手の育成

市は、文化活動を担う人材及び団体を育成するために必要な施策を講じるものとします。

基本施策1. 文化を創造する人材の育成（都市文化政策・市民文化政策）5事業（内再掲1事業）

市民が、その地域の自然や歴史などの文化に対する理解を深めるとともに、地域文化の大切さを知り、担い手を育成していくことにより、次の世代への文化の継承だけでなく、新たな文化の創造へとつながっていきます。年齢や経験に関わらず、一人でも多くの人に文化に関心を持ってもらい、活動に参画してもらうとともに、企画・制作、運営や情報提供など、地域文化振興に必要な専門知識を持った市民を増やしていきます。

また、子どもたちが様々な文化に触れ、文化に興味を持つことは、自らの文化活動への取り組み意欲の促進にもつながります。青少年期の文化に関する様々な体験は、生涯にわたる関心と、より深い理解の礎となります。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①後継者育成の仕組みづくりと指導者の育成	●	68	いきいき職員育成事業	総務課	都
		69	パイプオルガン奏者育成事業（安土文芸の郷指定管理事業）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市都

②子どもたちの文化創造体験の拡充		70	青少年美術展覧会	学校教育課	市
	● ◎	71	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業	文化振興課	
		再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課	市
③地域文化振興の担い手の育成					

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見

<No.68 いきいき職員育成事業>

- 新採職員の中には、市外から来ている人も多いと思うので、まずは近江八幡市を知ることと地域の課題について認識してもらうにはよい機会になるのではないかと。
- 新採研修の中で昨年入庁した職員が、地域や仕事について説明する機会があるが、新採職員にとっては同世代なので相談しやすいと思う。先輩職員にとっても内容を考えたり説明資料を作成したりと自ら学ぶ機会になると思うので、お互いによりよい機会になっているのではないだろうか。
- 内部研修を通して職員同士がコミュニケーションを取りやすい環境になればよいと思う。
- 以前に比べると、人材育成に力を入れていると思う。最近、辞めてしまう人も多いので、大切に育てていくことが重要だと思う。
- 新採職員には、地域に興味を持ってもらうために市史を配布してもよいかもしれない。

<No.71 アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業>

- 子ども達が文化会館を知るという機会にもなりよいと思う。
- 芸術鑑賞はすごいよかったと思う。
- 学校連携ワークショップはそんなことをされていたのかと知らなかった。
- 本物の芸術家、アーティストに触れるという機会をこんな若い時からしているのはいいなと思う。力をいれるべき。
- こういうプランがあるという中から選ぶのは学校の教員は好きなので、このやり方は良いと思う。
- 子どもたちが文化芸術に触れることはその後の人生を豊かにすると思います。事業開発の実施でよりよい事業になることを期待しています。
- ◎ ワークショップはいっぺんに多くの人を集めるのは難しいので、回数を増やしていただきたい。いきいき職員育成講座と連携することで、教員への波及ができるのではないかと。また、そこから子どもたちや学生たちに繋がるようなシステムができればよいのではないかと。

基本施策2. 文化によるまちづくり（市民文化政策）12事業（内再掲10事業）

文化行政は、文化の根付いた地域社会をつくりだすことです。このような地域社会をつくりだす主役は市民です。行政は市民が住みよいまち、住み続けたいと思うまちを市民と一緒に、文化的なまちをつくるのが求められています。地域の活性化・まちづくりは、地域の文化資源を核にすることが大切です。魅力ある文化資源を充実させ、地域や市民に目を向け、市民と協働で文化の視点に立ったまちづくりが大切です。文化芸術活動を通して、心豊かな文化的風土を育むことが大切です。

また、文化と産業振興・観光などの分野とが、連携連動した文化振興施策の展開もますます重要になってきています。近江八幡市を訪れる人が文化的な魅力が感じられるように、文化によるまちづくりが大切です。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興		再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
		再	文化会館管理事業（貸館）（55の再掲）	文化会館	市
		再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
②地域の文化団体による文化活動の推進		再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
		再	各学区文化祭（33の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
③学校教育における文化活動の充実	（●）	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	市
		再	図書館運営事業（ブックトーク）（37の再掲）	図書館	市
③学校教育における文化活動の充実		72	図書館運営事業（学校図書館支援事業）	図書館	市
		再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課	市
④医療機関、福祉施設等との連携		再	やよいコンサート（44の再掲）	総合医療センター総務課	市
		再	絵画展示（45の再掲）	総合医療センター総務課	市
		73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課（市民共生センター）	市

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見
<p>＜No.73 市民共生センター運営事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がい者が活動できる場所があることが重要であり、コロナの感染状況が落ち着き、利用者が増えてよかったと思う。今後も高齢者や障がい者の人が多く活動できるように、施設や自主事業講座の周知を幅広く実施していただきたい。 ● 自主事業講座の内容についても、より多くの人が参加できるように充実していけばよいと思う。

基本目標Ⅵ 協働の仕組みづくり

市は、市民が自主的かつ主体的に行う文化活動の充実を図るため、市民、芸術家等、事業者、教育機関等・福祉関係団体・医療関係機関及び市との間における様々な協働が活発に行われるように、協働の仕組みづくり及び場の整備等を行うものとします。

基本施策１．文化施設の有効活用（都市文化政策・市民文化政策） １２事業（内再掲２事業）

文化振興基本条例に基づき策定される本基本計画を推進していくためには、市民と市がそれぞれ役割を認識し、協働により市民文化の創造を実現することが大切です。県・近隣市町との連携を視野に入れ、行政における推進体制の整備を行うとともに、文化会館をはじめとする既存の施設の維持管理に努め、市民による自主的かつ主体的な文化活動が行える環境づくりを目指します。

また、文化会館については、これまで貸館を中心として良質な文化活動の提供を推進してきましたが、周辺市の文化施設の整備が進み、施設利用が伸び悩んでいる側面があるため、今後は市民に身近な存在として積極的に利活用してもらえ環境の整備に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①文化会館の利用促進		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
②行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備		74	近江八幡市文化振興審議会	文化振興課	都
		75	文化振興基本計画進捗管理	文化振興課	都
③施設・設備の充実等		76	図書館施設維持管理事業	図書館	市
		77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課（市民共生センター）	都
		78	文化関連施設維持管理（指定管理施設）	文化振興課	都
		79	文化関連施設修繕（文化会館）	文化会館	都
③施設・設備の充実等		80	文化会館整備事業	文化振興課	都
	●	81	文芸セミナリヨ等長寿命化整備事業	文化振興課	都
④県・近隣市町との交流・連携		82	信長サミット	観光政策課	都
		83	広域観光および友好都市交流事業	観光政策課	都
	(●)	再	ヴォーリズ建築文化ネットワーク（62の再掲）	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見

<No.81 文芸セミナリヨ等長寿命化整備事業>

- 長寿命化した後、今後どう使うのかという視点が必要でないか。
- 安土地域の中での文化芸術、歴史含めて核となる施設であるため、地域の人が集まれる場所にしていける必要がある。

基本施策2. 市民との協働（市民文化政策・都市文化政策）8事業（内再掲4事業）

市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されます。市民個人や団体の活動はその活動だけにとどまることなく、他の団体等との交流や市民一般への干渉や体験の機会を持ったり、障がい者など文化との接触に困難を伴う市民に積極的に支援するなど、公益的な活動への広がりも見せてきています。それぞれの活動を高め、広げるとともに、このような文化を通じた公益的な市民活動を支援していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①市民文化活動への支援の拡充		再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
		再	文化団体活動支援（11の再掲）	文化振興課	市
		84	文化関連事業に対する後援	文化振興課	市
②市民が主役の文化振興の仕組みづくり		再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
		再	文化団体活動支援（11の再掲）	文化振興課	市
③市民参画・協働型事業の充実		85	広聴事業 未来を築く提言	秘書広報課	市
		86	図書館資料リサイクル	図書館	都
	● ◎	87	近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業	障がい福祉課（市民共生センター）	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見
<p>＜No.87 近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会的弱者が平等に文化にふれる機会や交流できる場所を提供するのが、市の役割であり、この事業が広がればよいと思う。 ● 参加者が増えているので、今後もイベントやワークショップを実施して事業が拡大していけばよいと思う。 ● 庁内の各課と連携して、講師やアーティストを派遣することなど、事業を充実させることができればよいと思う。 ◎ 図書館サービスの関係は書かれていないが、法律でいうと障害者差別解消法、読書バリアフリー法が施行されている中で、図書館サービスに関係の深い。図書館利用の障がいのある人へのサービスが重要。このような障がい児・障がい者向けの取り組みについて、図書館も積極的に関わっていくことが必要ではないか。

2. 事業実施状況（令和4年度）

事業実施状況（令和4年度）

文化的都市景観の形成

1 文化的な環境・景観の保全と継承

① 環境保全対策

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
1	びわ湖を美しくする運動	近江八幡市水産協議会 (事務局：農業振興課)	水草等の繁茂や廃棄されたゴミを放置しておくと、琵琶湖の水産物の生育に悪影響が及ぶことが懸念される。その影響は漁業者にとっては深刻な問題であることから、当該事業が開始された。	逆賀東では7月1日を「びわ湖の日」と定め、県内一斉に漁場の清掃活動が行われている。近江八幡市水産協議会も7月1日に水産協議会員を中心とし、各漁業協同組合員や沖島町民等の協力のもと、「びわ湖をきれいにする運動」と題し、水草やゴミを回収し、清掃活動を行う。	【最終：令和7年度】琵琶湖の環境保全と漁場の生産力の回復並びに向上を図ることを目指す。 【目標設定の理由】水草や廃棄ゴミは外的要因によるところが多いため、数値目標を示すことは困難なため、事業開始の目的達成を目指す姿としている。	【事業の実績】 近江八幡市水産協議会の会員である、近江八幡漁業組合・沖島漁業組合を主とし、沖島自治会を含めて3団体の地元住民、市職員により琵琶湖(漁港の周辺)の清掃を行い、可燃ゴミを4車で70.5kg分、不燃ゴミを4車で1.0台分回収し、漁場の美化に努めた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞目標設定については、外的要因が大きいため数値目標は難しいですが、近年の環境への意識の高まりなどもあり、年々ゴミの回収量が減ってきており、目標としていた琵琶湖の環境保全と漁場の生産力の回復並びに向上に向けた取組ができていると考えます。 ＜評価に対する数値等＞令和2年度実績：可燃140kg、不燃1,080kg、令和3年度実績：可燃210kg、不燃270kg、令和4年度実績：可燃140kg、不燃330kg	引き続きゴミの適切な回収を行い、漁場のみならず、周辺沿岸の環境保全にも努める。
2	伝統的建造物群保存地区保存事業／重要文化的景観保存活用事業	文化振興課	八幡堀や八幡商人の商家からなる重要伝統的建造物群を中心にすると、近江八幡を代表する歴史的景観を形成する。また、西の湖や北之庄宗には、ヨシ群落と水郷からなる人々の営みの中心地となっており、歴史的景観として生み出された重要な文化的景観が広がっている。これらの景観が伝承され、次世代に継承する。	重要伝統的建造物群保存地区内の町並み景観の構成要素である伝統的建造物の修理事業に補助を行う。また、周辺の景観に調和した建築物の新築・改築等の修景事業にも補助を行うことで、町並み景観の保全を行う。	【最終：令和7年度】伝統的建造物群保存地区および重要文化的景観選定地区内の景観保全に補助を行う。 【目標設定の理由】先人より守られてきた景観を保全することにより、市民生活の向上を目指す。	【事業の効果・ねらい】 伝統的建造物群保存地区の周辺地域において、歴史的建造物の解体や空き家の増加が見られ、八幡らしい景観が衰えてきている。保存地区内においても、空き家や備置が多岐多岐あり、景観保全のためには、継続した修理・修景事業の実施が必要である。また、重要文化的景観保存地区においては、人々の生活と密着に関わるヨシ産業が衰退し、ヨシ地の維持管理が難しくなっており、景観保全のための仕組みづくりが必要となる状況である。 【事業実績】 伝統的建造物群保存地区内の建物や修理、修景することによって歴史的環境の整備を行うことができた。重要文化的景観についてはいくつかの景観を損なわない意匠について協議を行うことでヨシ群落と水郷からなる風景の景観保全を行うことができた。	【評価項目】効果、ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞重要文化的景観内での開発について、景観を損なわない意匠とするよう指導を行いました。 ＜評価に対する数値等＞目標7件→6件達成	歴史的景観、文化的景観の保全には、継続した修理・修景の取組が必要となる。
3	環境保全対策事業	環境課	重要文化的景観の構成要素であるヨシの保全及び環境まちづくり活動団体による市内の環境保全活動を支援するため。	・近江八幡市ヨシ群落保全団体による自然の浄化作用を有するヨシ群落の保全活動の実施。 ・市民団体「水と緑の環境ネットワーク」による環境保全活動の実施。 ＜2団体の概要＞ 近江八幡市ヨシ群落保全団体・・・3団体約60名（65歳以上の市民）で構成。 ヨシ刈り・ヨシ焼き等に従事。 水と緑の環境ネットワーク・・・1団体10～20名の10団体で構成。環境保全に関心を持ち活動している市民が環境保全活動に従事している。	【最終：令和7年度】ヨシの保全及び環境まちづくり活動団体の11団体へ支援を行う 【目標設定の理由】ヨシの保全及び環境まちづくり活動団体による適正な保全活動の支援を行うため	【事業の効果・ねらい】 重要文化的景観の構成要素であるヨシの保全及び環境まちづくり活動団体の保全に努めた。 【事業実績】 環境まちづくり活動団体と連携、協働しながら、市域各地での継続した環境保全活動に取り組んだ。	【評価項目】ヨシ群落保全団体による市内の環境保全活動の実施 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ヨシの浄化作用を有する貴重なヨシの保全活動に努めるため。 ＜評価に対する数値等＞実施した。	ヨシ群落の保全や自然環境及び景観の保全のために、継続して各団体と連携、協働し、自然環境及び景観の保全に努める。 また、看板や広報等により啓蒙を強化し、ポイ捨てや不法投棄による散在性ゴミの減少に取り組む。

② 風景計画

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	本市の風景づくりに関する施策の基本となることにより、市民、事業者等が連携、協力し、近江八幡の魅力を風景区に引き継ぐ営みを支援することを目的とする。	区域内の風景を保全・創出して、いくつものゾーンに分け、風景形成基準を定め、建築物等の外観の変更となる行為に対して、制限をしている。また、水郷風景ゾーン、伝統的風景ゾーン及び歴史文化風景ゾーンの一ゾーンについて、地域別計画を定めており、より厳しい基準を設定することで、風景の保全を図っている。 ＜7つのゾーン＞ ・湖畔風景ゾーン ・水郷風景ゾーン ・伝統的風景ゾーン ・市街地風景ゾーン ・街道風景ゾーン ・田園風景ゾーン ・歴史文化風景ゾーン	【最終:令和7年度】 地域毎の風景計画を策定する。 【目標設定の理由】 本市においては、市域を7つのゾーンに区分しており、各ゾーン毎の地域特性にばじ風景計画を策定し、各ゾーンにおける良好な景観を保全する必要があるため。	【事業の効果・ねらい】 近江八幡の魅力ある風景を守り、はぐくみ、次世代に引き継ぐ営みを支援するため、継続して本市の風景計画における風景形成基準に適合するよう建築物等が建築されるよう働きかけをしていく。 【事業実績】 風景形成基準に適合する建築物等となるよう働きかけを行い、区域内の風景の保全を図ることができた。また、一部風景形成基準に適合していない建築物については、景観への配慮を求めたことで、区域内の風景と調和するよう指導を行うことができた。	【評価項目】風景計画区域内における行為の届出に係る内容及び件数 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞風景計画区域内における届出内容について、全ての届出内容が、本市の風景形成基準に概ね適合しており、本市の良好な風景を保全することにつながったため。 ＜評価に対する数値等＞水郷風景計画:17件、伝統的風景計画:36件、歴史文化風景計画:35件、全市計画:13件	届出制となっているため、住民の思いを尊重すると、調和がとれていない建築物が建築されることにある。 市域を7つの風景ゾーンに区分し、それぞれの特性に応じた市民の自主的な風景づくりを推進し、風景を生かした誇りあるまちづくりを進めることにより、素晴らしい風景、風景資産を守り、育て、次世代へ継承していく。

2 歴史、文化と調和のとれたまちづくり

① 歴史・文化環境の保存・整備

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
5	河川管理事業	土木課	八幡堀の水量管理、樹木の剪定管理、遊歩道石量等の管理(対象地域:1級河川八幡川)	八幡堀の水量管理(施設は滋賀県、樹木の剪定、遊歩道石量等の修繕)。	【最終:令和7年度】 道路、河川管理者の限られたる事故をゼロ。 【目標設定の理由】 安全な公共施設を維持するため。	【事業の効果・ねらい】 施設箇所等による道路上での現犯事故等を防止するため。 【事業実績】 ・樹木剪定・修繕費 587,180円 ・ポンプ周辺清掃費 368,390円 ・ポンプ使用電気代 724,556円	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞利用者からの通報、自主メンテナンス等が転倒されないよう早急に対応した。また、樹木等も適正に維持管理できた。 ＜評価に対する数値等＞道路現犯による事故は0件	適正な維持管理をするためには相当な経費がかかる。事業を継続し、維持管理に努める。
6	選択無形文化財保存事業	文化振興課	国選択無形民俗文化財「近江八幡の火祭り」の中で、県指定無形民俗文化財の左義長まつり、県選択無形民俗文化財の八幡まつり及び篠田の火花を、継続実施することによって後継者育成を図り、民俗文化財を後世に伝えることを目的とする。	左義長まつり、八幡まつり、篠田の火花の保存伝承活動を行う保存団体に対して、補助金を交付することにより支援を行う。(令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、篠田の火花保存会において、補助金の交付対象となる保存伝承事業未実施。)	【最終:令和7年度】 指定民俗文化財の継続および後継者育成のための情報発信の継続と補助の充実。 【目標設定の理由】 各保存団体の活動を支援する。各保存団体の継承を継続する。	【事業の効果・ねらい】 近年の少子高齢化や生活様式の変化により、文化財を取り巻く環境も大きく変化し、民俗文化財の担い手である後継者不足が課題となっている。そのため、民俗文化財を保存・伝承することが困難となってきた。 近江八幡市では、「近江八幡市文化財保護条例」を定め、文化財の保存のための必要な措置を講じ、もって文化遺産の向上に資することとしている。補助を行う左義長まつり、八幡まつり、篠田の火花を含む「近江八幡の火祭り」は、平成4年に記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された貴重な文化財であり、保存伝承を行う必要性がある。 【事業実績】 コロナ対策による活動の縮小や自粛があったため、若年層への文化・技術の伝承活動を図ることができたとはいえない状況である。 今後の世の中の情勢に合わせて保存団体への支援を行うことが大切であると考ええる。	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞対象となる3団体に補助金の交付を行った。評価に対する数値等 目標3団体 → 交付3団体 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞祭礼にかける原材料費の高騰化による後継者負担を軽減するため、補助金の増額を予算化した。 ＜評価に対する数値等＞補助額上限27万円→50万円に増額	拡充、無形民俗文化財の後継者不足は、今後も保存伝承を行う上で大きな課題であり、後継者育成活動につながる支援を検討していく必要がある。

② 食文化の継承と振興

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	市内で生産された農産物のブランド化を図るとともに、近江八幡市の美しい水郷風景を守る。	近江八幡市の水郷域等に配慮し、基準を満たした農産物を認証することで、農産物のブランド化を図るとともに、水郷地域の保全につなげる。また、認証した農産物から検体を抽出し、残留農薬検査を実施することで、安心な農産物の普及を図る。	【最終:令和7年度】 承認面積100ha 【目標設定の理由】 承認面積を増やすことで、農業と水郷地域の調和を図るとともに、環境に配慮して生産された安全で安心な農産物の普及啓発を図るため。	【事業の効果・ねらい】 市内で生産された農産物のブランド化を図るとともに、近江八幡市の美しい水郷風景を守るため。 【事業実績】 市内で生産された農産物のブランド化を図るとともに、近江八幡市の美しい水郷風景を守りし。	【評価項目】環境に配慮した安心安全な農産物の普及と承認面積 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞JA等と連携し、直売施設やJA店舗に水郷ブランド農産物のポスター等の掲示による啓発を行い、また、申請された農産物の内、4検体を抽出し残留農薬検査を行った結果、全てにおいて不検出であり、水郷ブランド農産物認証制度により、安心安全な農産物の普及啓発ができたと考え。また、令和4年度の承認面積は64haであり、引き続き目標達成に向けて努力していく。 ＜評価に対する数値等＞残留農薬は検出されなかった。承認面積64ha	引き継ぎ風景と調和した環境に配慮した農産物づくりを推進し、滋養成分と協議・連携を図り、より制度の効果を高め、安定生産とブランド化を図る。
8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	地産地消の推進を目的に平成17年度以前から実施している。現在は、学校給食を通じて地域の食文化を知るとともに、郷土を愛する心や感謝の心を育てることを目的としている。	給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき、市内産の野菜や特産品、昔から伝わる郷土料理を取り入れた給食を実施している。指導用資料(教室掲示資料や給食ひとことメモ)を各校園へ配信し、給食を食べる体験を通して子どもたちに地産地消や食文化等を伝える。また、全国学校給食週間(1月)には、生産者のビデオメッセージを作成し各校園で活用していただいた。	【最終:令和7年度】 給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき実施する。 【目標設定の理由】 学校給食を通して地域の食文化を知るとともに、郷土を愛する心や感謝の心を育てる。	【事業の効果・ねらい】 地産地消を推進するとともに、子どもたちに地域の食文化を伝え、郷土を愛する心や感謝の心を育てるため。 【事業実績】 丁字敷や赤こんにやく等の特産物は、子どもたちにも人気があり馴染みのある食材となっており、「はちまんの日」の献立について、各校園からは「地元産の食材に感謝の心をもたせたい」という声もあがり、給食を食べる体験を通して、地産地消や郷土料理を知り、興味・関心を持つ機会となった。また、生産者のビデオメッセージは、農家の気持ちが伝わった」との感想があり、感謝の気持ちを育む機会となった。 献立表や食育啓発紙等は市ホームページやLINE配信により家庭へ配布することで、保護者へも特産物や郷土料理について伝える機会となった。	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき実施し、学校給食を食べる体験を通じて市内の児童生徒・園児に啓発することができた。 ＜評価に対する数値等＞「はちまんの日」17回/17回 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき、学校給食を食べる体験を通じて市内の児童生徒・園児に啓発することができた。また、指導用資料をLINE配信することで、家庭や地域へも周知する事ができた。	指導用資料を工夫し、引き続き実施する。

③ 地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
90①	安土文芸の郷指定管理事業＜フンコインコンサート＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『フンコインコンサート』シリーズでは、乳幼児から入場が可能で、本物の音楽(生音)を聴く機会を提供しているコンサートである。また、親子の外出しやすいつ時間帯(土曜日の午前中)に設定している。	例年は8回程度開催していたが、令和4年度は、施設の改修工事によりホールの使用可能期間が7か月のみであったため、4回の実施となった。 親子で楽しめる、聴きなじみのあるクラシックやポップス、唱歌、童謡など身近な楽曲を中心に楽しいお話を交えながら約1時間のコンサートを実施している。曲の中には、子ども向けプログラムの外出しやすいつ時間帯(土曜日の午前中)に設定し、聴き馴染みのあるクラシックやポップス、唱歌、童謡まで、身近な楽曲を中心に楽しいお話を交えながら演奏している。	【最終:令和7年度】 乳幼児も入れるコンサートであるため、すべての来場者に理解いただくことを目指します。 【目標設定の理由】 乳幼児から本物の音楽を聴いていただきたいと願って開催するコンサートです。親子の外出しやすいつ時間帯(土曜日の午前中)に設定し、聴き馴染みのあるクラシックやポップス、唱歌、童謡まで、身近な楽曲を中心に楽しいお話を交えながら演奏します。	【事業の効果・ねらい】 乳幼児から入場できるクラシックコンサートは少ないが、音楽ホールのセミナーとして小さな子ども連れのご家族にも気軽に音楽を楽しんでいただける機会を提供していく。 【事業実績】 1.参加者属性:男33%、女67%、市内34%、市外66% 2.年齢層:10歳未満3%、10代3%、20代5%、30代19%、40代8%、50代19%、60代19%、70代24%、80代以上1% 3.満足度:大変良い74%、良い21% 3.参加頻度:初めて28%、2～5回45%、6回以上19% 4.情報収集先:ポスター・チラシ54%、HP・市広報17%、知人等から12%、新聞・テレビ・ラジオ9%	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 【評価の理由】令和4年度は11月からセミナー以外壁工事期間中もありましたが、乳幼児も入れた親子で楽しめるコンサートとして4回開催した。聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 ＜評価＞ 【評価】 聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 【評価】 聴きなじみのある	

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4.妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
9①2	安土文芸の郷指定管理事業<はつらつコンサート>	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『はつらつコンサート』シリーズでは、高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけるコンサートを目指し開催している。また、年に1回無料月を用意し、多くの方々に音楽を聴いていただく機会を提供している。	例年は6回程度開催していたが、令和4年度は、施設の改修工事によりホール使用可能期間が7か月のみであったため、4回の実施となった。 聴きなじみのある曲を中心に演奏等を行い、廉価で気軽に来ていただけた。また、健康増進事業の一環として、近江八幡市が推奨している「いき百歳体操」を開催し、出演者の選定は、県内を中心に活躍しているアーティストに積極的に出演いただき、様々なジャンルの音楽を提供している。	【最終:令和7年度】 高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけるコンサートを目指す。 【目標設定の理由】 高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただける曲や気持ちのよい曲、出演者の演奏に合わせてお客様と一緒に歌う「みんなでおどろろ」のコーナーを設けており、また、健康増進事業の一環として「いき百歳体操」の放映も行います。	【事業の効果・ねらい】 1995年から続くコンサートシリーズで、様々なジャンルの音楽を提供することにより多くの方にお越しいただける事業としての位置づけを担っている。 【事業実績】 1.参加者属性:男38%、女62%、市内33%、市外67% 2.満足度:大変良い65%、良い16% 3.参加頻度:初めて30%、2～5回39%、6～10回12%、11～20回5%、21回以上9% 4.情報収集先:チラシ・ポスター45%、市広報14%、知人19%、新聞・雑誌7%、その他12%	【評価項目】市民主体の取組 <自己評価> 3 【評価理由】令和4年度は11月からセミナリオ外壁工事期間中もありましたが、高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけたコンサートを開催した。また、健康増進事業の一環として、近江八幡市が推奨している「いき百歳体操」を開催前に放映し紹介を行った。 <評価に対する数値等>1回公演で551名の入場者があり、また、1回あたりの公演で137名の入場者となりました。	1995年から続くコンサートシリーズで、様々なジャンルの音楽を提供することにより多くの方にお越しいただける事業としての位置づけを担っている。
9①3	安土文芸の郷指定管理事業<クラシックコンサート>	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	滋賀県内ホールで唯一バイブオルガン・ピアノ・オルガンを所有している文芸セミナリオで、オルガン・音楽の魅力やオルガンの魅力を伝える機会を提供する。また、オルガンと他の楽器や声楽との共演をお楽しみいただく。	令和4年度は、バイブオルガンを年間1回実施した。 文芸セミナリオ専属オルガニスト・城奈緒美によるオルガニストコンサートを開催。今回は彦根市出身で国内外で活躍中の声楽家・中嶋俊晴氏と横濱みなとみらホール専属オルガニスト・近藤岳氏をゲストに迎え、それぞれのソロや4手連弾のプログラム構成で実施しました。	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを所有している文芸セミナリオで、オルガン・音楽の魅力やオルガンの魅力を伝える機会を提供する。また、その残響の豊かさを感じていただけるよう生音にこだわった公演を実施する。 【事業実績】 1.参加者属性:男22%、女78%、市内在住19%、市外在住81% 2.満足度:大変良い83%、良い11% 3.参加頻度:初めて44%、2～5回33%、6～10回6%、11～20回4%、21回以上14% 4.情報収集先:チラシ・ポスター54%、知人24%、新聞雑誌8%、HP3%、SNS・ラジオ催事情報、問い合わせ他11%	【評価項目】市民主体の取組 <自己評価> 3 【評価理由】文芸セミナリオで、オルガン・音楽の魅力やオルガンの魅力を伝える機会を提供し、良質な音楽を気兼ねなく楽しんでもらうことを目指している。 高校生以下は、チケット価格を低額に抑えて設定しているが、入場者は少ない。 <評価に対する数値等>公演で231名の入場者がありました。	有料、ある程度高額の入場料を設定するコンサートでは、未就学児の入場をお断りしている。良質な音楽を気兼ねなく楽しんでもらうことを目指している。良質な音楽を気兼ねなく楽しんでもらうことを目指している。良質な音楽を気兼ねなく楽しんでもらうことを目指している。
9①4	安土文芸の郷指定管理事業<共催事業>	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	独自開催では招聘が困難な出演者、内容の公演を実施するため、令和元年度はNHKから公募のあった「NHK全国放送公開番組・各種イベント」に応募し採択を受けたが、新型コロナウイルス感染症防止のため開催が中止となった。 令和4年度においては、11月から工事による休館もあり、実施を希望する事業や応募要件等を満たす事業がなく、共催事業の実施には至らなかった。	-	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 独自開催では招聘が困難な出演者、内容の公演を実施するため、令和元年度はNHKから公募のあった「NHK全国放送公開番組・各種イベント」に応募し採択を受けたが、新型コロナウイルス感染症防止のため開催が中止となった。 令和4年度においては、11月から工事による休館もあり、実施を希望する事業や応募要件等を満たす事業がなく、共催事業の実施には至らなかった。	【評価項目】 - <自己評価> - <評価理由> -	当方が希望する事業内容で応募要件を満たす事業があれば、実施を行きたい。
9①5	安土文芸の郷指定管理事業<歴史講座>	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	歴史事業では、織田信長や安土城の歴史を広く紹介し、興味や関心を深めていただく事業として『歴史講座』を実施してきたが、令和4年度においては8月から工事による休館により実施できなかった。	-	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 たどる一時代ではあったが安土は歴史の中心であった。このことを自覚してもらいたいため、織田信長公や安土城などにまつわることを組織し、理解してもらったこと、安土時代のことを中心に「歴史講座」を開催する。 また、市条例に文芸の郷が実施すべき事業として「安土文化の振興及び普及に関すること。」が謳われている。	【評価項目】 - <自己評価> - <評価理由> -	学生料金を設け、中学生・高校生も参加しやすい工夫をしているが、参加者のほとんどが50代以上となっており、参加者に層が偏っている。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
90⑥	安土文芸の郷指定管理事業＜参加型事業＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『ミュージックフェスティバル』では、県内外で音楽に携わる音楽家個人および団体の方に、本格的な舞台と創作表現の場を提供し、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成を目指す。	令和4年度では、ミュージックフェスティバルとして3事業を実施しました。器楽声楽編では、出演者として一般公募によるアマチュア演奏家、県内外で活動しているアマチュアの演奏家並び、団体に様々な演奏スタイルで聴き応えるコンサートを実施。オルガン編では文芸セミナリオオルガン教室卒業生有志がオルガン教室を卒業後、オルガンサークルを立ち上げ、様々な演奏スタイルで聴き応えるコンサートを実施し、教室内に防音材を用いた練習室を設け、一般公募による演奏家・学生有志がオルガン教室を卒業し、オルガンサークルを立ち上げ日々の練習に励み、オルガン・ピアノの成長に良い効果があるとして長年多くの親子で参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【最終:令和7年度】 県内外で音楽に携わる音楽家個人および団体の方に本格的な舞台と創作表現の場を提供し、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成を目指す。 【目標設定の理由】 令和4年度では、ミュージックフェスティバルとして3事業を実施しました。器楽声楽編では、出演者として一般公募によるアマチュア演奏家ほかコンサートにテーマを設けてコンサートの一感を持たせるように、県内外で活動しているアマチュアの演奏家並び、団体に出演の呼びかけを行い、様々な演奏スタイルで聴き応えるコンサートを実施し、教室内に防音材を用いた練習室を設け、一般公募による演奏家・学生有志がオルガン教室を卒業し、オルガンサークルを立ち上げ日々の練習に励み、オルガン・ピアノの成長に良い効果があるとして長年多くの親子で参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【事業実績】 令和4年度では、ミュージックフェスティバルとして3事業を実施しました。器楽声楽編では、出演者として一般公募によるアマチュア演奏家ほかコンサートにテーマを設けてコンサートの一感を持たせるように、県内外で活動しているアマチュアの演奏家並び、団体に出演の呼びかけを行い、様々な演奏スタイルで聴き応えるコンサートを実施し、教室内に防音材を用いた練習室を設け、一般公募による演奏家・学生有志がオルガン教室を卒業し、オルガンサークルを立ち上げ日々の練習に励み、オルガン・ピアノの成長に良い効果があるとして長年多くの親子で参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞文化芸術の振興に係る各種事業を推進し、もって安らぎと活力あるより良い地域社会の創造に寄与することを目的に事業を実施していることから、『ミュージックフェスティバル』では、県内外で音楽に携わる音楽家個人および団体の方に、本格的な舞台と創作表現の場を提供することで、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成、また、今後の会館利用促進と地域の芸術文化振興につなげられた。	ホールの特徴性に合わせ、生音を重視した運営にしているが、PA(音響)を希望する出演者もある。また、多数回参加していただいている方には有料の公演であることか、運営の際に有識者に参加いただき一定のレベル以上の方を合格としている。
90⑦	安土文芸の郷指定管理事業＜リトミック教室＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『リトミック教室』では、0～3歳児が参加でき、親子でふれあいながら乳幼児の成長に良い効果を生み出すリズム体験教室として開催している。	0歳児から1歳児コース(45分間)と2歳児から3歳児コース(45分間)の2コースで、親子約30組の募集を行い、リトミック研究センターからの派遣講師による教室を開催している。広い会場で、ピアノや歌によるリズム体験や、手遊びや歌、パネルシアターなど、親子のふれあいを大切にしながら実施している。また、アンクルート等に回答された方にはモーニングランド乗車していただくなど、親子で過ごす充実した時間の提供の場を提供している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による中止とワクチン接種会場としての施設の使用があったため、4回の開催となった。	【最終:令和7年度】 天候に左右されず、親子ともものびのびと活動できる広い空間である体育館での実施が好評であり、乳幼児の成長に良い効果があるとして長年多くの親子で参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【事業の効果・ねらい】 天候に左右されず、親子ともものびのびと活動できる広い空間である体育館での実施が好評であり、乳幼児の成長に良い効果があるとして長年多くの親子で参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【評価項目】子ども・若者の参加状況 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として、運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して実施しました。家庭環境等の変化により参加親子が伸び悩みました。今後は、参加していただけるよう工夫が必要であると考えます。	教室の安全面のことから、募集人数が頭打ちしている。また、令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防を行いながらの開催いたしましたが、さらには、施設改修工事のため10月までの開催となり不規則な開催状況によるものになった。
90⑧	安土文芸の郷指定管理事業＜能楽教室＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	歴史豊かな地域にて、安土城に能舞台があった史実から『能楽教室』を開催する。地域の活性化を目指す。敷居を低くして多くのの人々に歴史能楽師から基礎から学べる本物思考の教室として開催し、伝統芸能の振興と心身の鍛錬を通じて、地域文化振興の場への貢献を目指す。	観世流シテ方の講師を招き、4期生から7期生12名が昨年度より継続して、木曜日(2クラス)と金曜日(2クラス)、および土・日曜日(現在2クラス)で受講していただく。令和4年度は講師の体調不良のため、休講措置があったが、原則月6回、年間72日の稽古および修了式、体験教室を実施している。稽古は、観世流シテ方の団体で指導を行い、それぞれのレベルに合わせた公演の経験を通じて、地域文化振興の場への貢献を目指す。	【事業の効果・ねらい】 観世流シテ方の講師の指導を受けられ、基礎から学べる本物思考の教室として開催し、伝統芸能の振興と心身の鍛錬を通じて、地域文化振興の場への貢献を目指す。	【事業の効果・ねらい】 観世流シテ方の講師の指導を受けられ、基礎から学べる本物思考の教室として開催し、伝統芸能の振興と心身の鍛錬を通じて、地域文化振興の場への貢献を目指す。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞普段、お仕事をされている働き盛りの方や、ウィークデ이의空き時間を利用して、近隣で本格的な観世流シテ方の講師の指導を受けられます。基本は3年間の教室ですが、受講生の確保が困難で、年間を通じて発表会や交流の場での成果を発表する機会のある方をが課題である。 ＜評価に対する数値等＞ 4期生 1名、5期生 2名、6期生 3名、7期生 4名、8期生 2名	稀少な分野であり、本来、敷居が高い、この印象があるので、誰でも参加できる教室として周知したい。周知の工夫が必要であり認知度が低いため、周知の工夫が必要である。今後、誰もが参加できる場として広くニーズに応えていくことも近隣ではあまり前例がない。教室のため評価を得られる発表の場を設けることが課題。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施に 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
9②	安土文芸の郷指定管理事業<貸館>	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	文芸の郷には、文芸セミナリヨ(音楽ホール)、あづちマリエート(体育館兼多目的ホール)、安土城天主 信長の館(展示館)、その他グラウンドなどのスポーツ施設があり、利用者への公平公正な判断基準に即り施設の貸し出しを行っている。	「文芸セミナリヨ」では、市内申請者に対し、6か月と3日前から予約受付を開始し、競合する場合は抽選にて決定している。市外申請者に対しては、6か月前から予約受付を開始する。 「体育施設」では、市体育協会加盟団体、スポーツ少年団等(当事業団が定める)、優先的に年間希望調査を行っている。決定後、市外競技団体等の事前申し込みの受付を行っている。日常のクラブ活動等の日程調整は1か月ごとに調整を行い、その後は随時受付を行っている。 「安土城天主信長の館」では、団体、個人の入館に対応している。また、隣接する安土城考古博物館との共通券の販売も行っている。	【最終、令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 公共ホールでは県内唯一である、バリエーションを設けている音楽専用ホール、冷暖房設備のある体育館等、文芸の郷公園の特徴を活かすことにより、文化、スポーツの振興を図る。 また、貸館にあっては、市条例や指定管理の協定に謳われているため、これらの規程に即り実施している。	【評価項目】目標の達成度 <自己評価> 4 <評価の理由> 文芸セミナリヨ(音楽ホール)、あづちマリエート(体育館兼多目的ホール)、安土城天主 信長の館(展示館)、その他グラウンドやデンスコートなどのスポーツ施設があり、利用者への公平公正な判断基準に即り施設の貸し出しを行っている。	各施設において開設以来30年近、経過し、施設、設備等の老朽化、年劣化が否めない。 また、コロナ禍及び施設改修による休館により利用者が増減したが、利用者が使いやすい施設を目指します。

3 地域文化の継承と発展

① 地域に根ざした文化活動の継承と活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
10	ふるさと文化育成事業 (地域まちづくり支援 交付金事業)	各学区まちづくり 協議会(まちづくり 協議課)	各学区の特性に応じた歴史・文化や地域資源を後世に継承していくため、地域まちづくりを支援する交付金により地域に根ざした文化活動の継承と活用を行う。	各学区において、歴史講座や文化祭、生涯学習講座等の開催やサークル団体への助成等、地域の文化資源を活用した取組を行い、地域の伝統・文化および郷土芸能の振興を図る。	【最終・令和7年度】 各学区において、地域の伝統・文化に関わる講座や催しを実施する。 【目標設定の理由】 地域の歴史・文化の継承のため。	【事業の効果・ねらい】 各学区の特性に応じた歴史・文化や地域資源を後世に継承していくため。 【事業実績】 学区まちづくり協議会では、各学区の地域特性を生かした各種事業に取り組み、特に文化祭は参加者も多く盛況であった。 一方で、事業内容によっては参加者の固定化等の課題も見られたことから、オンラインの活用や新しい事業を検討する必要がある。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞各学区まちづくり協議会において、文化祭や講座を開催し、地域の歴史文化や地域資源に関する学習の機会を設けることができた。 ＜評価に対する数値等＞各学区で年2～3回程度講座や催しを開催できた。	今後も広く住民周知や新たな取組等も検討しながら、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施する。令和5年度については、4年度の実績や課題を踏まえ既存事業の見直しを行う。
11	文化団体活動支援事業	文化振興課	①文化団体連合会への支援を通じて、地域での活発な文化芸術活動を推進し、市民が生き生きとした、活力ある地域づくりに寄与する。 ②補助金の交付により市内の文化団体が行う文化芸術活動を支援することで、市の文化芸術の発展に寄与する。	①市文化団体連合会および②市内文化芸術団体の事業に対し、補助金を交付し地域での文化芸術活動の活性化を図る。 ②は公募し、応募のあった団体の事業について、文化振興審議会における審査を通して、採択団体と補助金額を決定・交付する。	【最終・令和7年度】 市内文化芸術団体の活動を支援し、文化によるまちづくりの実現を目指す。 【目標設定の理由】 誰もが多様な文化活動に参画し、文化芸術に触れる機会を拡充する必要があるため。	【事業の効果・ねらい】 幅広い分野の文化・芸術を振興するために、市民による自主的な文化芸術メニューの実施を支援することで、市内の文化芸術団体の活性化を図り市の文化芸術の機運を高めるとともに、市民により多くの文化芸術に触れる機会を提供することができると。また、 【事業実績】 ①「近江八幡市文化団体連合会」・「市民文化祭や市民音楽祭、文化講演会等を開催。また、機関紙「俳吟」を発行。 ・普段の活動の成果発表の場、文化芸術発信の場として、市の文化芸術の振興に寄与できた。 ②「まちづくり芸術振興事業補助金交付団体」2団体内、1団体はコロナ禍で中止されたが、以下の事業は実施された。 ・自分探しをサポートする会・・・アートから生まれる次世代のコミュニケーション～デザイン画の作成、公開、販売～	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞現行制度では、団体について同種の事業につき1回限りの支援となっており、年々申請団体が減少している。また、補助金の上限が20万円であることから、より多くの市民の参加が見込まれる大型イベントに対しては、十分な支援が出来ていないと言え、難しいことから、補助金要綱を見直し、補助金額の一部要綱を改正した。 ＜評価に対する数値等＞改正点:補助金額 20万円 → (市民文化活動支援事業)30万円 (都市文化推進支援事業)100万円	まちづくり芸術振興事業補助金については、より多くの団体に活用してもらうため、SNSなども用いて様々な手法で周知を行う。

② 歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
12	人生伝承塾	生涯学習課	モノワザの伝承や日本がこれまで培ってきた技術や精神等を持つ地域人材や企業、団体等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝えることを通じて、地域人材の活用を図ると共に、児童・生徒へ技術や精神の継承を図る。	人生伝承塾の講師を冊子で紹介し、各校園での「ふるさと教育」や授業づくりの支援を図る。	【最終:令和7年度】 市内各校園所や地域において講座や講演などの講師依頼をスムーズに行うことができる。 【目標設定の理由】 様々な分野で活躍されている方々の生き方や考え方から学び、生涯学習の一環として振付かせたいため。	【事業の効果・ねらい】 近江八幡市教育委員会では、「ふるさと学習」の推進を掲げている。子どもたちが自分の生まれ育った学区や近江八幡市の伝統文化、いろいろな分野で活躍する人との出会いを通して、生き方や考え方を学ぶことにより、郷土愛やふるさとに誇りをもつ心が育つ。また、自尊感情の醸成にもつながる。 高度情報化が進み、情報が氾濫している現代ではあるが、人と出会い、その生き方から感動的な体験学習をすることで、よき効果が高まると考える。 【事業実績】 内容の充実に必要なものはあるが、平成30年度のメニューフェアのアンケートによると、9割の小学校・中学校で活用があるため満足いただけていると考える。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、メニューフェアは実施していない。今年度は、小・中学校で招いておられる講師の調査を行い、一覧にした。今後、その中から人生伝承塾の講師紹介を増やしていきたい。	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞・他の生涯学習課の事業を通して知り合った方を講師登録していただけたため。 ・事業説明を校園所長会でを行い、広く事業を知らせることを行うことができたため。 ・庁内LANからも電子データとして閲覧できるようにすること、講師依頼でアクセスしやすくてよかったため。	各校園で活用する登録講師は、例年同じ方になる傾向が強い、なかなか新規の方をお招きして学習に活かすことができていない。 様々な講師の魅力や活用方法を紹介し、活用するの幅を広げる必要がある。講師の充実を図り幅広い分野の選択肢を設定するため、人材発掘の方法を検討する。

③ 伝統文化の担い手の育成

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	選択無形文化財保存事業	文化振興課				(No.6参照)	4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	

④ ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
再掲	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター ター				(No.8参照)		
13	やまのこ・たんぼのこ 体験学習	学校教育課	(やまのこ体験学習)次代を担う子どもたちが、森林をはじめとする環境および、近江八幡市の地理的特色や産業への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、琵琶湖や琵琶湖を取り巻く森林環境を生かした体験型の学習を行う。 (たんぼのこ体験学習)地域の農家の皆さんの協力を得て、人の心を癒すものづくりを農業教育ファームとして展開することで、田畑を教室にして、知恵や心を育む地域ぐるみの学校づくりを目指す。	(やまのこ体験学習) 市内小学4年生が実際に森林に入り、木や草花などにふれ、森林に興味や関心を持つ。森林での体験を通して森林の働きや重要性について理解する。 (たんぼのこ体験学習) 「食の教育」と食を生み出す「農の教育」を一体的に進めるために、学校教育の現場だけでなく、家庭、学校、地域が一体となって子どもたちと関わり、具体的に農業を通じて身体・心を学んでいく。	【最終:令和7年度】 参加校数:12小学校	【事業の効果・ねらい】 子どもたちの自然体験の減少が危惧される中、子どもたちが森林に入り、木や草花に触れたり、田植えや稲刈りを通して農業体験をしたりすることは貴重な自然体験になっている。 【事業実績】 たんぼの子体験学習では、様々な活動を通して、五感を使って自然と触れ合うことができた。田植えから稲刈りまでを行い、実際に食することで、食べ物を大切にしうという意識が芽生えた。 やまのこ体験学習は、沖島において、森林環境学習に取り組みすることができた。市立12小学校すべてが参加した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市内12小学校全てで実施できたため。 【評価項目】障がい者・外国人の参加しやすい環境づくり ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞全ての児童が参加できる内容であったため。 【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞社会科・理科・総合的な学習の時間等と関連させて、五感を使った自然体験学習をすることができたため。	活動内容の充実を図る。 やまのこは沖島フィールドの安全性が確保されたので、令和4年度からは従前の沖島で実施することができた。令和5年度からは、やまのこサポーターを募り、児童の学習を支援できるようにする。 たんぼのこは、近江兄弟社小・中学校に5年生が在籍し小・中学校のいじめから、令和4年度より市立12小学校での実施となった。

Ⅱ 歴史的文化的遺産の保存と継承

1 伝統文化の保存と継承

① 歴史的遺産、伝統文化の継承と発展

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
14	茶道体験	幼児課	茶道に親しんだといわれる織田信長由来の近江八幡の子どもが、地域の文化に迎え、お茶会を経験することによって、地域の文化に触れ、ふるさとに愛着を持つことにつなげる。	お茶席に必要な茶道具をそろえ、その使い方や茶道の歴史などについて話を聞く。 様々な雰囲気の中でお茶席ならではのあいさつや作法を体験する。 お茶やお菓子を運んだり、いただいたりする。 (その他の子どもの活動や遊び) 耐し体験 バイオオルガン鑑賞 松明・太鼓祭りの見学体験、篠田神社の歴史や仕掛け花火の話を聞く、安土城各資料館見学、信長の館見学、安土山・八幡山へ出かける。	【最終:令和7年度】 地域の文化に触れ、ふるさとに愛着をもつ子を育てる 【目標設定の理由】 ふるさと教育推進のため	【事業の効果・ねらい】 地域の文化に触れ、ふるさとに愛着をもつことにつなげるため。 【事業実績】 茶道を指導して下さる講師を迎え、茶道の歴史や作法について聞かせていただいた。また、子ども一人一人がお茶を点て、改まった雰囲気の中でお茶会をするというところが貴重な体験となり豊かな経験をすることができた。コロナ禍のため、昨年度は2回中1回の実施となったが、継続して取り組んでいることで保護者の中にも体験の実施に期待を寄せる声が集まっている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3	コロナ禍での開催にお密に対する配慮が必要で、従来の内容では難しい、令和4年度は、密集を避けるため視聴室で実施した。今後は、新しい生活の仕方に応じた実施方法を模索し、課題解決、目標達成に向けて、茶道体験だけでなくその他の伝統文化に触れる機会についても実施に向けて検討する中で、幼児の豊かな体験を保障していく必要がある。
15	図書館運営事業(地域資料のデジタル化)	図書館	貴重資料の劣化、英算への対応とともに、貴重資料の活用をはかるため。	図書館及び市が所蔵する貴重資料のデジタルアーカイブ公開。	【最終:令和7年度】 デジタルアーカイブのアクセス件数:継続して前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 貴重資料の保存及び利活用を図る。 【事業実績】 貴重資料の適切な保存及び非来館型の研究利用に供する等、利活用を図ることができた。 デジタルアーカイブへのアクセス件数は、令和4年度:425,561件となった。(令和3年度:459,935件)	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞デジタルアーカイブへのアクセス件数前年度比92.5%となった。 ＜評価に対する数値等＞前年度比:92.5% 【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞コロナ禍の折、来館せずとも貴重資料を閲覧でき、小中学校等ではふるさと学習への活用等、市民の知る自由を保障することができた。	貴重資料のデジタルアーカイブ公開を通じて、近江八幡市の文化資源を広く周知し利活用してもらえよう。啓発を行う。
16	安土城天主信長の館 自主文化事業(安土文芸の郷指定管理事業)	文化振興課(安土町文芸の郷振興事業団)	安土城天主信長の館に設置されている「VR安土城シナター」のバーチャルリアリティ映像の機能を生かして、市民の市民の文化・芸術の振興を図る。	令和4年度は『夏休み子ども歴史塾』を、7月26日～29日の4日間開催をした。小学生から中学生を対象として、信長を者隊生になり安土城のひみつを学び、VRマニアル操作や説明員の解説などで楽しく学習していただく機会として提供しました『タイムスリップツアー』では、6月毎週土曜日に高感度の美しい画面で安土城創建当時の様子を解説入りでご覧いただけます。安土の歴史を紹介しました。限定1組ではありますが、コントローラーを自由に操作できる操作機も実施しました。	【最終:令和7年度】 【目標設定の理由】	【事業の効果・ねらい】 平成27年4月にオープンしたVR設備を使った事業として、内容を一部見直しつつ継続して開催して、通常、一般観覧している15分間のシナタームービーだけでなく、マニアル操作体験を通じて当時からバーチャルリアリティの特殊映像で、安土城創建当時の様子を仮想現実体験できる機会を提供している。 【事業実績】 ・夏休み子ども歴史塾…参加者数:26組67名 ・タイムスリップツアー…参加者数79名。よかったです。やや良かった89%、参加人数に限られるが、VRの構造上、通常の上映時間の合同の30分間で行う事業としては、最大限の内容である。参加者からはVR映像のリアルさや城・城下町の様子がイメージしやすいなど、好評な意見が多数である。	【評価項目】 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞安土城天主信長の館に設置されているVR安土城シナター1のバーチャルリアリティ映像の機能を活かした事業を展開でき、子どもだけでなく保護者も熱心に展示物の説明やVR操作の取り組みがあった。 安土地域の歴史文化に根ざした事業を中心に、復元安土城天主およびVR安土城の価値と魅力を引き出す学習会を開催できた。	今後も、『子ども歴史塾』やタイムスリップツアー』を継続して開催する予定である。通常上映の合同で行う事業であることから、今後も午前中や開館期を中心に開催する。マニアル操作は機械操作に慣れた職員でないといえ、解説案内役と連携しての作業となることから準備日数が必要である。

② 豊かな自然環境の活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
17	西の湖ヨシ灯り展の開催支援	環境課	ラムサール条約登録地である西の湖及びその周辺のヨシ群落の保全に向けた啓発を行う。	西の湖ヨシ灯り展実行委員会より、西の湖のヨシを素材にしたオブジェ「ヨシ灯り」の作成を県内各地に呼びかけ、幅広い年代層から作品を募集し展示した。	【最終:令和7年度】 ヨシ灯り展の出展数450を目標とする。 【目標設定の理由】 環境保全の重要性を周知するため。	【事業の効果・ねらい】 西の湖の環境保全に寄与するヨシの認知度が低いことから、市民全般に対し自然環境保全の啓発を行う必要があるため。 【事業実績】 ヨシの群落地であり、地域固有の自然がなられ、文化的に重要な自然環境となっている西の湖でヨシ灯り展を開催することで、次世代を担う子どもたちを中心に環境保全の重要性について考えてもらった。 【評価項目】来場者数 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞鑑賞者の参加状況を図るため。 ＜評価に対する数値等＞令和4年度 1,500人(令和3年度 2,000人)	【評価項目】出展数 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞創作者の参加状況を図るため。 ＜評価に対する数値等＞令和4年度 351件(令和3年度 379件)	ラムサール条約登録地である西の湖の貴重な自然資源を有効に活用するとともに、ヨシ群落をはじめとした自然の素晴らしさを次世代に引き継ぐため、継続して事業を実施する。

③ 人的資源の養育と連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課						

(No.12参照)

2 文化財の保存と活用

① 伝統的建造物群保存地区の保存・活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	伝統的建造物群保存 地区保存事業	文化振興課						

(No.2参照)

② 無形文化財の保存

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
18	ライトアッププロジェクト事業	観光政策課	当市は京阪神、中京圏からのアクセスが良いため、滞在時間の短い、通過型観光地となっており、滞在時間の短さや宿泊者数の少なさをから、観光客数に対する地元経済効果の低さが大きな課題となっている。その解決に向け、昼間は一定の観光客で賑わう八幡堀とその界隈を、最新の照明技術や芸術性を加味したライティング(演出照明)により、昼とは趣の違う魅力的な夜間景観を提供し、観光客の長時間滞在や宿泊客の増加等、夜間の賑わいを創出し、地域経済への波及効果を高め、観光都市としての魅力の向上を図り、併せて八幡堀を良好な姿のまま、次世代へ継承していく。	昨年度末に完成した『八幡堀ライトアップ』の運用を行った。	【最終:令和7年度】 八幡堀の観光入込客数 164千人 【目標設定の理由】 ブランドイメージ向上に伴う誘客促進	【事業の効果・わらわら】 八幡堀における夜間景観の構築とその効果を周辺一帯に波及させることが、歴史文化資産を活かした観光都市として、観光客の長時間滞在や宿泊客の増加、夜間の賑わいを高め、コロナで低迷する地域振興の活性化につながり、併せて歴史文化資産としての八幡堀を、良好な姿のまま、次世代へ継承していく保存意識の醸成を高めることにつながるため。 【事業実績】 今年度は、八幡堀ライトアップの運用を行い、ライトアップによる自然環境への影響や周辺住民の反応の確認を行った。	【評価項目】 - 自己評価 > - - 評価の理由 > -	ライトアップによる自然環境や住民への配慮。 事業効果や地域の意向を踏まえた、ライトアップエリアの拡大検討
19	指定文化財保存事業	文化振興課	昭和25年に「文化財保護法」が施行され、第3条において地方公共団体の任務として、文化財の保存が適切に行われるように努めることに行われた。本市の古いものが定められた。本市の古いもので、近江八幡市文化財保護条例」を定め、文化財の保存のための措置を講じ、もつて文化資産の向上に資することとしている。	文化財を適切に保全し、後世に伝えていくためには、文化財が破損等をした場合、その都度速やかに所有者が保存修理等を行う必要がある。この保存修理等に対して補助金を交付することにより支援を行う。 令和3年度は、重要文化財長命寺本堂、他雷保護設備修理事業、同奥石神社本殿消防ポンプが電器交換修理事業、県指定文化財吉田家住宅本館他修繕事業、同西川家住宅保存修理事業、市指定文化財旧伴家住宅保存修理事業の5件に対して補助金交付による支援を行った。	【最終:令和7年度】 指定文化財の保存・活用のための情報発信と補助の継続。 【目標設定の理由】 文化財所有者・団体を支援することによって文化財の継承を継続する。	【事業の効果・わらわら】 近年の少子高齢化や生活様式の変化により、文化財を取り巻く環境も大きく変化し、寺社の構成員が著しく不足している。そのため、文化財所有者や寺社の構成員だけでは、文化財の維持管理することが難しくなっており、文化財の保存のための措置のひたつてきており、修理等に対する補助金交付による支援に取り組む。 【事業実績】 経年劣化による修理事業とともに、防災・防犯設備の整備事業に対応し、文化財の適切な保存を行うことができた。	【評価項目】 目標の達成度 自己評価 > 4 評価の理由 > 助成を希望する文化財所有者・団体にすべてに補助金を交付することができた。 すべてに補助金を交付することによって、修理等に対する数値等 > 目標3団体→3団体すべてに交付	事業継続。今後も破損等により修理が必要な文化財保存修理事業に対して、補助金の交付による支援を継続する。

③ 埋蔵文化財の保護・保存と活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当, 3: ほぼ妥当, 2: 改善, 1: 見直し	課題・今後の方向性
20	埋蔵文化財発掘調査 事業	文化振興課	開発事業により埋蔵文化財の破毀、損失を防ぐため、記録保存等の保護策を講ずる必要がある。文化財保護法に基づき埋蔵文化財の発掘調査を実施する。	記録保存のための発掘調査を実施する。また、発掘調査を実施した遺跡について、整理調査を実施し、調査成果の報告書を刊行する。	【最終: 令和7年度】 埋蔵文化財の発掘調査を実施し、調査を行ったものについては報告書を刊行し、市民への調査成果の普及啓発を行う。 【目標設定の理由】 調査を行い、記録を公開することで文化遺産の保存と継承を行う。	【事業の効果・ねらい】 埋蔵文化財は、一度破毀されると元に戻らないため、記録保存を行う必要がある。また、調査で得られた内容を地域学習に活かす取組が求められている。 【事業実績】 調査6件を含む発掘調査71件を実施し、埋蔵文化財の記録保存を行うことができた。また、過年度の調査を整理した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞埋蔵文化財発掘調査を71件実施し、2冊の報告書を刊行した。また岡山コミュニティセンターにて前年実施した加茂遺跡調査の説明を含む調査成果発表を行った。 ＜評価＞ 71件(目標なし)、報告書刊行2冊(目標1冊)、調査成果報告1回(目標1回)	見直し(拡充)。調査成果の普及啓発について、調査で出土した遺物の展示や成果の報告会だけでなく、HPなどを使った埋蔵文化財の普及啓発事業を実施する。
21	市史編纂事業	文化振興課	本市には、先人の歴史、文化を今に伝える多数の古文書・書跡・絵画・建造物など非常に豊かな歴史文化資産が残っているが、市域の歴史をまとめた刊行物が無かったため。	『近江八幡の歴史』全9巻の発掘事業を行う。 収集した資料情報(資料原本、画像データ)の利活用を促進し、歴史的公文书箱の整備を進める。	【最終: 令和7年度】 歴史資料の情報発信を継続し、収集した歴史資料の活用機能を具体化する。 【目標設定の理由】 歴史的公文書箱の整備を進める。	【事業の効果・ねらい】 地域がその歴史を振り返り、過去を記録するのは、先人を顕彰するためだけではなく、これからのまちづくりを考えるために、現在の姿のなごりたちを擁護するといふ将来にむけた基礎作業である。とりわけ個性ある地域づくり、市民との協働が必要とされる今日、市史の編集というがたちで、蓄積された歴史を明らかにし、情報発信していく取組を進めなければならない。 【事業実績】 地域の歴史に関する様々な団体が『近江八幡の歴史』の記載内容が引用されたり、地域の歴史に関する問い合わせについて『近江八幡の歴史』掲載内容の紹介で納得いただくことが多く、市史刊行における情報発信の取組については一定の効果はあったと考える。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市史に関する講座対応について目標値を1件上回った。 ＜評価＞ 4件対応 ＜評価に対する数値等＞目標値3件→4件対応	『近江八幡の歴史』全9巻が刊行したが、既刊分の購読促進が必要である。また、これまで収集した複製資料の管理、市民利用に向けた公開について、公文書館機能への移行につなげる必要がある。

④ 市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当, 3: ほぼ妥当, 2: 改善, 1: 見直し	課題・今後の方向性
22	旧伊庭家住宅施設維持管理事業	文化振興課	市指定文化財旧伊庭家住宅の保存活用を行い、文化財に対する市民の理解と関心を高める。	市指定の文化財として保存・管理し公開をする。 ヴォーリス建築である旧伊庭家住宅を市指定の文化財として保存・管理し公開をする。	【最終: 令和7年度】 公開・おもてなし対応を継続する。 【目標設定の理由】 郷土の偉人伊庭貞剛・W・M・ヴォーリスの情報発信拠点の維持。	【事業の効果・ねらい】 ヴォーリス建築である旧伊庭家住宅の保存・管理・公開を行うことにより、文化財に対する市民の理解・関心を高め、文化財継承のための士壌を育成する必要があるため。 【事業実績】 目標としていた前年度以上の入館者数を上回ることができた。引き続き継続した入館者数増加を目標に全国的な発信を続けていきたい。	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞旧伊庭家住宅活用団体であるオレガハに公開対応を依頼し、年間を通じて利用者のニーズに対応しましたが、昨年度より利用者が下回り、改善が必要と思われる。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞全年度の利用者数を上回ることができた。	行政単独で長期的に保存・管理を行うことは困難であるため、オレガハをはじめとしたボランティア団体等との連携、協力がより重要になる。また、施設の維持費という側面を考慮すれば、入館料を徴収することも有効である。入館者数を増加させることは毎年の目標であり、重要なことであるが、将来的に旧伊庭家住宅が地域に有益となるような保存活用を目指す。

⑤ 体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当, 3: ほぼ妥当, 2: 改善, 1: 見直し	課題・今後の方向性
23	歴史文化資産普及啓発事業	文化振興課	近年の少子高齢化や過疎化の進行する社会の中、市民が歴史文化や文化財への理解を深め、またより身近に感じること、文化財の保存、活用を行い、まちづくりに活かすことが望まれている。そのため、市内の歴史文化に興味をもち、もたらぐための講座や体験学習などを実施する。	市広報での歴史情報発信の連載。講座の実施、対応。	【最終: 令和7年度】 紙媒体、デジタル双方での情報発信の継続。 【目標設定の理由】 情報発信により、郷土愛と文化の重要性を伝播する。	【事業の効果・ねらい】 歴史遺産、伝統文化の保存・保全・継承には継続的な資金が必要とされることもあり、文化的資源の価値に対して、担い手や市民が理解し、関心を深めて、誇りに思うことが重要である。さらに、平成31年の文化財保護法改正により、歴史文化資産をまちづくりに活かしていくことが求められている。 【事業実績】 講座について、学校等からの依頼があり対応することができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞小学校や来訪者の依頼に対して、4件の講座に対応した。 ＜評価に対する数値等＞目標3件→4件対応	インターネットやSNSの活用など、新型コロナウイルスの感染拡大の対策をとりながら、歴史文化資産の普及啓発を行う方法を検討する。

Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

1 文化交流の促進

① 海外の友好都市との文化交流の促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
24	国際交流事業	まちづくり協働課	多くの市民に国際姉妹都市の文化や歴史、現地の人々に触れることの意義や、姉妹都市であることの誇りを広く周知・理解してもらう。	海外友好都市との親善交流促進とこれからの国際交流事業を、財団法人近江八幡市国際協会との協働により実施・充実を図る。	【最終:令和7年度】 国際姉妹都市提携を締結している都市について、多くの市民の理解を増進する。 【目標設定の理由】 国際親善交流の促進。	【事業の効果・ねらい】 多くの市民に国際姉妹都市の文化や歴史、現地の人々に触れることの意義や、姉妹都市であることの誇りを広く周知し、理解してもらうことを目的とする。 【事業実績】 事業実施により、更に友好姉妹都市を知っていたら国際交流を図るための普及啓発に取り組んだ。また、国際姉妹都市との交流事業により、文化的、行政的、経済的効果をもたらすといえる。具体的には、青年の国際意識の育成や多文化共生社会への実現に寄与した。また、観光客誘致等につなげることも不可能ではない。特に、国際的な信頼関係を築き相互理解を深めることは、国際平和に寄与するために必要であると考ええる。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 国際交流を深めるための講座の開催や、グランドビッズ市をはじめとするシガナ州友好親善使節団の受入対応、また親善使節団の派遣の支援や、国際交流を深めるため、継続して事業を行う。	友好姉妹都市を知っていただくための事業や、姉妹都市等からの使節団の受入対応、また親善使節団の派遣の支援や、国際交流を深めるため、継続して事業を行う。
25	朝鮮通信使関連推進事業	文化振興課	市内にも朝鮮人街道として足跡を残す「朝鮮通信使」の歴史に基づき、当時の文化や国家間の善隣友好の精神を後世に伝える、地域資源として活用しよう、通信使に縁をもつ、全国の自治体等と連携する朝鮮通信使縁地連絡協議会(現NPO法人)に平成11年度から加入した。	NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)に加入し協議会活動の啓発や日韓友好親善の支援等)及びユネスコ世界記憶遺産(世界記憶遺産)登録を契機とした事業を実施する。令和3年度は、市内2小学校の平和学習として、朝鮮通信使に関する講座を行うほか、県外高等学校の朝鮮通信使関係施設の案内を行った。	【最終:令和7年度】 朝鮮通信使の精神を伝える。 【目標設定の理由】 相互を尊重する平和外交を伝えることで、国際交流の理念につながるため。	【事業の効果・ねらい】 朝鮮通信使の歴史的意義や当時の文化、通信使の記録を後世に伝える必要がある。 【事業実績】 NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)の活動を通して、当時の文化や国家間の善隣友好の精神を後世に伝える、地域資源としてまちづくりに活用しよう通信使に縁をもつ、全国の自治体等と連携を一定図ることができた。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 複数の小学校からふらふらと学習の依頼があり、郷土愛と国際交流の考えを発信することができた。 ＜評価に対する数値等＞目標3件→4件対応	ユネスコ世界の記憶(世界記憶遺産)の登録を契機に、今後さらに朝鮮通信使の歴史的意義を広く周知し、地域資源を活用した取組を展開する。

② 夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
26	広域観光および友好都市交流事業(富士宮市親善訪問)	観光政策課	両市の交流の歴史と絆の深さを本市市民らへ伝えるとともに、自らの文化を再認識することを目的に、夫婦都市である富士宮市との文化交流の促進を図る。	「富士と琵琶湖を結ぶ会」へ夫婦都市交流事業を委託し、同会が継続して実施する富士宮市親善訪問事業として、富士宮市への訪問と市民同士の交流を行う。	【最終:令和7年度】 親善訪問の市民参加者数25名 【目標設定の理由】 コロナ禍前の令和元年度実績	【事業の効果・ねらい】 両市の交流の歴史や深い繋がりを後世へ伝えるため。 【事業実績】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業規模を縮小して、夫婦都市親善事業として第66回夫婦都市親善訪問(令和4年7月28日(木))を実施した。本市は役員、事務局より計7名が富士宮市を訪問し、親善交流を行った。	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ -	単なる友好親善だけでなく、多分野にわたる都市間交流の歴史と誇り、また両市の絆の深さを本市市民らへ伝える意味をもつが、市民団体事業として自主的な実施を求めていく必要がある。
27	夫婦都市児童相互交流事業	学校教育課	夫婦都市提携を結んでいる富士宮市と近江八幡市の小学生が、豊かな自然や歴史に恵まれた中で、2泊3日の活動を通してお互いの親交を深め、健全な青少年の育成を図るとともに、両市間の友好を深め、両市の今後の発展に寄与する。	2泊3日の宿泊型体験学習。	【最終:令和7年度】 参加校数:12小学校 【目標設定の理由】 参加状況を測るため	【事業の効果・ねらい】 両市では、児童交流会だけでなく、行政・スポーツ・文化などいろいろな面で交流し、友好と親善を深めていくとともに、災害時の相互応援の協定も結ばれている。これまでの長い歴史を大切にしながら、新しい時代に向けてさらなる夫婦交流を深めていくことが期待されている。 【事業実績】 本事業はお互いの市について伝え合う中で両市の良さを感ずると同時に、ふるさと近江八幡の良さを再確認することにつながっている。	【評価項目】参加校数(校) ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 市内12小学校より、全校参加したから。 ＜評価に対する数値等＞市内12校中、参加12校	事業継続。市立小学校12校より参加者を募り、両市の代表者として交流を行う。お互いの市のことを伝え合い、学び合う活動を実施することによって、両市を愛する心育の育成を目指す。

2 地域資源を活かした産業や観光の振興

① 近江八幡版DMOの推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
28	観光ブランディング事業	観光政策課	市内には観光資源や事業者が数多く存在するものの、それらの優位性を活かして、地域外の資金や人材を呼び込むという持続的な地域経済の活性化に結びついていない。 これらのポテンシャルを活かして、当市の観光地としての競争力を更に高めることを目的として、行政や観光事業者が協力して、当市ならではの観光資源を磨き上げ、その魅力を発信する「観光地ブランディング」に取り組む。	・地域おこし協力隊(観光まちづくり)3名の配置(既存2名+新規1名) ・観光地域づくり法人(DMO)の活動支援 ・観光振興計画の改訂	【最終:令和7年度】 観光客満足度 87% 【目標設定の理由】 ブランド化による観光客の満足度向上	【事業の効果・わらい】 観光資源のブランド化を進め、観光客や地域住民の満足度を向上させる。 【事業実績】 近江八幡市観光振興計画の改訂(令和5年3月)	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ -	観光地としてのブランディングは、地域の関係者が一体となって推進すべきものであり、その舵取り役として観光地域づくり法人(DMO)の役割が期待される。DMOがその役割を発揮できるよう、その体制強化について、引き続き支援が必要である。

② 西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進

③ 沖島と湖魚文化(料理)を活用した取り組み

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
29	沖島離島振興事業	企画課	2013年7月に沖島が離島振興対策実施地域に指定されたことを受け、同年10月に島民主体で島おこしを進めるため、沖島町離島振興推進協議会が設立された。この団体の活動を官民連携で推進し進めるため、滋賀県と協働して団体事業への助言・支援及び活動費を補助している。	沖島町離島振興推進協議会が実施した下記の事業に対し、滋賀県と協働して補助金を交付した。 ・空き家利活用事業:島内の空き家を借り上げ、民泊施設、資料館として活用。 ・沖島PR事業:おきしまるしえの開催等。 ・来島者受入環境整備事業:献営対策、散策道整備。 ・定住促進事業:高齢者の買い物支援、見守り事業。 ・第2期離島振興計画策定事業:島民意見の集約、知事との意見交換。	【最終:令和7年度】 26,000人 【目標設定の理由】 来島者数	【事業の実績】 令和4年度は、令和元年7月末に閉鎖した「おきしまるしえ」の開催、散策道整備等、島民が主体となり再開された結果、コロナ禍により減少していた観光客もコロナ禍前までほぼ復活した。更に、高齢化が進む沖島の課題に対応するために、買い物支援や見守り事業も開始するなど、島内の生活環境改善に取組んでいる。	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 沖島は、生活圏と観光圏が重なり合っていることから、産業や観光振興には島民の理解と協力が必須である。よって、島の課題を把握し、島民の理解と協力を得ながら活動を行う沖島町離島振興推進協議会に対し、補助金交付による側面支援を行うことで、島民が主体となった実態に即した取組みを支援することができると見られる。 【評価項目】事業実施による効果・わらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 来島者や関係人口の増加に見られるように、協議会等の取組を通じて、多くの人に沖島を知ってもらい、多様に関わってもらおうとの体制づくりには一定の成果があったが、高齢化や人口減少に歯止めがかかっていないこと、生業である漁業従事者の減少など、多くの課題も残されている現状にある。 ＜評価に対する数値等＞ 令和4年 来島者数 25,066人	離島振興や漁業振興など様々な取組を行ってきたが、依然として止まらないう人口減少と高齢化の進行、主要産業である漁業従事者の減少が大きな課題となっている。一方で、観光客は年々増え、交流が定着し、住に繋げていく取組と、島の主要産業である漁業の振興、高齢者が安心して最期まで暮らせる取組を強化する必要がある。 また、空き家の増加や建物の老朽化が課題となっており、沖島特有の街並みを残す取組を検討する必要がある。

④ 市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
30	VR安土城事業	文化振興課	平成23年度に市内観光地への誘客や市民の文化遺産に対する意識の醸成を図り、新たな観光資源として活用するため、VR安土城の制作を行った。平成29年度にはさらに、周遊ルート構築のためスマートフォンアプリ新機利用者の獲得を目指すと共に、周遊ルートの運用を開始した。	ヴァーチャルリアリティにより仮想空間で再現され、映像に入り込んだような臨場感を体験できるVR安土城を出版社やテレビ局など多くのメディアで利用してもらうことにより、利用実績を増加させ、全国に当市の魅力を発信するきっかけとする。また、VRとGPSを連携させ、スマートフォンやタブレットで当時の風景を現地で体感できるストーリーミュージアムアプリの運用により、当アプリ新機利用者の獲得を目指すと共に、周遊ルートの運用を開始した。	【最終：令和7年度】 VRを通じて安土城の情報発信を継続して行う。 【目標設定の理由】 特別史跡安土城跡の全国的な認知向上により市民の愛着を高める。	【事業の効果・ねらい】 天主(天主)等の建物が残っていない城跡は、一般の観光客の興味を引きにくく、歴史資産の活用が非常に困難である。安土城跡も特別史跡に指定されているが、天主等の建物が現存しておらず、知名度と比べて、その内容の認知度が低い。そのためVRによる可視化により認知度を高めるために継続していく必要がある。 【事業実績】 VRのメディア等における使用が、テレビ放送や歴史雑誌等で掲載されることが多いため、広範囲へのPR効果は期待できる。 凸版印刷や関連事業者とのさらなる連携や、VR及びストーリーミュージアムを運営している自治体と協力し、これらの事業の一層のPR等が必要である。	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し 【評価項目】 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞VR安土城の活用が増え、活用時「近江八幡市提供のクレジットが入ること」で認知が高まる。城下街で運用されており、ストーリーミュージアムと同様に観光客の増加に寄与することが期待される。	凸版印刷や関連事業者、自治体間の全国的なネットワークにより、PRの増加につなげる。また、VRに關しても多くの城下街で運用されおり、ストーリーミュージアムと同様に観光客の増加に寄与することが期待される。

IV 文化芸術創造都市の創造

1 多様な文化活動の推進

① 市民主導の文化芸術活動の育成

番号 再掲	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
	文化団体活動支援事業	文化振興課					4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	

(No.11参照)

② 地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
31	多文化共生推進事業 まちづくり協働課		今後、新たな外国人材の受け入れにより、外国人住民人口が増え、また長期在住で定住化する外国人住民が増えつつある。外国人住民が増えつつある。外国人住民とともに暮らしやすくなる地域社会を形成し、多文化共生のまちづくりに向けた取組、施策を推進する必要がある。	外国人住民とともに暮らしやすくなる地域社会を形成し、多文化共生のまちづくりに向けた取組、施策を推進する。 【目標設定の理由】 外国人住民とともに暮らしやすくなる地域社会を形成し、多文化共生のまちづくりに向けた取組、施策を推進する必要がある。	【最終：令和7年度】 全ての住民が、国籍、宗教、言語等の違いに問わず、共に生きられる「多文化共生」社会の推進を図る。 【目標設定の理由】 外国人住民とともに暮らしやすくなる地域社会を形成し、多文化共生のまちづくりに向けた取組、施策を推進する必要がある。	【事業の効果・わらい】 新たな外国人材の受け入れにより、外国人住民人口が増え、また長期在住で定住化する外国人住民が増えつつある。行政だけでなく、自治会、企業、団体、住民等の協働により、多文化共生のまちづくりを推進する。 【事業実績】 新型コロナウイルス感染症に対する対策をとりつつ、交流イベント(わいわいフェスタ)等の事業を実施した。また、多くの問い合わせに対応(通訳業務・翻訳業務)することができた。また、市広報紙の掲載版(ポルトガル語・英語・やさしい日本語)の発行や、市国際協会のFacebook等により情報の発信に努めた。	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し 【評価項目】効果・わらいの達成に向けてのアプローチ＜自己評価＞ 4 【評価の理由】日本在住の外国人との交流イベント(わいわいフェスタ)や日本語教室の開催により、お互いの文化や風習を知り合いの機会が提供できた。また、通訳・翻訳業務においても、年間1,500件以上(通訳1,443件、翻訳56件)対応している。 ＜評価の理由＞日本在住の外国人との交流イベント(わいわいフェスタ)や日本語教室の開催により、お互いの文化や風習を知り合いの機会が提供できた。また、通訳・翻訳業務においても、年間1,500件以上(通訳1,443件、翻訳56件)対応している。	継続、多文化共生推進に係る事業を実施するとともに、引き続き(公財)近江八幡市国際協会と連携し、啓発事業や通訳、翻訳業務を実施する。また、外国人住民を含む市民に向けた普及啓発を図り、暮らしやすい文化共生のまちづくりに取り組む。あわせて、やさしい日本語の話し方講座も積極的に開催する。

③ 体験や参加、参画機会の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
	茶道体験	幼児課					4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	
32	市民文化祭共催事業	文化会館	市内文化団体活動の成果を発表する場を提供する。	大ホール舞台で芸能発表を行う。小ホールと他の部屋で、成果物の展示を行う。	【最終：令和7年度】 参加団体が主体となり本事業を作り上げていく姿。 【目標設定の理由】 市民の自主的な文化活動ができる事業としたため。	【事業の効果・わらい】 市内文化団体活動の成果を発表する場を提供する。 【事業実績】 令和4年度 入場者実績約300名	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し 【評価項目】市民主体の取組＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞本事業の順番や演目等を参加団体で考え、実施したため。	より多くの市民の参加が得られるよう、内容等を工夫する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
33	各学区文化祭	各学区まちづくり 協議会(まちづくり 協働課)	各学区が文化活動の拡充を図ることを目的とし、活動の成果・発表の場をつくり、活動の成果・発表の場づくりとして文化祭を開催。	日ごろのサークル活動の発表の場を提供し、学区民が文化活動の成果・発表を来賓と見せ合い、文化活動に対する参画意欲を促す。	【最終:令和7年度】 各学区の文化活動の拡充を図り、活動の成果・発表の場をつくりとして文化祭を開催する。	【事業の実績】 各学区で趣向を凝らした文化祭が行われており、例年盛況である。 令和4年度は発表、バザー、キッチンカー等のコロナ禍以前に実施していた内容を実施した学区もあり、多くの学区民が参加し盛況であった。 引き続き、これまでの文化祭の在り方や新たな参加者の拡大に繋がる事業内容の見直しや再構築が望まれる。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞各学区で文化祭を開催できた。 ＜評価に対する数値等＞11学区中の学区で文化祭を開催した。	今後、広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が図まるような事業を検討・実施していく。令和5年度においても、事業の内容を見直し、多くの人が参加しやすい文化祭事業目的を達成できるよう努める。
34	音楽振興事業	文化振興課	豊かな芸術体験を通じて得られ育まれる情緒豊かな感性や創造性は、豊かな地域社会を築く未来世代を育成することにつながるから、プロの演奏家を学校へ派遣する事業として「お出かけ演奏会」を、また、当市の特色を打ち出した文化事業として、県最大のバイオルガンを活用したワークショップ「キッズオルガン教室」「バイオルガン探険隊」を行う。	【お出かけ演奏会】市内の園所・小学校へプロの演奏家を派遣するアウトリーチ事業。対象は、未就学児及び児童。子どもたちの日常的な空間の中で、身近で響きを体感出来る距離感を大切にしながら、本物の楽器や音楽に触れる時間を創出する。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、古楽器(声楽・フルート・ポルタティエフ・オルガン)の演奏を通してふささと学習を行う。 【キッズオルガン教室・バイオルガン探険隊】県最大のバイオルガンを活用したワークショップ「キッズオルガン教室」「バイオルガン探険隊」を行う。	【最終:令和7年度】 毎年度:3事業、計20回 令和7年度実績:3事業、累計80回	【事業の実績】 【お出かけ演奏会】市内の園所・小学校へプロの演奏家を派遣するアウトリーチ事業。対象は、未就学児及び児童。子どもたちの日常的な空間の中で、身近で響きを体感出来る距離感を大切にしながら、本物の楽器や音楽に触れる時間を創出する。令和4年度は、市内4校園所において18公演を実施。小学校6年生に対しては、16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、古楽器(声楽・フルート・ポルタティエフ・オルガン)の演奏を通してふささと学習を行った。(市内子どもセンター等への出張演奏についても、依頼公演として対応した。) 【キッズオルガン教室・バイオルガン探険隊】キッズオルガン教室:市内児童を対象に計5回実施。5回の内2回、マンツーマン形式の個人レッスン強化。バイオルガン探険隊:市内親子向けに1回実施。	【評価項目】 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞コロナ禍が明け、「お出かけ演奏会」の連続について、過去最大の公演数となった。 「キッズオルガン教室」は、楽器1台に対し1人のパフォーマンス満足度を上げるため、個人レッスンのカリキュラムを新たに考案し、内容の充実を図った。	予算確保を含め、コロナ禍での実施方法を模索しながら、継続開催を目標とする。教育現場における受け入れ時間の幅が課題。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4. 妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
35	ブックスタート事業	図書館	平成19年度より事業開始。 赤ちゃんの健やかな成長を 応援し、家庭で読書を楽しむ きっかけづくりとする。 平成24年からは「スマポ」に子 守をさせないで！」と、スマポ が赤ちゃんの心や脳に与え る影響を一般社団法人日本 小児医会発行の「チランを 渡して伝え、大人からの温か い言葉かけが何より大事で あり、絵本を介して親子の楽 しい時間を作ってもらおう」促 す。	親子で絵本を読む楽しさをマッセージと して伝え、赤ちゃんにとっ初めて絵 本(ファーストブック)を1冊プ レゼントし、希望者には図書館の利用カードの 作成を行う。 マッセージを伝えながらファーストブック を作成し、必要に応じて、絵本や読み 聞かせについて質問に応えている。	【最終：令和7年度】 赤ちゃん絵本の貸出冊数前 年度比90%以上 【目標設定の理由】 家庭での赤ちゃんへの読み 聞かせを定着させる。100% 以上でないのは赤ちゃん絵 本以外の絵本の利用もあるた めとした。	【事業の実績】 市内の全4カ月児とその保護者639組にメッセー ジを伝えファーストブックを手渡すことができた。 赤ちゃん絵本の貸出冊数は31,905冊となった。コ ロナ前の状況に反し、4月、1月見健診時に図書館の 利用カードの登録され、図書館に来やすい環境づく りを行った。ブックスタート時の利用カードの登 録率は65%となった。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞貸出冊数⇒絵本や本にどれだけ親し んだかわかる数値 赤ちゃん絵本の貸出冊数 前年度比91%と、目標を上回った。 令和4年 31,905冊 (前年度比 91%) 令和3年 35,100冊 令和2年 28,526冊 令和元年 31,425冊 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞貸出冊数⇒絵本や本にどれだけ親し んだかわかる数値 赤ちゃん絵本の貸出冊数 前年度比91%と、目標を上回った。 令和4年 31,905冊 (前年度比 91%) 令和3年 35,100冊 令和2年 28,526冊 令和元年 31,425冊	継続。絵本を楽しむさ かけづくりとして継続して 実施し、保護者に赤ちゃ んへの温かな言葉かけ の大切さを伝え、引き続 き図書館の利用カード登 録を促し、カードがあれ ば、気軽に親子図書車か ら本を借りられる状況をつ くる。 また、乳幼児向けおはな し会の充実を図り、月曜 (発達段階)に応じた絵 本のおみかせやスト リーディング(すばな し)が楽しめるよう、想像 力を身につけてもらえ るよう努める。そのために は職員の育成が課題で ある。
36	図書館運営事業(お はなし会)	図書館	平成9年より事業開始。幼い 頃から絵本に親しみことで、 生涯にわたる読書習慣を身 につける。また、4ヶ月健診 時のブックスタートから継続 した乳幼児への読書支援を 行う。	令和4年度から通常のおはなし会を実 施している。近江八幡図書館で月1回、 安土図書館で月1回開催している。 乳幼児向けの絵本2冊の読み聞かせ や、手遊び・わらべうたなどを親子で楽 しんでもらう。参加者にはスタンブカー ドをつくり、参加毎にシールの手づくりの 回参加すると職員の季節のプレゼント等、参加した くなるような工夫を行っている。会が終 わった後、おはなし室を開放し、保護 者同士交流を持ってもらえようようにして いる。	【最終：令和7年度】 おはなしリーダの増加(前年度以上) 参加人数で図書館が保護者 に向けて伝えたいことを理解 してもらえようと考えている。	【事業の実績】 絵本を読んでもらうことが楽しいことであるということ を、親子で実感できる機会となっている。また、ど んな絵本があるのか、どのような絵本が良いのか 知る場となっている。子育て世代の交流の場となり つつある。 令和4年度 近江八幡図書館172人 安土図書館 55人 (8月から再開) 令和3年度 近江八幡図書館 93人 安土図書館は休止 令和2年度 近江八幡図書館 157人 安土図書館は休止 令和元年 近江八幡図書館 356人 安土図書館 178人 合計534人	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞図書館、生涯学習課、学校教育課の 協同事業として、児童文学の研究者に定書絵本の 切さを講演いただいた。1部は、教師、保育者向けと し、2部は保護者やよみかきボランティアの向けに実 施した。 ＜評価に対する数値等＞参加者201人(2部)	事業継承。ブックスタート 事業へのフォローアップ としておはなし会を充 実に実させていく。また、おは なし研究会と一緒に就学 前施設への計画的にお はなし会の実施をしてい く。

④ 文化芸術に接する機会の拡充

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	茶道体験	幼児課				(No.14参照)		
41①	文化会館自主文化事業 ＜劇団四季ミュージカル「ロバート・イン・ザ・ガーデン」＞	文化会館	生の舞台芸術を鑑賞する機会をつくる。	劇団四季によるミュージカル公演。	【最終:令和7年度】 すぐれた舞台芸術に触れる機会を提供する。 【目標設定の理由】 市民に優れた舞台芸術に触れる機会を提供することが地域の文化振興に寄与すると考えるため。	【事業の効果・ねらい】 優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、地域の文化振興に寄与する。 【事業実績】 令和4年度 入場者数911人	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市民にも広く周知されており、リピーターも多い、終演後にはにこやかな顔で体感する市民がほとんどのため。	市民の満足度をさらに上げられるよう演目を精査する。
41②	文化会館自主文化事業 ＜オンタイムたごえコンサート＞	文化会館	市民へ、生の音楽に触れる機会を提供する。	ポップスを中心とした、観客も一緒に歌う参加型のコンサート。	【最終:令和7年度】 チケット販売数700枚 【目標設定の理由】 生の音楽に触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 生の音楽演奏に触れる機会を提供し、地域の文化振興に寄与する。 【事業実績】 令和4年度 チケット販売数368枚	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞令和3年度に設定した目標、チケット販売数650枚に満たなかったため。 ＜評価に対する数値等＞令和3年度設定目標:チケット販売数650枚 令和4年度実績:チケット販売数368枚	さらに市民が満足するよう、更に内容を精査していく。
41③	文化会館自主文化事業 ＜近江笑人寄席＞	文化会館	伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。	社会人落語「泉笑会」による寄席。	【最終:令和7年度】 チケット販売数300枚 【目標設定の理由】 落語に生で触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。 【事業実績】 令和4年度 入場者数181人	【評価項目】費用対効果 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞新型コロナウィルスの影響もあり、令和4年入場者数が181人であり、広報活動の改善が必要と考えたため。	内容等を精査し市民の満足度向上に努める。
41④	文化会館自主文化事業 ＜近江八幡吹奏楽団 ファミリーコンサート＞	文化会館	市民に、吹奏楽に触れる機会を提供するため。	近江八幡吹奏楽団による家族向けコンサート。	【最終:令和7年度】 令和4年入場者数286人以上を目指す。 【目標設定の理由】 吹奏楽に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 無料で子どもと一緒に楽しめるコンサートを実施し、子どもたちの成長の一助となるように実施する。 【事業実績】 令和4年度 入場者数286人	【評価項目】子ども・若者の参加状況 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞子どもへの参加状況が令和4年度実施事業のなかで一番であったため。	内容等を精査し継続する。
41⑤	文化会館自主文化事業 ＜ミュージカル「クリスマス・キャロル」＞	文化会館	生の舞台芸術を鑑賞する機会をつくる。	あなぶきエンタテインメントによるクリスマス・キャロル公演。	【最終:令和7年度】 — 【目標設定の理由】 —	【事業の効果・ねらい】 優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、地域の文化振興に寄与する。 【事業実績】 令和4年度 入場者数238人	【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 1 ＜評価の理由＞入場者数が全席数の半分にも満たなかったため、上記の評価とした。	
41⑥	文化会館自主文化事業 ＜新春恒例 上方落語 桂米朝 一門会＞	文化会館	伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。	開館以来継続している桂米朝一門会の落語会。	【最終:令和7年度】 チケット販売数800枚 【目標設定の理由】 落語に生で触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 市民に伝統芸能である落語に触れる機会の提供。 【事業実績】 開館以来 毎年1月初旬に開催している事業で、文化会館の恒例行事として定着している。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市民にも広く周知されており、リピーターも多い、終演後にはにこやかな顔で体感する市民がほとんどのため。	米朝事務所と日程や内容等を調整して継続。
41⑦	文化会館自主文化事業 ＜第8回 7色の音楽会＞	文化会館	市内の学校の演奏発表の場を提供する。	市内の中学・高校(7校)の吹奏楽部の合同演奏会。	【最終:令和7年度】 全体(有料・無料含む)入場者数600人台を維持する。 【目標設定の理由】 市内中学・高校吹奏楽部員の発表をより多くの市民に見てもらうため。	【事業の効果・ねらい】 市内の学校の演奏発表の場を提供する。 【事業実績】 令和4年度有料入場者数448人 全体(有料・無料含む)約600人	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞令和3年度に設定した目標、チケット販売数750枚に満たなかったため。 ＜評価に対する数値等＞令和3年度設定目標:チケット販売数750 実績:チケット販売数448	内容を精査する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
42	中央公民館講座	生涯学習課	かつては、学区ごとに「公民館」が市によって設置され、そこにおいて事業の実施を行ってきた。現在は、各学区コミセンにおいて各種事業(講座・講演・学習会・体験教室等々)を実施している。ただ、このような事業実施形態は、より地域に密着した課題を学べる。しかし、市民全体の共通の学習の観点では十分な対応ができていない。そこで、その点をカバーすべく、市の中央公民館事業として本事業を実施している。	10月に中央公民館講座10周年記念事業として、本市出身乾友記さんの指導者であるアーティスティックスイミング日本代表ヘッドコーチ井村雅代さんの講演会、11月には親子山登り、2月には親子水鳥観察会を実施した。	【最終:令和7年度】生涯学習の機会を通して、地域のまちづくりのリーダー的人材を育成する。 【目標設定の理由】近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画に沿った目標であるため。	【事業の効果・ねらい】ふるさと近江八幡への愛着と誇りを醸成するとともに、社会の変容を反映した現代的な社会課題を学ぶ機会を提供する。 【事業実績】10月の講演会は528名、11月の親子水鳥観察会は親子12組の参加があった。30組、2月の水鳥観察会は親子12組の参加があった。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 中央公民館講座10周年記念事業の開催には5500名を上回る多数の参加者があり、また、参加された方からは「迷ったし、苦しい時、自分の気持ちにのっとる。多くの市民に心のある内容(テーマ等)の講座を検討すること」などの感想をいただく、参加者から大変好評だったため。	事業継続、多様な媒体による市民周知に努めることにも、多くの市民に心のある内容(テーマ等)の講座を検討すること
43	市民大学講座	生涯学習課	近江八幡市がめざす生涯学習社会の実現に向けて、学習をとおして人づくりに取り組むことを目的とした理念として、「ふるさとへの愛着と誇りから学びが生まれる。つながる楽しさが創る 元気なまち 近江八幡」～郷土愛が初級・近江八幡の生涯学習社会～」と定めている。これを達成するため、市民が学ぶ場としての「市民大学講座」を開催している。	各分野の有識者を講師に招き、対面に5つの講座を年5回開催した。 内容:歴史1回「近江八幡の聖徳太子」健康1回「健康にとっての睡眠の重要性」文化1回「書とその周辺」防犯1回「消費者被害と防止」子育て1回「心の育つ読み聞かせ」	【最終:令和7年度】ライフステージごとに生涯にわたって学びを継続できるような学習機会を提供する。 【目標設定の理由】近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画に沿った目標であるため。	【事業の効果・ねらい】地域課題や市民ニーズに沿った講座を開催することで、市民が生涯にわたって学習活動を行い、生活に潤い、やきがきを見出して自己実現が図ることができている機会を提供する。 【事業実績】参加者数 内容:歴史1回「近江八幡の聖徳太子」25名、健康1回「健康にとっての睡眠の重要性」11名、文化1回「書とその周辺」15名、防犯1回「消費者被害と防止」18名、子育て1回「心の育つ読み聞かせ」21名	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 市民大学講座の事後アンケートで「大変よかった」「はかつた」と肯定的に回答した参加者の割合が95%となっており、市民の満足度が高い講座が開催できたため。	事業継続、多様な媒体による市民周知に努めることにも、多くの市民に心のある内容(テーマ等)の講座を検討すること
44	やよいコンサート	総合医療センター総務課	2005年10月、若くしておどなりだされた故・浅野弥生氏のご遺族より、音楽をこよなく愛された弥生氏の遺志を尊重してベーズンドルファアのグラントピア/牧野弥生氏 希冀でコンサートを実施し、ご遺族の希望をかなえ、心を癒す豊かな時間を分かち合います。	当院エンタランスホールにあるベーズンドルファアのグラントピア/牧野弥生氏 希冀でコンサートを実施し、ご遺族の希望をかなえ、心を癒す豊かな時間を分かち合います。	【最終:令和7年度】1回/年開催 【目標設定の理由】プロの奏者によるコンサート開催を想定しているため	【事業の効果・ねらい】病院には体や心を病んでおられる患者様が多数来院されます。弥生氏の遺志を尊重し、音楽を通じて関病されている患者様に、穏やかな時間を過ごしていただけるような空間づくりが必要と考えます。 【事業実績】新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、院内での感染防止のため密集を伴うイベントの開催自粛をしていただくため、開催はありませんでした。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞ 新型コロナウイルス感染症感染拡大につき、コンサートの開催はありませんでした。 【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 過去の演奏会後の聴衆の様子(満足や、出演者からの「また是非出演したい」とのご感想を頂戴していることから、やよいコンサートに対してよい評価をいただいていると感じています。	継続、コンサートの開催支障業務の時間的・人的な負担、音量等の配慮が必要、新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策を行い、開催に向けて前向きに検討。継続的な活動として取り組んでまいります。
45	絵画展示	総合医療センター総務課	入院生活という非日常の生活を過ごされている入院患者様をはじめ、外来患者様、患者のご家族様など多くの方々に絵画を鑑賞していただくことで癒しの空間を提供する。	医療センター2階の周回通路の壁面に市内の絵画愛好者グループ「八美会」の絵画常設展示スペースとして提供。展示作品は、①モチーフは季節感のある風景や静物とする。②危険防止のため、額縁のガラスを入れない。③絵の題名は明るい題名とする。など、医療機関での展示であることに配慮された作品を4半期ごとに入れ替えていただいている。	【最終:令和7年度】絵画展示の継続 【目標設定の理由】長年展示いただいていた、多くの方に絵画を鑑賞していただくため。	【事業の効果・ねらい】入院患者様をはじめ、外来患者様、患者のご家族など、多くの方々に絵画を鑑賞していただくことで、癒しの空間を提供する。 【事業実績】医療機関での展示であることに配慮された作品を、4半期ごとに入れ替えて展示いただいている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 当院が直接実施している事業ではないが、病室や待合室の待合室、入院しておられる患者様やご家族が足を止めて、絵画を見入らるなど、入院治療や調病生活という非日常の生活の中でも、心を和らげ、癒しとなる機会が提供できている。	継続、周回通路という特性から絵画の展示に限定されるが、当院としても継続した展示を検討していきたい。
46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	近江八幡市を代表する火祭りのひとつとして左義長まつりの歴史、文化を継承するとともに、地域活性化や市民の充足感の獲得に繋がる文化芸術を身近にすることを目的とする。	左義長まつりの写真を広く募集し、審査会において優秀作品となったものについては市内の観光施設において展示及び表彰を行う。また、応募作品については左義長まつりのチラシやポスターなどにも活用される。	【最終:令和7年度】写真コンクール応募数 600点 【目標設定の理由】コロナ禍前の平成31年度実績数値	【事業の効果・ねらい】文化の継承が目的とされており、継続して行うことが必要であるため。 【事業実績】写真コンクールについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。その代わりとして、SNS(インスタグラム)を活用した祭りの盛り上げを図った。	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ コロナ禍を乗り越え、写真コンクールの復活と、SNSを活用した募集や対象範囲の拡大(その他のまつり・風景)など、新たな取組の検討を行う。	コロナ禍を乗り越え、写真コンクールの復活と、SNSを活用した募集や対象範囲の拡大(その他のまつり・風景)など、新たな取組の検討を行う。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
47	図書館運営事業(歴史講座、コンサートの開催)	図書館	地域の文化財や自然を未来へ語り伝えていく。また、親子で読書や物づくりの楽しさを体験してもらう。	地域に根差した歴史や文学に関する講演会や展示を開催する。また、ワークショップなどを通して、子どもたちに絵本の楽しさや物づくりの喜びを体験を通して知ってもらう。	【最終:令和7年度】 年2回以上実施 【目標設定の理由】 一般向け・児童向け:各1回以上	【事業の効果・ねらい】 地域の自然・文化を知ってもらい、次世代に受け継いでもらうため、講演会等を開催するとともに、読書の楽しさを広げるために、絵本作家によるワークショップ等を開催する。 【事業実績】 令和4年度は、関係機関や市民団体と連携し、子ども読書週間をテーマとした尾野三千代氏講演会や、文学の楽しさを体験してもらうよう声優朗読や、文学の楽しさを体験してもらうよう声優朗読と劇を実施した。また、子育て団体「ママズファン」と共催で、移動図書館車を活用し子どもや障がいをもった子どもたちを対象に絵本の楽しさを伝える取組を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 目標値を達成した。 【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞市民団体等と協働し実施した。	継続、他団体と協力、連携を図りながら、継続していく。
再掲	安土文芸の郷指定管理事業	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)				(No.9の再掲)		
48	関連施設における自主事業(資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史跡安土城跡ガイダンス施設)	文化振興課(指定管理)	(資料館)郷土文化の向上ならびに教育および学術の発展に資するために、資料の収集、展示および貸借等を行う。 (旧西川家住宅)保存、公開することにより市民文化の向上に資するために展示を行う。 (かわらミュージアム)教育、文化、観光等の振興を図るために、資料の収集、展示および貸借等を行う。 (ガイダンス施設)文化の向上および観光客等の利便性の確保。	各施設の事業目的に沿った指定管理者の企画による自主事業を行う。	【最終:令和7年度】 市の歴史・文化・芸術に関する資料を公開する。 【目標設定の理由】 市民への歴史・文化等への関心を理解を深めるため。	【事業の効果・ねらい】 市内に残る歴史資料の保存・管理・公開を行うことにより、文化財に対する市民の理解・関心を深め、文化財継承のための土壌を育成する必要性があるため。 【事業実績】 資料館、旧西川家住宅及びかわらミュージアムでは前年度以上の入館者数を上回ることができた。また、学校や団体等への案内も行い、次世代に向けた継承活動も行った。引き続き来館者増加に向けて情報発信や企画を実施し、関心が高まるよう努める。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞チラシ・ポスターだけでなくラインやHPによる情報発信を行った。	資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアムについては、今年度より5年間の委託契約に変更した。コロナ禍ではあるが、より多くの人に来館してもらえるよう、周知方法について検討する。
49	関連施設における自主事業(安土城郭資料館、白雲館)	観光政策課(指定管理)	白雲館 【背景】国の登録文化財。明治10年に八幡東学校として費用の大半を近江商人の寄付金で建築されたという歴史的にも貴重な洋風建築物。平成6年に市が解体修理を実施。平成18年4月から指定管理者による運営に移行。 【目的】明治建築の原型を保存し、伝統文化の保存と継承及び地域文化の普及振興を図り、多くの人々がふれあい、文化を生み出す力を育むとともに、観光及び遺産の振興を図り、地域の活力を増進させることを目的とする。 安土城郭資料館 【背景】昭和63年に開館。平成21年4月から指定管理者制度による運営に移行。 【目的】主に中世から近世における城郭に関する資料及び安土城のひな型を展示し、地域文化の普及振興と観光の振興を図ることを目的とする。	各施設の設置目的に沿って、指定管理者(一般社団法人近江八幡観光物産協会)が貸借及び自主事業を行う。	【最終:令和7年度】 観光客入込客数(城郭資料館) 20千人 【目標設定の理由】 自主事業による誘客促進	【事業の効果・ねらい】 地域文化の普及振興と観光の振興を図り、地域の活力を増進させる。 【事業実績】 オリジナル限定土産品の販売や喫茶メニューの開発をはじめ、誘客促進に向け東近江広域の周遊事業等に参画し、入館者数増に取り組めた。	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ -	新型コロナウイルス感染症の影響で減少した入館者数の回復、客単価の向上を図る。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
50	市美術展覧会	文化振興課	市民に対し日常の創作活動発表の場を提供することにより、より一層の創作意欲の向上を図り、市の芸術文化の発展をめざす。また展覧会を通して市民に芸術文化を身近に鑑賞し親しむ機会を提供し、市民文化の向上を図る。	美術家を委員とした市美術展覧会委員会を開催し企画の詳細を決定。平面、立体、工芸、書、写真の5部門において、各審査員による審査後、入選作品を5日間文化会館で展示。特に優れた作品に対し特選、準特選、奨励賞等の賞を決定し、表彰する。さらに、作品鑑賞会を行う。	【最終：令和7年度】 展覧会を通して、誰もが文化芸術活動に参加できる環境づくりを実現する。 【目標設定の理由】 文化振興基本計画に基づき、誰もが身近に文化芸術活動に触れる機会が必要であるため。	<p>【事業の効果・ねらい】 平成27年に実施した市民アンケートでは、「関心のある文化・芸術の分野」は音楽に次いで『美術』と答えた人が54.6%であった。しかし、市内には常設の美術館がなく、市民が気軽に、身近な場所である芸術性の高い美術作品に触れる機会は少ない。また、創作者は、各々所属する団体に展示会等を開催している場合もあるが、団体に属さない人たちにとっては、創作活動発表の場が制限されている。審査員による審査や講評にについても、ある程度大きな展覧会でないの実施は難しく、市美術展覧会がその貴重な機会となっている。</p> <p>【事業実績】 出品者にとっは創作活動発表の場であり、識者による審査を受け講評を得ることができる。入賞者は、評価・表彰されることで今後の活動の励みとなっている。また、鑑賞者にとっは、身近な場所である美術作品に触れることのできる機会となっており、鑑賞会は直接美術家からアドバイス等を得られる貴重な機会となっている。</p> <p>平成29年度 出品者253名、来場者数1,126名 平成30年度 出品者237名、来場者数920名 平成31（令和元）年度 出品者209名、来場者数917名 令和2年度 コロナ禍で中止 令和3年度 出品者183名、来場者数700名 令和4年度 出品者200名、来場者数940名</p>	<p>【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞前年度と比較し、出品者数は増加したが、出品点数が年々減少傾向にあるため。</p> <p>出品数 :183名(令和3年度) ⇒ 200名(令和4年度) 出品点数:257点(令和元年度) ⇒ 236点(令和4年度) ※例年、出品点数を各部門1人2点までとしていたが、令和3年度は、コロナ禍のため、各部門1人1点までと制限。</p> <p>＜評価に対する数値等＞上記のとおり</p> <p>【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞前年度と比較して、来場者数が増加し、コロナ禍前の水準まで回復したため。</p> <p>＜評価に対する数値等＞来場者数:700名(令和3年度) ⇒ 940名(令和4年度)</p> <p>【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞来場者アンケートより、「大変よかった」「よかった」が全体の8割となったため。</p> <p>＜評価に対する数値等＞アンケート回収総数数:(332枚)、回収率:35.3%</p>	事業継続。より多くの市民に周知し、参加してもらうための方法を検討する。

⑤ 誰もが文化活動に参加できる環境づくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	人権問題は身近に数多くあるにも関わらず、多くの人が人権について考えるきっかけづくりとなる場を提供しなければ、人権問題を自分ごととして捉えることは難しい。人権問題の解決に向けた啓発活動とともに、相互理解に向けた交流を進めることで、人権意識の向上を図りたい。	人権教育・人権啓発活動に取り組む市民団体である近江八幡市人権尊重のまちづくり推進協議会(市人権協)に委託し実施した。「音楽とスポーツと人権」をテーマに、2025国スポ・隠スポのイメージ「ダンス・ダンス・ダンス」を作曲された手話シンガーソングライターのyokkoさんによるオープニングと、「あきらめない心〜私にできないこと、周りにできること〜」と題して元バレーボール水泳日本代表・ヴァイオリニストの伊藤真波さんによる講演を行った。	【最終：令和7年度】 アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。 【目標設定の理由】 人権問題を自分ごとと捉え、人権について考えていただく機会とするため。	<p>【事業の効果・ねらい】 事業の目的と同じ</p> <p>【事業実績】 当日の参加者数は95名で、アンケートの回収数は54枚であった。オープニングのyokkoさんが急病のため当日は映像を流す対応となったが、全体の満足度としては、「よかった」と「まあよかった」が9割以上となった。</p>	<p>【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞アンケートの満足度について、「よかった」「まあよかった」が9割以上となった。</p> <p>＜評価に対する数値等＞アンケートの満足度について、「よかった」と「まあよかった」が9割以上となった。</p> <p>【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞手話シンガーや伊藤真波さんによるヴァイオリン演奏により、音楽を通じて障がいのある人の人権について考えていただけた。また、2025国スポが隠スポと関連付けながら、障がい者スポーツについて知ってもらう機会となった。</p> <p>【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞参加定員500名のところ、当日参加者数は95名であり、空席が目立った。</p> <p>＜評価に対する数値等＞当日参加者数95名</p>	継続。近江八幡市人権尊重のまちづくり推進協議会(市人権協)への業務委託により開催した。市民人権協の活動の活性化とともに、市民の自主的な企画・啓発の事業として実施していく。新型コロナウイルス感染症流行の影響により一昨年度と昨年度はオンラインでの開催となったが、2年ぶりに市民参集型での開催ができた。参加人数が参加定員より大きく下回っていたため、より多くの市民に参加いただけるよう、魅力的な企画や効果的な広報を検討する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	障がい者の文化的活動を通じて、障がい者本人が文化に参加し、親しみ、また障がい者以外の市民への障がいへの理解を深めるため、後援等を行うことによりこれを支援する。	障がい者が行う文化活動や講演会等の後援、市広報やHPによる情報提供を行い、障がい者への理解を深めるための支援を行う。	【最終:令和7年度】 障がい者に対する理解を深め、誰もが文化活動に参加できる環境をつくる。 【目標設定の理由】 障がい者の有無に関わらず、誰もが地域で安心して暮らしていただくためには、市民も障がい者とともに文化活動や講演会等に積極的に参加し、障がい者に対する理解を深める必要があるため。	【事業の効果・ねらい】 ・障がい者の有無に関わらず、誰もが地域で安心して暮らしていただくためには、市民も障がい者とともに文化活動や講演会等に積極的に参加し、障がい者に対する理解を深める必要があるため。 【事業実績】 ・平成30年度:後援8件、広報掲載12件、HP掲載3件 ・平成31年度:後援12件、広報・HPについては、毎月スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載している。 ・令和2年度:後援3件、広報・HPについては、毎月スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載している。 ・令和3年度:後援3件、広報・HPは、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会の開催について掲載している。 ・令和4年度:後援3件、広報・HPは、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会の開催について掲載している。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞広報・HPにて、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載した。 【評価項目】障がい者・外国人の参加しやすい環境づくり ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞当事者団体や支援団体等と連携して、障がい者の余暇活動支援事業等の周知を随時行った。	障がい者支援のため、文化活動や講演会等について市の後援を行うとともに、市広報やHPにおいても、市民に広く情報を提供し周知するなど、今後とも継続して事業に取り組む。
57	市民共生センター運営事業(地域共生型サークルづくり)	障がい福祉課(市民共生センター)	高齢者や障がい者の団体やサークル等の活動の提供。	講座の開催のべ61回 【内訳】 ・ハブコン教室 15回・寄せ植え教室 1回・切り絵教室 2回・パソコンフオリ教室 26回・囲碁将棋交流大会 2回・折り紙教室 5回・目黒教室 3回・折り紙教室 3回・ポチャ教室 4回	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者の健康増進、居場所づくりを図る。 【目標設定の理由】 本施設の設定目的に基づく。	【事業の効果・ねらい】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指すため。 【事業実績】 参加人数288名(高齢者179名、障がい者59名、健常者50名)	【評価項目】事業実施による波及効果 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞自主事業の実施により、高齢者及び障がい者の健康増進・居場所づくりへの貢献や、市民との交流機会としての一定の役目を果たすことができたと考えられる。 【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞想定通りの参加者が来館されたことから、広報・HP、チラシに加え、市の公式LINEを活用したことにより、十分な周知が行き渡ったと考えられる。	引き続き、高齢者及び障がい者(児)の利用拡大を図るため広報、HP、チラシ、公式LINE等による告知を行う。
58	市民共生センター運営事業(ふくふくフェスタ)	障がい福祉課(市民共生センター)	障がい者を個性として捉え、障がい者や高齢者など地域に住むすべての市民が互いに人権を認め合い、共に生き、共に支え合う市民社会づくりに向けて、フェスタを開催。以前は「はつらつのつどい」として、市民共生センター内で単独開催されたが、令和2年度より、「ふくふくフェスタ」として、市文化会館にて障がい福祉課と共催する形となった。	「共に生き、共に支える」をテーマに、ダンスや手話歌の発表、自虐術の普及や発達障がい・知的障がいに関する講演を行う。また、当センターで活動中の団体が手掛けた、絵画や絵手紙、書道等の作品展示も行う。	【最終:令和7年度】 高齢者・障がい者(児)の参加促進や、障がい者週間に合わせて障がいへの理解促進。 【目標設定の理由】 近江八幡市文化振興計画の基本目標6「協働の仕組みづくり」に基づく	【事業の効果・ねらい】 高齢者・障がい者(児)の参加促進や、障がい者週間に合わせて障がいへの理解促進のため。 【事業実績】 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら(参加者及び来場者の検温、手指消毒等)、予定通り実施した。	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞本事業により、高齢者及び障がい児を中心としたサークル活動や、各種障がいの内容について、参加された市民への理解を広めたことから、「誰もが文化活動に参加できる環境づくり」に関して、ある程度貢献することができたと考えられる。	引き続き、毎年12月の障がい者週間に合わせた開催に向けて、広報、HP、チラシ等による告知を行う。

⑥ 顕彰の実施

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
59	子ども文化芸術賞	文化振興課	子どもたちの豊かな心と感性を育む上で、文化芸術活動の推進は極めて重要であり、様々な文化芸術活動に励む子どもたちを応援し、文化芸術活動への意欲を高めることを目的に顕彰事業を行う。	受賞候補者及び受賞候補団体の公募を行い、受賞者を決定し、表彰式で表彰する。 令和3年度は、10月1日から12月17日まで、受賞候補者や団体の応募を行い、小・小・中学校・保護者を通して計15件の応募から、審査会で計14件(「子ども文化芸術特別賞」3名、「子ども文化芸術審査会特別賞」1団体)を受賞決定。令和4年3月27日(日)に、文化会館小ホールを会場に受賞者の表彰式を行った。また、コロナ禍で成果発表や作品展示ができない代替策としてライブショーを作成し、表彰式や市の公式YouTubeで受賞者および活動・作品紹介を行い、当賞のPRを行った。	【最終:令和7年度】 各賞のレベルを高めていく 【目標設定の理由】 今後の活躍が期待できる人材をより多く発掘するため	【事業の効果・ねらい】 次代の担い手である子どもたちの文化芸術活動への支援は、地域の文化継承にも繋がる重要な事項である。少子化の時代背景も受け、幼少期からの文化芸術活動の活性化は、今後の課題となる。受賞者自身の意識高揚だけでなく、組織(所属団体)が活性化され、努力と成果に対し「公式に認められる」機会として、当賞は当市の表彰文化の向上に寄与する。 【事業実績】 表彰の対象者は18歳以下の市内在住、通学者またはそれらの者を主に有する団体、各学校や地域、市広域HPで応募を呼びかけ、応募件数は年々増加傾向であり、当賞の認知度が少しずつ増している。表彰式では、表彰状および権の授与の他に、子どもたちの活動発表の場として、作品の展示を行い、日ごろの活動成果を式典出席者の前で披露する舞台発表の時間を設けている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞令和3年度応募数15件は、令和4年度応募数34件と大幅に増加した。応募数が増加は、子ども文化芸術賞が各小・中学校で認知された結果であり、各賞のレベルを高めることにつながった。 【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞ ①募集要項を見直し、推薦、申請の段階で受賞歴の統一(例:特別賞の場合、全国レベルのコンテストを2重受賞など)を行い、応募期間の拡充と市内各小・中学校、高等学校や自治会にも啓発していく必要がある。	子どもの文化芸術活動への意欲を高めることを目的に、今後も継続実施。 賞の創立から10年が経過したことから、過去の受賞者や団体で、その後文化芸術分野へ進み、さらなる飛躍を遂げたアーティストとして活躍している人の有無など、追跡調査の可能性も探っていく。

⑦ 文化会館の積極的な利用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	文化会館自主文化事業	文化会館				(No.10参照)	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	

2 文化の情報の収集と発信

① 文化情報の収集・発信

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
60	広報事業	秘書広報課	広報紙やケーブルテレビ等を通じて、市内各施設や民間が行う情報の発信を行い、市民への啓発を図る。	広報紙、ケーブルテレビ、SNS等を活用した情報発信および報道機関への情報提供。	【最終:令和7年度】 さまざまな媒体を活用し、発信すべき情報を適宜発信する。 【目標設定の理由】 _	【事業の効果・ねらい】 適切な時期に正確な情報を市民に発信するため。 【事業実績】 広報紙の読者からは、内容や見やすさについて良い評価を得るとともに、滋賀県広報コンクールにおいて、広報紙の部で知事賞を受賞した。掲載依頼者からは、紙面の内容について満足いただいている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ ①広報紙やホームページ、SNSなどを活用し、必要な情報発信ができています。	紙面や締め切り等により、広報紙ではすべての情報を扱うことが困難であるため、さまざまな媒体を活用して情報発信する。
61	読書活動推進事業 (館報、ホームページ)	図書館	市民への読書普及および生涯学習の推進をはかる。	・館報の発行 ・ZTVによるおすすめ本の紹介 ・図書館HPによる行事案内、月替わりのコーナー展示紹介	【最終:令和7年度】 情報発信(館報・HP)回数 各12回以上 【目標設定の理由】 月1回×12か月	【事業の効果・ねらい】 あらゆる年代に向けて広報を行い、図書館利用及び生涯学習を推進する。 【事業実績】 ・一般向け、児童向け館報の発行(毎月) ・YA向け(ヤングアダルト:中高生向け)館報発行(4回) ・図書館HPによる行事案内、コーナー展示紹介(随時) ・ZTVによる図書案内(毎週) 上記活動により、図書館の利用促進を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ ①一般、児童向け館報の発行を毎月行うことができた。前年度1回しか発行できなかったYA(中高生向け)館報を年4回発行できた。 ・図書館ホームページでのお知らせ(コーナー)展示、行事、おはなし会を68回行った。どれも目標を大きく上回った。 ＜評価に対する数値等＞全ての項目において目標とする、情報発信回数を達成。	館報については、より親しみやすく、図書館利用につながる魅力ある紙面づくりに努める。また、読書離れの傾向にある中高生への働きかけを強化する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
62	ヴォーリス建築文化 ネットワーク	文化振興課	ウリアム・メル・ヴォーリス やヴォーリス建築事務所が 携わったヴォーリス建築は日 本各地に点在し、その多くは 保存、活用が行われている。 しかし、それぞれの連携が十 分でなく、ヴォーリス建築を より広く発信し、啓発するた めには全国に広がるヴォーリ ズ建築所有者を中心とする 広域なネットワークを形成す ることが求められている。	ヴォーリス建築所有者、研究者を中心 とした全国ネットワーク組織(平成19年 度発足)に加盟することで、広域的で 効果的な普及啓発活動を行う。 ・インターネット(HP、facebook、T witter)での啓発活動。 ・講演会開催(令和3年度は、市内 ヴォーリス学園内のヘルト記念館で開 催)。 ・見学会開催(令和3年度は、豊郷町及 び本市で開催の予定であったが、新型 コロナウイルス感染症拡大の影響で中 止。)。 ・ヴォーリス建築マップの頒布。(令和2 年度に改訂版を作成・配布。) 他	【最終:令和7年度】 調査研究と啓発普及の推 進。 【目標設定の理由】 ヴォーリス建築を中心とした 近江八幡市の建築文化やそ の理念をもととするまちづくり の推進。	【事業の効果・ねらい】 ヴォーリス建築所有者、研究者を中心とした全国 ネットワーク組織(平成19年度発足)に加盟するこ とで、広域的で効果的な普及啓発活動を行う。 【事業実績】 ネットワーク組織により、各種事業を実施すること で、広域的なヴォーリス建築の普及啓発活動に繋 げることができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 幹事を務めるヴォーリス建築全国ネッ トワークの見学会を近江八幡市で開催し、市民や県内 外のひとりに近江八幡市のヴォーリス建築に関する歴 史文化の情報発信を行うことができた。	継続実施 ネットワーク 加盟団体で、情報交換 等を行い、各種普及啓 発事業を実施することで ヴォーリス建築について の理解を深める。
63	マナビイ通信	生涯学習課	市及び関連施設の行事・講 座等を専門的にまとめて広く 周知するため、市民への学習機会 の提供と充実及び学習成果 が生かせる「生涯学習社会」 の創出に開始した。	生涯学習の情報を収集し、市民へ提供 するため、市及び市関連施設の行事・講 座・教室の予定一覧を上・下半期ご とに分けて作成し、各ホームページに 掲載する。市のホームページにも 掲載する。	【最終:令和7年度】 生涯学習の情報を収集し、市 及び市関連施設の行事・講 座・教室の予定一覧を提供 する。 【目標設定の理由】 市及び市関連施設の行事・講 座等を専門的にまとめて広く 周知するものが不足していた ため。	【事業の効果・ねらい】 生涯学習を取りまとめて情報提供をすることで、 市民の学習機会に対するニーズに応えることがで きる。 【事業実績】 生涯学習の情報を収集し、市民へ提供するため、 市及び市関連施設の行事・講座・教室の予定一 覧を上・下半期ごとに分けて作成し、各ホームペー ジにも掲載した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ コミュニティセンター等に配属や市HP 掲載など周知に努めているが、自治会に回覧し、も ろに口頭で伝えていくなどしてより幅広い層に情報提供する必要はある。 今後継続して市及び市 関連施設の行事・講座等 の学習機会の充実を図 る。	本通信の市民への周 知、市民の学習ニーズと 提供情報のマッチング、 情報提供数が限られて おり市全体の学習機会を 網羅できているかどうか が課題である。また、学 習成果を生かす場につ いて情報提供できていな い点も課題である。

② 文化団体にに関する情報の発信

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
64	広報活動	各学区まちづくり 協議会(まちづくり 協議課)	各学区におけるまちづくり協 議会の存在や地域文化活 動の内容を広く周知し、地域 活動の活性化を図る。	各学区まちづくり協議会が取り組み、 実施している事業やその実績報告を主 に学区民を対象に周知に努め、各学 区における広報紙を発行し、地域活動 の活性化を図る。	【最終:令和7年度】 地域の文化活動の内容を広く 周知し、地域活動の活性化 を図る。 【目標設定の理由】 地域の文化活動の拡充を図 るため。	【事業の効果・ねらい】 各学区におけるまちづくり協議会の存在や地域文 化活動の内容を広く周知し、地域活動の活性化を 図る。 【事業実績】 各学区内で「まち協だより」などを発行し、情報が 発信がされている。また、8学区においてHP・プロ グが開設されており、学区内における行事、情報 や、予定が学区民に周知されている。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 各学区まちづくり協議会において月1 回「まち協だより」を発行し、文化活動の内容を広く周 知し、地域活動の活性化を図った。 ＜評価に対する数値等＞ 11学区×1回×12回＝132 回	現在8学区がHP・プログ が開設されているため、 その他の学区の開設を 推進することで、地域文 化の積極的な発信を目 指す。
65	文化団体機関紙発行 (文化団体活動支援 事業)	文化振興課	文化芸術にかかわる活動を団 体自らが発信することは、事 業内容の周知や参加者募 集など、団体活動の活性化 へとつながり、市の文化芸術 の発展に寄与するため、補 助金交付(事業No.11)に含 む)により文化団体の活動を 支援する。	補助金を活用して機関紙を発行し、近 江八幡市文化団体連合会の活動内容 の報告や参加の呼びかけ等を行い、広 く市民に周知するほか、各種事業にお いては案内チラシ等を作成し、配布す る。	【最終:令和7年度】 文化団体連合会構成団体の 活動や文化情報を幅広く市 民に発信する。 【目標設定の理由】 構成団体の活動の活性化と 身近に文化芸術に触れる機 会を市民に提供するため。	【事業の効果・ねらい】 熱心に活動している、発信することができなけれ ば認知されない、また、参加を呼び掛けることで、 新たに市民が文化芸術に触れる機会が増える。 【事業実績】 機関紙の発行 「文化のななかま」は第76号(近江八幡市文化協会 が発行・市内全域に全戸配付)。 「塔映」第49号(安土町文化協会が発行、安土地 域で各戸配布) その他、各美事業の案内チラシを発行し、文化 団体連合会の事業や活動について周知すること ができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 近江八幡市文化協会 で機関誌を各1回発行した ＜評価に対する数値等＞ 機関誌の発行回数:各1回	継続、旧市町の団体そ れぞれで活動形態が異 なると、安土地域での 活動は市内全域に発信 されていないことが課題 としてある。

③ 文化団体の交流の場の確保

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	市民文化祭共催事業	文化会館				(No.32参照)		

④ 文化情報のネットワークづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	各学区文化祭	各学区まちづくり 協議会(まちづくり 協働課)				(No.33参照)		
再掲	観光プランディング事業	文化振興課				(No.28参照)		

⑤ 近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課				(No.12参照)		

⑥ 図書館資料と専門職員の実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
66	読書活動推進事業 (資料収集)	図書館	「誰でもなんでも聞ける・調べられる」図書館をめざし、市民のニーズに応じた資料、新鮮で魅力的な資料を計画的に収集・保存する。	図書館資料の収集、読書環境の充実。	【最終:令和7年度】 市民一人当たりの貸出冊数:継続して前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 市民の知りたい、読みたいという読書要求に応え、市民の知の拠点としての責任を果たすため、資料整備を行う。 【事業実績】 令和4年度、市民一人当たりの個人貸出冊数は7.1冊(令和3年度:7.4冊)となった。 「図書館年鑑2023」の8万人以上10万人未満都市の部において、個人貸出冊数11位となった。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞市民一人当たりの個人貸出冊数、市に働きかける一方で、魅力ある蔵書構築やコーナー展示を行うことにより、貸出冊数の増加を図る。	資料書を県水準(県内市町図書館の平均30.4冊)に引き上げることを目指し、市に働きかける一方で、魅力ある蔵書構築やコーナー展示を行うことにより、貸出冊数の増加を図る。
67	読書活動推進事業 (雑誌スポンサー)	図書館	スポンサーのご協力を得ながら、市民に幅広く新鮮な情報を少しでも多く提供する。	図書館資料の充実をはかるため、雑誌購入代金をスポンサー(企業・団体・個人)に負担していただく代わりに、提供誌の最新号カバーに広告を掲載し広報宣伝として活用してもらう。	【最終:令和7年度】 雑誌スポンサーターゲットタイトル数:継続して前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 雑誌の受け入れタイトル数が県内図書館の中でも低いため、スポンサー雑誌によるタイトルの充実を図る。 【事業実績】 令和4年度、スポンサー雑誌のタイトル数は計34タイトルとなった。(令和3年度:23タイトル) 雑誌の充実を図ることができ、スポンサーとなっていただく企業・団体・個人の図書館運営への関心を高めることができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞スポンサー雑誌のタイトル数令和4年度は計34タイトルと大きく増加した。(令和3年度:23タイトル)	新規スポンサーの開拓及び継続して提供してもらえるよう、事業者個人に働きかけを行う。

V 文化活動の担い手の育成

1 文化を創造する人材の育成

① 後継者育成の仕組みづくりと指導者の育成

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
68	いさぎ職員育成事業	総務課	社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、市民ニーズを的確に把握し、豊かな想像力と斬新な発想から効果的な施策の推進ができる職員の育成を目指し、専門的かつ広域的な行政課題について研鑽を深めることで職員の能力開発を図る。	人材育成基本方針に基づき、OJT研修や仕事の進め方研修などの内部研修を実施し、派遣研修として、滋賀県市町村職員研修センターの階層別研修等へ派遣を行った。人事評価制度においては、能力評価の評価者訓練として対面での研修と併せて制度の研修をeラーニングで実施した。職員派遣については、滋賀県等へ派遣した。	【最終：令和7年度】 3つの姿（ふるさと愛、仲間愛、自分愛）を育む職員の育成 【目標設定の理由】 人材育成基本方針に記載している目指すべき職員像であるため	【事業の効果・ねらい】 地方公務員法第39条において、職員の人材育成基本方針、計画に基づく研修の実施が規定されているため。 【事業実績】 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係り、中止となっていた派遣研修の一部が再開となった。また、内部研修について、新規採用職員の福祉体験研修等体験型の研修や、人権問題啓発講座等の集合研修について、形式を変更しての実施となった。しかし、新規採用職員による本市の各地域に出向き、調査を行う地域調査研修や、沖島に訪れ、その地域性や特色を把握に見て学ぶなど、これからのまちづくりを推進する職員として必要となるテーマによる研修を実施した。	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 人材育成基本方針策定時から中堅職員を中心とした人材育成基本方針策定検討委員会と、アドバンサードとして招聘した日本福祉大学社会福祉学部 教授 田中優氏の意見を反映し、策定されたものであり、この計画を元に人材を育成していくため。 【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ ふるさと愛の観点で新たに実施した地域調査研修や沖島訪問により、地域文化等を学ぶ機会を創り、市民目線の育成や、地域職員の発掘の機会を、各学区などの地域文化を学ぶことができたため、今後とも積極的に取り組んでいく。	・令和3年度に改定した人材育成基本方針の改定を元へ、めざすべき職員・組織の実現に向け、効果的な研修となるよう内容の変更や一層の充実を図る。 ・人材育成基本方針策定の中で問題点として取り上げられていたコミュニケーション能力の向上について、特に注力すべき点であり、今後もそれらの能力向上を中心に、具体的な取組を積極的に推進していく。
69	バイブオルガン奏者育成事業（安土文芸の郷指定管理事業）	文化振興課（安土文芸の郷振興事業団）	滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置している文芸セミナリオで、オルガンを活用した事業を積極的に開催し活用する。	『オルガン教室』では、3年のカリキュラムでオルガン演奏の習得に努めていた。月2回のオルガニストによる個人指導で、年に2回成果発表の場を設けている。『バイブオルガンホールレッスン』では、ホールの空き日に1時間単位で個人練習やレッスンをを行う。オルガン愛好者やオルガンの演奏をしたいという希望者に応えている。ホールが工事で使用できない期間、チャータオルガンのみでオルガン教室を実施した。『オルガン見学会・総合学習』では、ホールの空き日に、30分程度の見学会を開催している。学校の総合学習では専属オルガニストが対応を行うが、一般の見学会では『オルガン教室』卒業生（市内在住）が演奏と説明を行う。希望者には演奏台まで案内を行い、オルガンに触れる機会を積極的に提供している。また、オルガン教室卒業生に活躍の場を提供している。	【最終：令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 令和4年度においては、令和3年度からの改修工事でホール使用が制限されたため、半年間事業が延長された受講生がカリキュラムを終了することができた。また、他に「ホールレッスン」、クラシックオルガン（電子オルガン）による「クラシックオルガンレッスン」を実施しました。11月以降は文芸の郷練習場にクラシックオルガンを設置し、オルガン事業を実施しました。 令和4年3月にオルガン教室第27期生（令和5年4月～令和8年3月）を募集したところ、8名の応募があり、6名を選考した。	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置してある文芸セミナリオで、オルガンを活用した事業を積極的に開催し活用する。 【事業実績】 令和4年度においては、令和3年度からの改修工事でホール使用が制限されたため、半年間事業が延長された受講生がカリキュラムを終了することができた。また、他に「ホールレッスン」、クラシックオルガン（電子オルガン）による「クラシックオルガンレッスン」を実施しました。11月以降は文芸の郷練習場にクラシックオルガンを設置し、オルガン事業を実施しました。 令和4年3月にオルガン教室第27期生（令和5年4月～令和8年3月）を募集したところ、8名の応募があり、6名を選考した。	継続実施。文化芸術の振興に係る各種事業を推進し、もって安らぎと活力あるより良い地域社会の創造に寄与するため、滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置した「オルガン見学会・総合学習」を開催し、演奏台の案内などオルガンに触れる機会を積極的に提供している。また、オルガン教室卒業生に活躍の場を提供している。

② 子どもたちの文化創造体験の拡充

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
70	青少年美術展覧会	学校教育課	市内の幼児・児童生徒の作品を展示し、子どもの豊かな心構を育むとともに、市内校園所における図工・美術・書写教育の振興と文化の向上を図る。	小中教育研究会と共催で、平面・立体・書写の3部門において各審査員による審査後、特選（県小中教育研究会優秀賞含む）を決定する。また、入選作品を3日間文化会館（小ホール、2階展示室）で展示し、児童生徒だけでなく、多くの世代の方に鑑賞していただけるようにする。	【最終：令和7年度】 出品数：1,400点 【目標設定の理由】 参加状況を測るため	【事業の効果・ねらい】 毎年、市内保育園、こども園、幼稚園、小・中学校より1,300名以上の出品があり、校種を超えた子どもたちの貴重な学びの機会であるとともに、多くの世代の方々に鑑賞いただく機会となっている。 【事業実績】 各校園所の子どもの素晴らしい作品を審査員各校園所に見ていただき、教員は審査員の先生方から直接、ご指導を受けることができ、講評を各校園所に伝えることで、今後の書写教育、図工・美術教育の指導や学習に生かすことができた。子どもたちは、異学年の作品を鑑賞することで学びにつながり、今後の作品作りへの意欲を高めることができた。市民の方々には、各校園所での取組を知っていただく機会となった。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 各校園所より1,353点の出品があったため ＜評価に対する数値等＞ 目標1,400点に対して1,353点 【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞ 前年度7,936人の来場者が8,179人に増加したため。 ＜評価に対する数値等＞ 8,179人の来場があった。 【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ 79%の各校園所から出品があったため。 ＜評価に対する数値等＞ 市内43各校園所のうち34校園所	事業の継続。今年度は感染症対策をして文化会館で開催することができ、今後も、市内で多くの方に子どもたちの作品を見ていただく機会を、賞しあう機会を作り、芸術性の向上や創造力を育めるようにする。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
71	アートで広げる子ども の未来プロジェクト事 業	文化振興課	令和4年度からの新規事業。 教育現場において基礎学力 重視の風潮が高まる中、芸 術分野の科目は削減傾向に あり、子どもたちが多様な文 化活動の中で自己表現や自 己実現する機会が減少して いる。子どもたちの感性を磨 き、豊かな創造性と独創的な 自己表現を育む芸術体験を 提供し、次代を担う子どもた ちに、文化や芸術を体験する 機会を積極的に創出するこ とで、文化の薫り高いま ち、文化芸術創造都市の実 現に欠かせない人材の育成 に、文化芸術創造都市の事 業。	【学校連携プログラム】BIWAKOピエ ンナレ2021の参加アーティストを、 WSの特別講師として希望校へ派遣。 文化芸術体験の出前授業。 【芸術鑑賞プログラム】市内公立小学 校6年生全児童を対象として、文化会 館大ホールを会場に、オオサカ・シオ ン・ワインド・オーケストラによる音楽鑑 賞会を行う。同楽団員等による楽器講 習会を、市内公立4中学校(吹奏楽部) 及び岡山小学校(マーチングバンド)に 対して行う。 【外壁アートプログラム】文芸セミナリヨ の外壁改修工事に合わせ、外壁の一 部にアートをデザインする子ども向け WSを実施。成安造形大学との連携事 業。	【最終：令和7年度】 体験者数：毎年度3,500人。 令和4年度から7年度の累計 数：11,000人。 【目標設定の理由】 優れた文化芸術に直接触れ る機会を創出し、子どもたち の芸術教育、文化体験の充 実を図る。	【事業実績】 【学校連携プログラム】ワークショップを市内3校に 実施。(コーポリアルマイルWS、金田小学校4年生 150人、八幡中学校2年生228人、ロゼット制作WS： 武佐小学校6年生32人) 【芸術鑑賞プログラム】「音楽鑑賞会」…公立小学 校6年生全児童・教諭850人を対象とし、音楽鑑 賞会を実施。「楽器講習会」…公立小・中学校5校 212人を対象に、同楽団員等による楽器講習会を 実施。 【外壁アートプログラム】成安造形大学との連携協 定により、文芸セミナリヨの外壁改修工事に合わせ て外壁にアートをデザインするワークショップを、市 内小学生67人を対象に計3回実施。	【評価項目】子ども・若者の参加状況 <自己評価> 2 【評価理由】>【学校連携プログラム】事業開始初年 度は、アウトリーチ事業形式のWSを実験的に3校に対 しワークショップを実施した。今後は、対象校の範囲を 広げ、WSのメニューを増やし、市内公立小・中学校に 文化振興を生かした地域の魅力向上による郷土愛の 醸成を図る。 【芸術鑑賞プログラム】対象範囲を広げ、今後は小学 校高学年(4～6年生)を対象に、舞台芸術鑑賞事業を 実施する。	事業開発を行います。地 域おこし協力隊を活用し た、学校での事業実施に ついて検討します。
再掲	音楽振興事業	文化振興課				(No.34参照)		
③ 地域文化振興の担い手の育成								
2 文化によるまちづくり								
① 市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興								
番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸 館)	図書館				(No.54参照)		
再掲	文化会館管理事業 (貸館)	文化会館				(No.55参照)		
再掲	文化団体活動支援事 業	文化振興課				(No.11参照)		
② 地域の文化団体による文化活動の推進								
番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	文化団体活動支援事 業	文化振興課				(No.11参照)		
再掲	各学区文化祭	各学区まちづくり 協議会(まちづくり 協議課)				(No.33参照)		

③ 学校教育における文化活動の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課					(No.12参照)	
再掲	図書館運営事業(ブックトーク)	図書館					(No.37参照)	
72	図書館運営事業(学校図書館活用支援事業)	図書館	市内の小中学校の図書館活動を支援する。	授業で使う資料や、学級文庫として使う資料を、求めに応じて市内公立小学校・中学校で団体貸出を行う。	【最終:令和7年度】 学校の団体貸出冊数前年度比100%以上 【目標設定の理由】 学校図書館をどのくらい支援したかを数値で測るため	【事業の効果・ねらい】 調べ学習などにより、生徒自らで資料を探し、調べることが増えており、学校図書館の利用が多くなってきた。公共図書館としては、学校図書館を補う形で、先生や学校司書の求めに応じて授業や学級文庫で使用する資料を貸し出ししている。学校図書館の資料には数々資料の種類にも限りがあるので、それを補う必要がある。 【事業実績】 小中学校への団体貸出冊数 令和4年度・・・2,271冊 令和3年度・・・1,411冊 令和2年度・・・1,313冊 令和元年度・・・1,382冊	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞小中学校への団体貸出冊数が令和4年度は2,271冊となり、前年度の1,411冊を大幅に上回った。これは、学校司書が積極的に資料を求めてきたことも理由に挙げられるが、それに対し、迅速、かつ的確に対応し、信頼関係を築けたことも利用に繋がった。 令和4年度・・・2,271冊 令和3年度・・・1,411冊 令和2年度・・・1,313冊 令和元年度・・・1,382冊	引き継ぎ、求めに応じて団体貸出を行い、学校司書の相談に応じる。限りある蔵書なので、学校図書館にも必要な資料を購入してもらい、連携をとりながら、学校図書館を支援する。
再掲	音楽振興事業	文化振興課					(No.34参照)	

④ 医療機関、福祉施設等との連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	やよいコンサート	総合医療センター 総務課					(No.44参照)	
再掲	絵画展示	総合医療センター 総務課					(No.45参照)	
73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課(市民共生センター)	高齢者や障がい者の団体やサークル等の活動の提供	センターの貸館事業や自主事業講座の開催および、絵画や書道等の作品展示。	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指す。 【目標設定の理由】 本施設の設置目的に基づく。	【事業の効果・ねらい】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指すため。 【事業実績】 月平均利用人数:1,993.7人 前年比:+30.2% 新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、緊急事態宣言に伴う貸館停止も無かったことから、前年度と比較して利用者が大幅に増加した。このため、利用状況がコロナ禍前に回復しつつあると考えられる。	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞高齢者・障がい児者を中心とした団体のみならず、一般市民によるサークル等の利用も数多くあったことから、「文化によるまちづくり」について、十分な効果を果たしたと考えられる。	・築10年が過ぎ、設備の老朽箇所が増加しているため、利用者が安全・安心して利用できる施設の維持管理。 ・引き継ぎ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、安全・安心して利用できるよう、入館時の手指消毒や、センター内で換気を行う等、感染症対策を徹底する。

⑤ 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取り組み

VI 協働の仕組みづくり

1 文化施設の有効活用

① 文化会館の利用促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	市民文化祭共催事業	文化会館				(No.32参照)		

② 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
74	近江八幡市文化振興 審議会	文化振興課	市の文化振興政策を総合的かつ計画的に推進し、個性・個性及び活力の豊かな地域の文化の実現に寄与するため、市における文化振興に関する調査・審議を行う。	・市長からの諮問に対し、会議を開催し、答申を出す。 ・会議は2～3回程度。審議員は、学識経験者のほか、公衆による市民委員で構成されている。 ・令和4年度の内容 ・文化振興基本計画進捗状況に対する意見。 ・令和5年度に実施予定の文化振興事業にかかわる意見。	【最終：令和7年度】 市の文化芸術振興を充実させ、個性及び活力の豊かな地域の文化の実現を行う。	【事業の効果・ねらい】 文化振興条例に定める文化振興政策についての目的達成や課題解決に向け、審議会議で頂いた意見や提言を基に文化振興政策の進捗管理を行うことで、一層の文化振興政策の推進を図る。 【事業実績】 文化振興審議会を開催する。 ・平成29年度 2回、平成30年度 3回、平成31(令和元)年度 3回、令和2年度 2回、令和3年度 3回、令和4年度 2回	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞目標設定の妥当性、審議会の設置目的と合致するため、妥当である。	事業継続。本市における文化・芸術の充実を図るため、より積極的な議論を提示し審議いただく。
75	文化振興基本計画進 捗管理	文化振興課	市の文化振興政策を総合的かつ計画的に推進し、個性・個性及び活力の豊かな地域の文化の実現に寄与するため、市における文化関連施策について定期的な進捗管理を行う。	市内の文化関連事業を実施する所管課に対し調査シートを配付し、前年度に行った事業についての振り返りを行う。各課からの調査シートの中から抜粋した事業を、市内で組織するプロジェクト委員会と文化振興審議会で点検評価を行い、出た意見を各課へ返す。而委員会や、各事業をとりまとめた報告書を作成し、市のホームページで公開する。	【最終：令和7年度】 市の文化振興基本計画に基づき、市の文化振興施策が実行されているか定期的に点検評価する。	【事業の効果・ねらい】 市文化振興条例に則り、市の文化振興施策を効果的に推進していくために、計画的で組織的な管理体制が必要である。 【事業実績】 プロジェクト委員会の実施(8月) ・文化振興審議会での点検評価(9月) ・進捗状況をまとめた冊子「近江八幡の文化振興」を作成し、市のホームページで公開した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞プロジェクト委員会及び文化振興審議会において、進捗状況について点検・評価を実施した。 ＜評価に対する数値等＞プロジェクト委員会：1回、文化振興審議会：1回	事業継続。 文化振興基本計画の計画期間は平成28年度から令和7年(2025年)度までの10年間であり、その間社会情勢の変革等に合わせ随時計画を見直しながら、文化芸術の振興を図っていく。

③ 施設・設備の充実等

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
76	図書館施設維持管理 事業	図書館	利用者にとって安全・安心な施設であるため、施設・設備の適切な維持管理を行う。	施設および設備の維持管理。	【最終：令和7年度】 適切な施設の管理及び計画的な修繕・改修を行う。	【事業の効果・ねらい】 適切な維持管理及び計画的な修繕により、施設の長寿命化を図る。 【事業実績】 ・近江八幡図書館のブックポスト改修 ・近江八幡図書館の全照明器具のLED化工事完了 ・安土図書館の高圧機器更新工事完了 ・安土図書館空調機器の液面計取替工事 他、計画的な修繕を実施。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞図書館利用者の危険性や利便性を考慮し、優先度の高いものから修繕及び改修工事を行った。 ・近江八幡図書館の照明器具(LED)化により、明るい閲覧室で読書を楽しむことができ、読書環境が向上した。 ・近江八幡図書館のブックポストの改修により、受け入れ可能な返却本の冊数が大幅に増えた。 ・安土図書館の高圧機器更新工事を行い、安心して電力供給を受けられるようになった。 ＜評価に対する数値等＞年間6件の修繕、4件の改修工事を実施。	長期的な施設の利用のため、適切な修繕計画に基づいた予算確保と維持管理に努めていく。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4.妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課(市民共生センター)	利用者の利便性を図るため、施設・設備の修繕を行う。	高齢者や障がい者等の団体の団体・サークルが安心して利用できるよう施設・設備の維持管理を行う。	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者等の団体・サークルが安心して利用できるための施設・設備の維持管理 【目標設定の理由】 基本計画「VI 協働の仕組みづくり」の「文化施設の有効活用」に基づく。	【事業の効果・ねらい】 築10年以上経過しており、所々老朽箇所が増加している。 当センターは、地震等自然災害時の避難場所にも指定されているため、その機能を保持するためにも施設維持管理が必要不可欠である。 【事業実績】 下記の修繕灯信号装置用蓄電池取替修繕 ・本館 男子トイレウォッシュレット取替 ・本館 誘導灯蓄電池取替修繕 ・本館 誘導灯取替修繕 ・本館 排煙窓オペレーター修繕 ・本館 体音館非常用調修繕 ・本館 ふれあいホール天井照明取替修繕 ・本館 高圧ケーブル等取替修繕	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞今年度に関しても、修繕を要すべき箇所は修繕を行えたことから、目標に関しては十分に達成できていると考えられる。	経年劣化による施設・設備の修繕計画をまとめ、予算確保に努める。
78	文化関連施設維持管理(指定管理施設)	文化振興課	文化芸術的活動の拠点となる市内の文化施設を適正に維持管理及び運営し、利用者の満足度向上を図るため 【施設】 特別史跡安土城跡ガイダンス施設、資料館、重要文化財西川家住宅、かわらミュージアム、安土文芸の郷公園	文化施設が有効かつ安全に利用できるよう維持管理と運営を指定管理者に業務委託し、連携することで適切な維持管理を行う。 【施設】 特別史跡安土城跡ガイダンス施設、資料館、重要文化財西川家住宅、かわらミュージアム、安土文芸の郷公園	【最終:令和7年度】 施設の維持管理に必要な修繕等を実施し、施設利用者が利用しやすい環境を整える。 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 文化施設の適切な維持管理により、市民が自主的かつ主体的な文化活動が行える場を継続的に提供するため。 【事業実績】 施設の維持管理のため、適切な修繕が行えた。 【特別史跡安土城跡ガイダンス施設】多目的広場除草 【資料館】文化伝承館入ログラス戸修繕 【かわらミュージアム】男子便所壁タイル修繕、中庭植栽伐採、建築物定期点検 【文芸の郷公園】クラシックオルガン取替更新、消防用設備取替更新、レストランガラス修繕、文芸セミナリヨ建築物定期点検	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。	現状維持、施設の老朽化や災害等による破損等が生じた場合、利用者等が安全に施設を利用できるように、早急な修繕等の対応を行う。
79	文化関連施設維持管理(文化会館)	文化会館	市民の文化芸術や文化団体等の活動の場を提供し、安全で快適に利用できるよう施設の管理を行う。	施設(資材)の維持管理及び修繕	【最終:令和7年度】 市民が安全で快適に利用できるよう維持管理に努める。 【目標設定の理由】 市民の文化芸術活動の場を維持していく必要があると考えるため。	【事業の効果・ねらい】 設備が老朽化し、耐用年数を過ぎていることから、改修を行わなければならない使用上危険や不具合が生じる恐れが高いため、また、施設の適切な維持管理を行い、利用者の安心・安全確保が必要。 【事業実績】 施設の適切な維持管理を行い、施設使用者に安心・安全に利用いただくことができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞施設不備による催し中止等が発生しなかったため、目標は達成したと考える。 ＜評価に対する数値等＞施設不備等による催し中止の件	築44年を過ぎ、施設や設備の経年劣化が激しいため、順次改修等を行い、利用者が安心・安全に施設を利用できる環境を整備する。
80	文化会館整備事業(文化会館)	文化振興課	市民の文化活動の拠点となる文化会館は、建築から40年以上が経過し、施設や設備の老朽化が顕著であり、長寿命化のための大規模改修を行うこととなった。	文化会館は建築から40年以上が経過し、施設や設備の老朽化が顕著であり、市民の文化活動の拠点となる施設であることから、市個別施設計画に沿って、長寿命化のための大規模改修や、修繕等を行う。また、エレベーターや十分な数の洋式トイレが設置されていないことから、利便性を高めるための改修を行う。	【最終:令和7年度】 長寿命化に必要な工事を行う、市民の文化活動の拠点として利用する。 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 施設利用者が安心、安全に施設を利用できる環境をつくり、利便性を高めるため。 【事業実績】 各種工事等を実施し、施設及び設備の整備を行った。 【設計業務委託】 舞台照明及び舞台機構等改修工事設計業務委託 託 【工事】 舞台照明及び舞台機構等改修工事(令和5年度も継続)、トイレ洋式化等改修工事	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞文化振興基本計画において、重点事業として文化会館の利活用の促進が掲げられ、自主事業として教育や医療・福祉分野と連携したさまざまな文化振興事業の実施の検討などがあげられている。また、整備を進め、市民協働での取組の推進や自主事業のあり方を含めた運営についての検討を進めている。	老朽化が顕著な舞台照明や舞台機構をはじめとした改修を行い、市民の文化活動の拠点にふさわしい施設として維持できるよう、順次整備を進める。また、整備にあわせ、市民協働での取組の推進や自主事業のあり方を含めた運営についての検討を進めている。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
81	文芸セミナー等長寿 命化整備事業	文化振興課	建設から30年が経過し、老朽化が顕著な安土文芸の郷公園の各施設について、平成28年度に策定した「安土文芸の郷公園長寿命化計画」に沿って、社会資本総合整備交付金等を活用して、文芸セミナー、安土城天主信長の館等の信長の館等の大規模改修を計画的に実施することとなった。(体育施設はスポーツ推進課が担当)	平成28年度に策定した「安土文芸の郷公園長寿命化計画」に沿って、社会資本総合整備交付金等を活用して、文芸セミナー、安土城天主信長の館等の大規模改修を実施する。	【最終:令和7年度】 長寿命化対策に伴う工事を完了し、公園施設利用者が利用しやすい環境を整える。 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 安土文芸の郷公園長寿命化計画に沿って実施し、施設の長寿命化のための整備を行った。 【実施設計委託】 文芸の郷外構等改修工事設計業務委託 【改修工事・監理委託】 安土城天主信長の館改修工事 文芸セミナーリノベーション壁改修工事 (令和5年度も継続)	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞計画通りに長寿命化対策を実施できている。 (参考)今後の計画 令和5年度・6年度で30施設についての長寿命化対策実施。 ＜評価に対する数値等＞22/54(令和4年度までに長寿命化対策が終了した施設数/長寿命化対策が必要な施設数)	事業継続。 施設利用者に安心して利用いただくため、安土文芸の郷公園の長寿命化計画に沿って、順次、施設改修及び設備の更新を行う。

④ 県・近隣市町との交流・連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
82	信長サミット	観光政策課	織田信長との関わりを大切にし、魅力あるまちづくりを目指すことを目的とし、加盟市町との交流を深めると共に、サミット会場において、加盟市町から自治体のPRを行う。	織田信長にゆかりのある市町との交流を進め、歴史、観光、文化、産業の振興を推進する。 具体的には、それぞれの市町の観光部局の担当者会議及びサミットを開催している。(担当者会議、サミットともに2年に1度)	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 織田信長公ゆかりの関係市町が一堂に会し、観光・文化・産業の振興を根幹とするまちづくりを共に考え、交流を深め、まちづくりに対する思いを共有できる貴重な事業となっているため。 【事業実績】 サミットは2021年に一度のため、令和4年度は開催なし。次回は令和5年度に小牧市で開催予定(令和5年9月16日)。	<自己評価> <評価の理由> >-	新型コロナウイルス感染症により、観光のあり方が変化しており、その変化に対応した形で本市の観光資源をPRすることが課題である。 また、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」の放送に向けて、サミットの継続することで加盟市町の連携強化、歴史、観光、文化、産業の振興を一層図る。

④ 県・近隣市町との交流・連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
83	広域観光および友好 都市交流事業	観光政策課	周辺市町・関連自治体の観光施策と連携し、宿泊型・滞在型観光を促すとともに広域連携による他団体がもつ観光資源を活用して効果的な観光振興を図る。	広域の観光協議会等に参加し、果城及び広域的な観光振興を推進し、効果的な事業及び情報宣伝活動を展開する。(公社)ひわこビジュアルズコミュニティ(果城)、歴史街道推進協議会(近畿園城)、信長公居城推進協議会(岐阜市・小牧市・津須市)、東近江観光振興協議会(東近江地域)、滋賀ロケーションオフィス(果城)との相互協力により、観光パンフレットや各種Web掲載等の観光情報の発信を行う。	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 本市の観光が比較的時間の見て回り中心から、宿泊・滞在型へ転換を図る方策として、広域連携による観光資源の相互活用やそれらの情報発信を広域的に行うことが有効である。 【事業実績】 広域の観光協議会等に参加することで新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも広域的な情報収集及び情報発信を実施することができた。	【評価項目】 <自己評価> - <評価の理由> -	参画市町と密に連携をとり、新しい生活様式に即した滞在・周遊型の観光商品企画や、感染症による影響が収束後を見据えた取組を実施する。
再掲	ヴォーリス建築文化 ネットワーク	文化振興課				(No.62参照)		

2 市民との協働

① 市民文化活動への支援の拡充

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸館)	図書館				(No.54参照)		
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課				(No.11参照)		
84	文化関連事業に対する後援	文化振興課	全国の自治体において、文化等の振興、その他福祉の増進に寄与する目的を特った事業に対し、後援名義の使用承認及び市長賞等の交付を行っている。	事業等の実施により、市政の発展と向上に大きく寄与すると見込まれる内容に対し、後援及び賞状交付の基準に合致する事業について、後援名義の使用承認及び市長賞等の交付を行う。	【最終: 令和7年度】 _	【事業の効果・ねらい】 団体等が主催する各種の事業や行事等に対し、市がその趣旨に賛同し奨励の意を表して後援名義を使用承認することで支援し、当市の推進する施策と関連した事業の顕在化を図り、文化振興の目的達成を目指す。 【事業実績】 令和4年度において、文化振興課で事務手続を行った件数は22件。(当市全体では72件、令和3年度では16件)。 各主催団体において、本市の後援名義使用承認を受けた事業については、信頼性を高く得られる結果につながっている。	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞各主催団体において、本市の後援名義使用承認を受けた事業については、信頼性を高く得られる結果につながっている。	文化振興課で後援名義使用を承認・非承認を審査する文化事業等については、件数が市民の文化活動等の活発化を推し計る指標となる。継続して後援承認業務を行う。

② 市民が主役の文化振興の仕組みづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸館)	図書館				(No.54参照)		
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課				(No.11参照)		

③ 市民参画・協働型事業の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
85	広聴事業 未来を築く 提言	秘書広報課	市民の市政へのアイデアや提言を聴き、市政に反映させる。	市長とはちまんと夢トークの開催や、市長への手紙等の対応。	【最終: 令和7年度】 市民の提言を参考に、市民に寄り添った市政運営に努める。 【目標設定の理由】 _	【事業の効果・ねらい】 市民の市政へのアイデアや提言を聴き、市政に反映させるため。 【事業実績】 市長への手紙では、ゆかりのある偉人の資料展示や豊臣秀次公居館跡の整備などの提案を受けた。	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞提言をそのままだ政策に反映することは困難であるが、意見を参考とした市政運営に努めている。	事業継続。市長への手紙を中心に、市民の意見を丁寧に伺い、市政への反映を検討する。
86	図書館資料リサイクル	図書館	令和2年度より事業開始。近江八幡市立図書館除籍基準に則り、長年廃棄本を古紙回収に出していたが、図書館において一定の役目を果たした本を必要としている人に活用してもらうことを目的に、公募した市民団体へ無償譲渡し、安価な価格で販売し、得た収益を市民に還元する事業を実施する。	近江八幡市立図書館におけるリサイクル資料を活用した市民提案事業により、市民団体に図書館の除籍本を譲渡し、リサイクル販売の収益をもとに、市民への還元事業を行う。	【最終: 令和7年度】 毎年、還元事業等を実施する。 【目標設定の理由】 _	【事業の効果・ねらい】 令和4年度は、近江八幡市でのリサイクル販売とともに、移動図書館イベントでの出張販売や、安土図書館での無人販売も行った。販売冊数3,940冊、販売金額136,540円。 この収益により、尾野三千代氏講演会や声優朗読劇の開催、スポンサー雑誌の購入、図書館の環境美化を行っていただいた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞事業実施目標を達成した。	継続実施する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
87	近江八幡市障がい児 者の居場所づくり事業	障がい福祉課(市 民共生センター)	障がい児者の居場所(余暇 を過ごすための場所)につ いては、障がい児者・地域自 立支援協議会余暇活動支 援プロジェクトチーム、障が い福祉施設整備検討部会等 の課題でもあり、特別支援学 校保護者の会からの要望も あがっている。また、当事者 及びその家族においても、こ 公共の施設等に長時間通 すことは、周囲への配慮等 により難しく、雨等で屋外で 過ごせない場合、行く場所 が無いとの要望があった。こ れを踏まえて、障がい児者 が気軽に訪れることができる 場所を確保するため、令和4 年10月より、「近江八幡市障 がい児者の居場所づくり事 業」を開始した。	障がい児者に向けて、運動・遊戯・休 息・交流等の為の場所を提供する。	【最終:令和7年度】 障がい児者及びその家族等 が抱える、居場所に関する悩 みの解決。 【目標設定の理由】 本事業開始に至った要望等 に基づく。	【事業の効果・ねらい】 ・障がい児者及びその家族等が抱える、居場所に 関する悩みの解決の糸口となる。 ・当事者同士及びその家族との交流の機会を提供 する。 【事業実績】 令和4年度については、月1回、第3水曜日に実施 した。 ・10月 6名(参加者2名、同伴者2名、協力者2 名) ・11月 19名(参加者6名、同伴者6名、協力者7 名) ・12月 14名(参加者4名、同伴者4名、協力者6 名) ・1月 11名(参加者4名、同伴者4名、協力者3 名) ・2月 25名(参加者10名、同伴者11名、協力者4 名) ・3月 29名(参加者13名、同伴者13名、協力者3 名)	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥 当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞本施設当初は参加者数は少なかつた が、回を追うごとに増加していることが見受けられる。障 がい児者が余暇を過ごすための居場所として、当事者 及びその家族達との交流の場としての機能がある程度 働いていると考えられる。	・広報、HP、公式LINE等 を活用し、より多くの障が い児者の参加を呼び掛 ける。 ・利用者が飽きることなく 長期間に渡る参加を促 すため、会場のレイアウト 等に工夫を凝らす。

(参 考 资 料)

(前文)

近江八幡市は、世界有数の古代湖である琵琶湖とその内湖、水路などに象徴される景観と多様な動植物の生態がみられる豊かな自然に抱かれている。

歴史文化に目を向ければ、古来よりの歌どころである老蘇の森、県内では最古最大級の瓢箪山古墳、戦国の雄たちの居城であった観音寺城、安土城、八幡山城など、著名な史跡に恵まれ、中山道、朝鮮人街道、八風街道などの陸路と湖上水運の要所として人と物資の往来が絶えず、いつの時代にあっても豊かな生産力が維持されていた。

このような豊かさを背景に持つわたしたち近江八幡市民は、自然や風俗・習慣・歴史などの文化の恵みを、市民共有の財産としている。社会をめぐる諸条件の変化により、伝統的な文化や価値観の継承が困難となりつつある今日、次の世代に引き継ぐこと、また様々な新しい文化を理解し調和させていくことなど、意識的な取り組みが必要となっている。そのために、私たちは地域の歴史と風土に学び、地域の良さをあらためて認識することに努め、それらを活かした多彩な文化活動の振興を図るものとする。

(目的)

第1条 この条例は、文化の振興に関し、基本理念を定め、市及び市民の役割を明らかにするとともに、文化の振興に関する施策（以下「文化振興施策」という。）の基本となる事項を定めることにより、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、もって個性及び活力の豊かな地域の文化生活の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 文化 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及び電子機器等を利用したもの。）等の芸術、地域において継承されてきた文化的資産（有形及び無形の文化財、生活文化等）、人々の生活とともに形成されてきた魅力ある風景等をいう。

(2) 文化活動 文化を創造し、若しくは享受し、又はこれらを支える活動をいう。

(基本理念)

第3条 文化の振興に当たっては、次に掲げる事項を基本理念として取り組むこととする。

(1) 文化活動を行うことが市民の権利であることに鑑み、市民が等しく文化活動に参加できる環境の整備が図られなければならない。

(2) 市民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重されなければならない。

(3) 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。

(4) 先人たちの営みによって築かれた文化が市民共有の財産としてわかちあわれ、次代に引き継がれるよう配慮されねばならない。

(市民の役割)

第4条 市民は、文化活動を担う主体であることに鑑み、様々な機会を通じ相互に理解し、尊

重し、交流を深めることにより文化の振興に寄与するよう努めるものとする。

(市の役割)

第5条 市は、第3条に定める基本理念に基づき、文化振興施策を総合的に策定し、及び実施するものとする。

2 前項の規定による文化振興施策の策定及び実施に当たっては、次に掲げる事項について十分に配慮しなければならない。

(1) 広く市民の意見が反映されるようにすること。

(2) 文化活動を行う団体及び個人（以下「団体等」という。）では実施が困難なものに取り組むこと。

3 市は、文化振興施策の策定及び実施のために必要な体制の整備、財政上の措置に努めるものとする。

4 市は、市が実施する各種の施策において、文化振興を図る視点を取り入れるよう努めるものとする。

5 市は、団体等の自主性及び団体等が行う文化活動の多様性に十分に配慮しながら、当該文化活動及びその相互の連携が促進されるよう、助言、環境の整備その他の支援を行うものとする。

(文化振興基本計画)

第6条 市長は、文化振興施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、文化の振興に関する基本的な計画（以下「文化振興基本計画」という。）を定めるものとする。

2 文化振興基本計画は、文化振興施策の大綱その他文化の振興に関し必要な事項について定めるものとする。

3 市長は、文化振興基本計画を定めるに当たっては、文化振興施策と産業、まちづくり、教育、福祉その他の分野における施策との連携が図られるよう配慮するものとする。

4 市長は、文化振興基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、広く市民の意見を聴くとともに、第16条に定める近江八幡市文化振興審議会に意見を求めるものとする。

(多様な文化資源の把握等)

第7条 市は、独創的で優れた地域文化の形成等を図るため、地域に根ざした伝統文化、新たに創造された地域文化その他の多様な文化資源の把握、保存、継承及び活用の促進、当該文化資源に関する情報の収集及び発信その他の必要な施策を講ずるものとする。

(協働の仕組みづくり)

第8条 市は、市民が自主的かつ主体的に行う文化活動の充実を図るため、市民、芸術家等、事業者、教育機関等及び市との間における様々な協働が活発に行われるように、協働の仕組みづくり及び場の整備等を行うものとする。

(子ども、高齢者、障がい者等の文化活動の充実)

第9条 市は、全ての市民の文化活動への参加を実現するため、文化活動の範囲を制約されがちな子ども、高齢者、障がい者等が文化に親しみ、これに参加し、又は自主的な文化活動が活発に行われるよう施設の整備、支援その他の必要な措置を講ずるものとする。

(交流)

第10条 市は、文化の向上を図るため、国内及び海外との文化の交流の促進に必要な施策を

講ずるものとする。

（歴史的文化遺産）

第 11 条 市は、地域の文化財、伝統的な行事等の歴史的文化遺産の保存及び活用並びに伝統的な芸能の継承及び発展を図るため、歴史的文化遺産の調査、維持管理、修復、整備及び公開に努めるとともに、伝統的な芸能の活動の場及び鑑賞の機会の提供その他必要な措置を講ずるものとする。

（地域産業の振興）

第 12 条 市は、市民の文化活動の促進に資する地域産業の振興を図るとともに、当該地域産業による地域文化の形成を促進するため、これらに関する情報の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

（文化活動の担い手の育成）

第 13 条 市は、文化活動を担う人材及び団体を育成するために必要な施策を講ずるものとする。

（文化的都市景観の形成）

第 14 条 市は、文化及び自然に配慮し、周囲の自然環境及び地域の歴史的景観と調和のとれた都市景観の形成に努めるものとする。

（顕彰）

第 15 条 市は、文化の振興に関し功績のあった団体等の顕彰に努めるものとする。

（審議会）

第 16 条 市における文化振興に関する事項について調査及び審議するため、近江八幡市文化振興審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査及び審議する。

（1）文化振興基本計画の策定に関する事項

（2）その他文化の振興に関する重要事項

3 審議会は、文化の振興に関する事項について、市長に意見を述べることができる。

4 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、市長が次に掲げる者のうちから委嘱する。

（1）学識経験を有する者（文化に関し識見を有する者を含む）

（2）公募による市民

（3）その他市長が必要と認める者

5 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

（委任）

第 17 条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

2. 令和5年度近江八幡市文化振興審議会委員名簿

(敬称略、順不同)

	氏名	所属等
会 長	中 川 幾 郎	帝塚山大学名誉教授
副会長	辻 喜 代 治	成安造形大学名誉教授
	國 松 完 二	近江八幡市図書館協議会会長
	浅 岡 徹 夫	近江八幡市文化団体連合会会長
	大 西 実	文化遺産として松明を次世代へ贈る会会長
	大 橋 亮 介	NPO ひむれ和太鼓プロモーション理事長
	田 邊 佳 伸	安土町文芸の郷振興事業団理事長
	土 田 康 人	公募委員
	大喜多 悦子	近江八幡市教育長

3. 令和5年度近江八幡市文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員名簿

(敬称略、順不同)

所属	職名	氏名
人権・市民生活課	課長補佐	片 山 香 織
環境課	主任主事	太 田 崇 央
教育委員会 学校教育課	指導主事	岡 本 賢 治
教育委員会 生涯学習課	課長補佐	青 木 佳 代
教育委員会 図書館	主査	世 古 淳
観光政策課	主査	鳥 井 彩 望
まちづくり協働課	主査	北 川 直 哉
文化会館	主事	津 田 雄 一
総合政策部 文化振興課（文化財保護G）	副主幹	森 山 宗 保

事務局：総合政策部 文化振興課（文化振興G）